

内務省記録
 地方昭和七年
 法令例規解
 釋決定参考
 一類 北海道
 神奈川

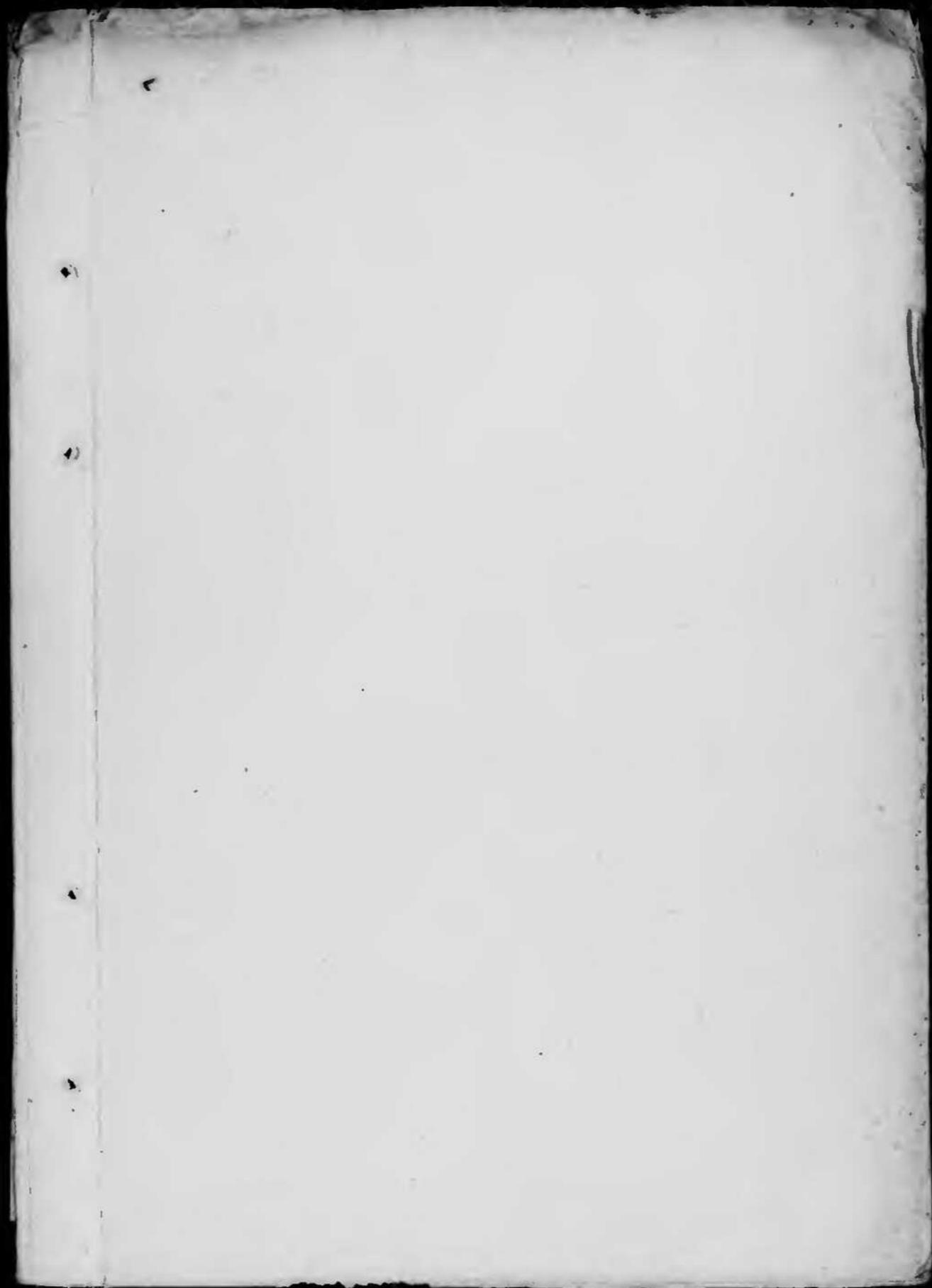
公文編年録八八九

記録掛ノ許可ナク編冊
 等ノ文書ヲ拔取ヲ嚴禁

記録科

国立公文書館
 自治省
 分類 (48)
 3 A
 排架番号 13-7
 59

59



地名 部 名 月 日 番 號 書 別

地方部 法令例規 解釈決定参考 至神奈川

一類 八八九

北留萌支廳事務監査復命

七 北地三五二

北海道一級町村制施行地指

定 告示九六号 七 北地八五二

内務省

東區會設置件照復

七 北地八四三

市町村吏員退職給與金支給件

七 北地二六五

講評

今回常務事務監査終了ヲ告ケタルヲ以テ其ノ結果ニ付茲ニ大体ノ講評ヲ
試ミ支廳長以下吏員各位ノ参考ニ供シ併セテ將來施政上ニ一段ノ考慮ヲ
煩ハス所アルヘシ

先ツ廳中一般ノ狀況ニ就テハ廳員誠實勉勵各其ノ職務分ヲ尽シ事務ニ鞅
掌シテ作マサルノ氣風アルハ最モ欣快トスル所ナリ、常務ニ對スル監査
ハ昭和二年ニ於テ施行シタル所ナル力當時ノ狀況ト比較スルトキハ全般
ニ涉リ事務ノ整理執行等概シテ成績向上セラレアルヲ見ルト雖亦更ニ改
善整理ヲ要スル點ナキニアラサルヲ以テ將來益々上下相一致シテ事務ノ
研究改善ニ意ヲ用ヒ特ニ處分裁量等ノ事務ニ就テハ其ノ根本ノ調査研究
ヲ怠ラス之力正體ヲ期スルコトニ留意セラレムコトヲ望ム

町村行政監督事務ニ關シ之ヲ通觀スルトキハ概シテ成績良好ナリ、就中
事務監査ノ勵行内務事務ノ整備等ノ關係ニ就テハ前回監査ニ對比スルト
キハ著シク進境シタルヲ見ル、將來一層ノ努力ヲ要望スル所ナリ

廳中事務ノ
整理執行概
テ良

町村行政
監督事務
ニ關シ

町村財政ニ
關シテハ
相當改善
整理ニ意
ヲ用ヒラ
レタル跡
ヲ見ル

基本財産支
消セムト
スルハ財
政上余儀
ナキ措置
ナリト認
ムルモ一
端支

北海道廳

町村財政ニ關シテハ相當改善整理ニ意ヲ用ヒラレタル跡ヲ見ル
モ管内町村中天鹽町ハ住宅建設資金及自作農創設資金ノ轉貸金回收成績
不良ノ爲昭和五年度ニ於ケル其ノ償還金一萬五千二百二十二圓中六千三百
七圓餘ヲ償還シ餘額ハ未償還ノ儘決算ヲ了シタル力如キ、又初山別村ハ
納税成績不良等力原因シ收支ノ均衡ヲ得サル爲昭和五年度ニ於ケル收支
決算ヲ未タニ終了ヲ見サルカ如キ狀況ニアルハ甚タ遺憾トスル所ナリ、
特ニ各種ノ轉貸資金回收狀況ノ不良ナルハ其ノ將來ニ於ケル町村財政ヲ
シテ危殆ニ逼クモノト認メラルルヲ以テ此ノ點格段ノ留意ヲ拂ハルルハ
勿論此ノ兩町村ノ財政整理ニ關シテハ速ニ適應ノ措置ヲ尽シ將來ニ於ケ
ル財政上ノ指導監督ニ就テモ更ニ一層ノ考慮ヲ拂ハレムコトヲ望ム

町村基本財産ノ造成管理狀況ヲ見ルニ町村ニ於ケル各般ノ事業經營ノ爲
基本財産ヲ支消セムトスルハ財政上余儀ナキ措置ナリト認ムルモ一端支
消シタル後ニ於ケル積戻ノ成績一般ニ良好ナラサルノ傾向ニアリ常管内
ニ於ケル此ノ關係ハ尤モ甚シク僅ニ焼尻村ヲ除ク外各町村共ニ毎年度積
戻ノ繼續ヲナシ或ハ支消後余ク補填ヲナササル町村多數アルハ財産造成

収後、公金帳
敬

過者、是後、
依収後、不
所對多

教育事務
良

後計事務
良

上甚タ遺憾トスル所ナリ、基本財産ノ支消ハ町村ニ於ケル財政上ヨリ見
ルトキハ一種ノ起債ニ類スルモノナルヲ以テ其ノ積戻ノ計劃等ニ於テモ
起債同様ノ考慮ヲ拂ヒ以テ其ノ將來ノ財政ニ影響ヲ及ホササルコトニ留
意ヲ要スルモノト認ム、之カ改善ニ關シ一層監督ヲ嚴ニセラレムコトヲ
望ム

町村吏員ノ不正行爲ノ防止ニ關シテハ豫テ指示注意セシ所ナルカ當管内
ニ於テハ最近小平養村收入役ノ公金帳領事件ノ發生ヲ見タリ、吏員ノ不
正行爲ハ町村ノ信用ヲ失墜シ延テ行政各般ニ影響スルコト甚大ナルモノ
アルヲ以テ更ニ格段ノ留意ヲ拂ハレムコトヲ望ム
昭和五年度ニ於ケル町村過年度收入徴收成績ヲ觀ルニ調定總額ハ八千
余圓ニ對シ收入済額一萬七千余圓ニシテ此ノ收入率合僅ニ一割八分ナリ
而シテ之ヲ豫算額トノ關係ヲ見ルニ豫算總額二萬七千余圓ニ對シ一萬余
圓ノ收入缺陥ヲ來セル狀況ニテ其ノ成績良好ナリト謂フヲ得ス、之ヲ各
町村ニ就テ見ルトキハ羽幌、天鹽、留山、苦前ノ各町村ハ甚シク劣等ニ
シテ羽幌町ノ如キ一萬二千余圓ノ調定ニ對シ僅ニ七百二圓余ノ收入ヲナ

北海道廳

シタルニ過キサルカ如キ狀況ニアルハ甚タ遺憾トスル所ナリ、之カ整理
ニ關スル指導監督並收入ヲ過大ニ豫算ニ計上シ爲ニ收入缺陥ヲ來スカ如
キ關係ニ就テハ一層ノ考慮ヲ拂ハレムコトヲ望ム
教育事務ハ漸次多岐多様トナリ年々其ノ量ヲ増加スルニ拘ラス極メテ少
數ノ係員ニ於テ總テノ事務ヲ比較的敏捷ニ處理セラレ諸帳簿ノ整理保管
亦相當努力セラレ諸帳簿シ跡ヲ見ルハ欣快トスル所ナリ、尙學齡兒童ノ
就學狀況ハ一般ニ良好ナルモ昭和六年度ニ於テ疾病ノ爲癩豫免除三十九
ヲ算スルハ兒童賃働上更ニ考慮スルノ要アリト認ム、就學兒童出席率合
ハ毎年九十五パーセントヲ越上下スルハ敢テ不良ト言フヲ得サルモ更ニ
適當ノ獎勵方法ヲ講セラレムコトヲ望ム
又視學ノ視察本年一月ヨリ二十四校ニ及ヒシハ可良ト認ム、視學存置ノ
本旨ニ鑑ミ教育ノ指導監督上更ニ一段ノ努力ヲ挑ハレムコトヲ望ム
納計事務ハ概シテ成績良好ニシテ殊ニ各種調査ヲ正確ナラシムル爲大正
十五年支應訓令第五號ヲ以テ納計事務取扱手續ヲ定メ成規ニ基ク報告書
ノ審査資料ヲ需メ一層正確ヲ期セムトスルハ頗ル機宜ニ適セルモノト認

耕地作地而後
手減七

商工一層事務
概シ其好大
商工事務
移シ居カス

水産事務
良

畜産事務
高

ムルカ特ニ資源調査令施行以來一般統計數字ハ資源調査ノ根幹ヲ爲スル
至レルヲ以テ茲ニ留意シ一層確實迅速ヲ計リ統計事務ノ完備ヲ期セラレ
ムコトヲ望ム

本管内ニ於ケル農業ハ水産業ニ次クノ主要産業ニシテ作付面積二萬余町
キ年産額二百余萬圓ニ達スルモ之カ進展ノ狀況ヲ見ルニ必ラスシモ樂觀
ヲ許ササルモノアリ即チ産額ニ於テハ物價低落ノ影響ニ依リ漸減スルハ
止ムル得ストスルモ其ノ作付面積ニ於テ昭和五年ヲ除ク數年間ハ年々減
少スルノ狀態ナリ、是レ本管内ニ於ケル地勢ノ關係上農業ノ豊凶ニ左右
セララルコト多キニ依ルヘシト雖又一面新開地ヲ有スル地域トシテ斯
クノ如キ狀況ヲ見ルハ遺憾トスル所ニ付更ニ一段ノ考慮ヲ拂ヒ本管内農
耕適地七萬町キノ開發ニ努力セラレムコトヲ望ム

商工一層事務ニ關シテハ其ノ事務處理狀況書類ノ保存方法等指シテ良好
ナリ、然レ其本管内ニ於ケル商工業ノ發達ノ程度ハ極メテ幼稚ニシテ指
導獎勵ヲ要スヘキモノ多クアルヲ認ム、特ニ漁産物ノ豐富ナル本管内ニ
於テハ其ノ販路擴張ニ關シ大ニ營業者ノ自覺ヲ促スノ必要アリ、其ノ他
各和商工團體ニ就テハ今移一層其ノ活動ヲ促シ機能ヲ發揮セシメ益々其

北海道廳

ノ實績ヲ擧ゲラレムコトヲ望ム

水産事務ハ成績概シテ良好ナルカ特ニ漁業許可處分上ニ就テハ一層ノ注
意ヲ拂ヒ漁村ノ疲弊不況ニ對シテハ關係各種團體ト連絡ヲ保チ一層事業
ノ獎勵指導ヲ爲シ殊ニ鮭漁業ハ近年豊凶ノ差甚シキニ依リ其ノ不況時ニ
際シ之ニ備フルノ施設ヲ爲サシムル様努メラレムコトヲ望ム

畜産事務ニ對シテハ其ノ指導方針ヲ查察スルニ適宜ノ畜産方針ニ即チ管内各地
方ノ實情ヲ考察セラレ最モ適應セルモノト認メラルヲ以テ今後ト雖既
定方針ニ依リ畜産團體及町村當局ヲ獎勵指導シ其ノ實績ヲ擧ケラレムコ
トヲ望ム

向農村不況殊ニ凶作ヲ豫想セラルル現在ニ於テハ一層畜産業主ハ財政窮
迫ノ結果自然家畜ニ對スル飼養管理ヲ粗略ニスルノ慮アルヲ以テ豫メ畜
産團體ト協力ノ下ニ合理的飼養管理ニ付指導スルコトトシ出來得ル限り
經濟上ノ損失ヲ減少セシムルコトニ努ムルト共ニ畜産獎勵ノ本旨ニ悖ラ
サル様特ニ一層ノ努力ヲ望ム
當支廳ノ取扱ニ係ル道路事務ノ主ナルモノハ土木費補助、驛遞、道路占

道務事務

上述に不考、
これらに些下
ヲ控視スル
可

土地改良
此等之行政
更ニ改メテ
之ヲ要ス

河川行政事務
良

拓殖事務
時ニ取テ
偏スル
可成後
之カ

用等ニシテ之カ各般ノ事務處理ノ狀況竝其ノ成績ニ就キ考察スルニ遺法
又ハ不當等ノ所分ニ亘ルモノナキモ事務取扱上顧モスレハ此事ヲ輕視ス
ル傾向アリ爲ニ輕易ノ錯誤多々アルハ遺憾トスル所ニ付今後一層注意ノ
上事務ノ改善向上ニ努メラレムコトヲ望ム

土地改良事務ヲ査閲スルニ文書ノ處理極ネ迅速ニシテ成績概シテ良好ト
認メラルルカ土功組合ニ對スル指導監督ノ點ニ就テハ更ニ一段ノ工夫改
善ヲ要スルモノアリト認ム

抑テ土功組合ノ經營ト其ノ發展トハ本道拓殖上ノ重要ナル事項ニシテ之
カ振否ノ如何ハ其ノ及ホス所大ナルモノアリ、殊ニ近時土功組合ノ財政
窮乏ヲ告クルノ秋第一次監督官廳トシテ一層適切ナル指導監督ノ方針ヲ
確立シ以テ内容ノ充實ヲ圖ラシムル極力セラレムコトヲ望ム

河川行政事務ヲ査閲スルニ各般ニ涉リ極ネ迅速ニ處理セラレツツアリテ
不法不當又ハ著シキ錯誤飛疵等ノモノ尠ク成績良好ナリ、然レトモ其ノ
處理ノ内容ニ於テ徒ニ前例ヲ踏襲シテ改善ノ形跡アルヲ認メス近時河川
行政ハ革新期ニ入り輿論漸ク治水鉅利水ノ統制法ノ公布ヲ強調セラレ本
道亦河川法適用ノ擧唱或ハ河川取締規則、堤防敷地特別使用規則其ノ他

北海道廳

河川諸制度改廢ノ時運ニ遭遇セル秋ナルヲ以テ第一次河川行政ノ衝ニ當
ル者常ニ各法規ノ研鑽ニ努メ専ラ執務上ノ改善ノ實ヲ擧ケラルル様一段
ノ努力ヲ期待スル所ナリ、尙文書ノ整理ニ於テ多少遺憾ノ點アリ一層ノ
注意ヲ拂ハレムコトヲ望ム

拓殖事務ヲ査閲スルニ前年ニ於ケル成績ト比較シ能ク整理シアリテ成績
ハ見ルヘキモノアルモ時ニ取扱ニ粗澁アルハ遺憾トス、畢竟事務處理上
ノ注意ノ足ラサルニ基因スルモノト認ムルヲ以テ將來一層注意セラレム
コトヲ望ム

特定地域分ニ關シテハ濫濫事件ナキモ特定地ノ告示ニ對シテハ今後濫濫
移住者其ノ數ヲ加ヘ從テ出願者多數ニ上ルヘキヲ以テ貸付有資格者ニ對
シテハ迅速ニ貸付處分ヲ了シ出願者ヲシテ安意開墾ノ途ニ就カシメ小農
寮地ニ對シテハ出願者中新來移住者ニシテ未タ土地ヲ有セス土地ノ必
要ニ迫ラレ且ツ起業確實ナル者ヲ第一順位トシ之レカ處分ヲ行フニ於テ

ハ土地開墾ハ勿論拓殖上利益スル所大ナリト認ム
拓殖事務中區劃圖ハ完全ニ整理セラレ處分ノ成績ハ一見圖面上ニ表示シ
アルカ如キハ注意周到ナル所ト認ム、又賣地地分割登記未済ハ十數年前

林業事務
格別努力
ニ長

ヨリ未處理ノ儘存置シアルモノ多數アリ、目下右事務處理ニ着々歩ヲ進
メツツアルカ更ニ一段ノ努力ヲ拂ハレムコトヲ望ム
當面ニ於ケル林業事務ハ從來稍閑却セララルノ嫌ナキヲ得サリシカ專
任擔當者配置以來本道特殊有用樹種ノ交付ヲナシタルモノ十七萬七千本
、是ニヨル造林面積約五十九町キニ達シ又二千町キヲ超ユル既往造林地
ノ保育經營並道内未タ其ノ例稀レナル造林組合ヲ管内三箇所ニ設立シ良
好ノ成績ヲ擧ケツツアルハ畢竟指導督勵宜シキヲ得タル結果ニ外ナラス
ト認ム、將來更ニ一段ノ努力ヲ拂ハレムコトヲ望ム
以上ハ監査ノ結果ニ就キ其ノ大体ヲ諱評シタル所ナルカ尙詳細ニ就テハ
別ニ書面ニ依リ示達スヘキニヨリ相當措置ヲ齎書サレムコトヲ望ム

北海道廳

審理事項

一、増毛町基本財産ニ關スル件

増毛町ニ於テ漁港修築事業費ニ充當スル爲基本財産金大正十五年度ニ九萬八千二百五十八圓、昭和二年度ニ十一萬一千七百五十一圓ヲ支消シ其ノ補填ハ兩者合計五千二百五十圓二十三錢宛昭和四年度ヨリ昭和四十三年度マテ歸納積入港料ノ收入財源ニヨリ補填スヘキ計書ノ下ニ支消シタルモノナルカ昭和四、五年共ニ補填ヲナササルハ勿論之カ補填財源タル入港料ノ徴收條例ニ付テモ何等ノ規定ナキニ不拘其ノ措置ヲ盡サシメサルハ監督上甚タ遺憾ナリ、速ニ當初ノ計書ニ基キ措置スル様留意スルコト

一、基本財産支消補填ニ關スル件

町村ノ基本財産造成管理ニ關シテハ豫テ訓達ノ次第モアリ充分留意セラレツツアルコトト信スルモ管内ニ於ケル狀況ヲ査察スルニ各町村共ニ各種事業費ニ對シ基本財産ヲ支消シツツアリ右ハ町村財政上余儀ナキ措置

基本財産
補填
不収

基本財産
支消
補填
不収

北海道廳

ナリト認メラルルモ支消後ニ於ケル補填状況甚タシキ不良ノ狀況ニ在リ中ニハ毎年度繰延ニ次クニ繰延ヲ以テシ余ク補填ヲナササル向數箇町村アルカ如キハ財産造成上甚タ遺憾ナリ、右ハ單ニ町村財政經理ノ困難ニ基クモノトハ認メ難ク町村當局ノ努力如何ニヨリテハ補填ノ實績ヲ懸クル敢テ困難ナラサルモノト認ムヲ以テ將來之等ノ監督ニ就テ相當ノ考慮ヲ拂ハレ遺憾ナキヲ期スルコト
尙取扱上左記事項注意ノコト

記

1、初山町昭和四年度基本財産一時支消金三、〇〇〇圓ニ付出新開鑽期ニ於テ之カ補填ヲ爲シアルモ他方長期支消ノ基本財産補填金三、五七〇圓ノ繰延ヲ爲シアリ若シ斯クノ如キヲ繰返ストハ支消金補填ノ完了ハ差二期シ得ラレサル事トナリ適當ナラス

2、鬼鹿村昭和四年度決算剰余金三、一四〇圓余ノ内一、五八四圓ハ基本財産ニ積立ヲ爲セルカ他方全年度ニ於テ基本財産支消金ノ補填繰延ヲ爲シアリ矛盾スルカ如ク認メラルルニ付將來相當考慮スルコト

一、町村決算ニ關スル件

基本財産ノ
積戻シカ
得ニ為ニ使
テ了スニ至
ラズ

昭和五年度ニ於ケル町村決算報告ノ監査當時ニテ未提出ニアルハ増毛町、羽幌町、初山別村ノ三箇町村ナルカ増毛及羽幌ノ兩町ハ單ナル報告書ノ提出ナキニ止ルモノノ如キモ初山別村ハ同年度一般會計経理ノ爲支消シタル基本財産金四千圓中二千圓ノ積戻ヲ了シタルモ積戻二千圓ハ未入金ナキ爲補填スルコトヲ得ス爲ニ決算ヲ了スルコト能ハサルノ状況ナルカ如シ、右ハ法令ニ違背スルモノニシテ不適合ト認ム、責任者ニ對シテハ相當ノ措置ヲ進シテ今後同村ノ財政上ニ對スル監督ニ付テハ特段ナル考慮ヲ拂ハルコト

一、出納臨時検査立會人選舉ノ件

指名推選ニ在リテ
選出スル者ニ對シ
シ修其ニ及リモ
不問ニ付ス

昭和五年四月二十六日幌延村會ニ於テ執行シタル昭和五年度ニ於ケル同村出納臨時検査立會人二名ノ選舉ハ非漁港二級町村制第六十條第一項ノ規定ニ違背スル違法ノ選舉ナルヲ以テ更ニ同制第十八條第一項ノ規定ニ依リ同年七月二十三日再選舉ヲ執行シタルニ其ノ指名推薦ノ法ヲ用フル場合ニ於テ被指名者一名毎ニ之ヲ當選者ト定ムヘキヤ否ヤヲ會議ニ諮

北海道廳

ヒ之ヲ決定シタルハ同制第六十條第四項ノ規定ニ反シ違法ナルニ何レモ全會ノ同意ヲ得タルノ故ヲ以テ結果ニ於テハ區分セスシテ指名推薦セルト同一ナルニ付今回ニ限り不問ニ附スヘク、將來爲ト留意可相成旨同年八月十六日通牒シアルモ規定上明ニ違法ナル以上法規ノ命スル處ニ從ヒ相當措置セシムヘキモノトス、將來注意スルコト

一、物揚場使用料ノ件

1、増毛町ハ漁港物揚場二百十四坪ヲ該陸揚場軌道敷設ノ用ニ供スル目的ヲ以テ増毛漁業組合ニ對シ無償ヲ以テ特別使用ヲ昭和五年三月二十九日町會ニ於テ議決セリ、然レトモ同町物揚場使用條例ニハ特別使用ヲ認ムル特段ノ規定ナキヲ以テ條例ノ命スル處ニ從ヒ當然相當使用料ヲ徴收スヘキモノトス、若シ將來仍然上ノ如ク無償ヲ以テ貸付スルノ要有之モノナラニ於テハ條例ヲ適當改正ノ要アリ相當措置セシムルコト

2、増毛町ハ漁港物揚場十坪ヲ一箇年十二圓ヲ三箇年間特別使用ヲ株式會社増毛運送社ニ昭和五年三月二十日町會ニ於テ議決シ之ヲ特別使用ヲ認メタリ、然リト雖物揚場使用條例ニ特別使用料ヲ認ムル規定ナク

其ノ使用料ハ一坪ニ付一日第一區一錢五厘、第二區一錢、第三區一錢五厘ナルニ付該所定ノ解使用料ヲ徵收スヘキモノトス、仍^{若し}納上ノ如ク貸付スルノ要有之モノナルニ於テ前項同様ノ措置ヲ爲スコト

一、苦前村ハ昭和五年八月二十七日ノ村會ニ於テ同村常設委員規程ヲ改正シ其ノ第二條「委員ノ數ハ五名トシ村會議員ヨリ三名、村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ二名トス」ヲ「委員ノ數ハ十名トシ村會議員中ヨリ六名、村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ四名トス」ニ改メ其ノ附則ニ「本規程施行ノ際現ニ在職スル委員ハ昭和五年六月三十日ヲ以テ其ノ職ヲ失フ」旨ノ規定ヲ設ケ現委員ニ與ヘラレタル三年ノ任期ヲ短縮セルモ右ハ今回増員ト爲リタル委員ノ任期ヲ現委員ノ任期ト同一ニスル旨ノ規定ヲ設ケシムルヲ豫當ノ措置ト被認、將來注意ノコト

附記

第四條 委員ノ任期ハ三箇年トシ每期共全數ヲ改選ス
委員中缺員ヲ生シタル時ハ其ノ補缺選舉ヲ行フ、此ノ場合ニ於テハ其ノ前任者ノ任期ヲ繼承スルモノトス

北海道廳

臨時委員費用辨償ノ件
昭和五年一月二十一日告示報告ニ於テ漁港施設臨時委員規程第四條ニ「委員ニ對シテハ實費辨償ヲ支給ス、實費辨償及其ノ支給方法ハ名譽職吏員實費辨償額及其ノ支給條例ヲ準用ス」ト規定セリ、右ハ條例ヲ以テスヘキモノニシテ之ヲ規程ヲ以テシ議決ノミニ依リ定ムル如キハ適法ナルニ支那長ハ之ニ對シ何等ノ指示注意ヲ爲ササルハ適當ナラス、將來留意ノコト

例月検査報告ニ關スル件
町村出納例月検査報告ハ毎月通滞無ク報告セシムルニ依リテ其ノ效果ヲ察ケ得ル稜ナルカ本管内ニ於テハ著シク報告ノ遲延スルモノ少カラス、甚シキハ數箇月分ヲ一括一時ニ報告セル向アリ、如斯ハ検査報告ヲ徹スルノ意義ヲ没却スルモノニ付今後報告期限ヲ格守セサル向ニ對シテハ嚴重戒勅ヲ加フル様注意スルコト、此點ニ關シテハ前回監査ノ際千嚴ニ注意スル所アリタルニ不拘依然改善ノ跡無キハ遺憾ニ付爾今特段ノ注意ヲ拂フコト

一、臨時委員費用辨償ノ件
昭和五年一月二十一日告示報告ニ於テ漁港施設臨時委員規程第四條ニ「委員ニ對シテハ實費辨償ヲ支給ス、實費辨償及其ノ支給方法ハ名譽職吏員實費辨償額及其ノ支給條例ヲ準用ス」ト規定セリ、右ハ條例ヲ以テスヘキモノニシテ之ヲ規程ヲ以テシ議決ノミニ依リ定ムル如キハ適法ナルニ支那長ハ之ニ對シ何等ノ指示注意ヲ爲ササルハ適當ナラス、將來留意ノコト

一、例月検査報告ニ關スル件

町村出納例月検査報告ハ毎月通滞無ク報告セシムルニ依リテ其ノ效果ヲ察ケ得ル稜ナルカ本管内ニ於テハ著シク報告ノ遲延スルモノ少カラス、甚シキハ數箇月分ヲ一括一時ニ報告セル向アリ、如斯ハ検査報告ヲ徹スルノ意義ヲ没却スルモノニ付今後報告期限ヲ格守セサル向ニ對シテハ嚴重戒勅ヲ加フル様注意スルコト、此點ニ關シテハ前回監査ノ際千嚴ニ注意スル所アリタルニ不拘依然改善ノ跡無キハ遺憾ニ付爾今特段ノ注意ヲ拂フコト

尚出納検査報告ハ單ニ計數ノ違算又ハ報告期限等ニ止マラス該報告ノ結

果ニ徴シ財政上不斷ノ指撥監督ヲ加フル事ニ依リ本報報告ヲ徴スルノ意
義ヲ全フシ延イテハ不正事件ヲ防止スルノ因トナルヘキニ付此點篤ト留
意ノ上左記事項ニ付將來特ニ注意スルコト

記

(1) 町村移 對年度收入ノ未收入額多額ナル向ニ暫シテハ其ノ程度嚴重
督勵ヲ加フルコト

(2) 例月検査報告ノ遅延ニ付特ニ注意スヘキハ本管内ニ於テハ各年度
共主トシテ出納閉鎖期タル五月分ノ報告ノ遅延スル事ニテ右ハ畢竟決
算ノ關係ニ基因スルモノナルヘキモ五月分ハ最も出納狀況ノ重要ナル
月ナレハ豫定ノ期限ヲ遵守セシムニ注意スルコト

一、過年度收入認定件
留助町昭和六年度過年度收入認定額三二、一一一圓〇一ナルカ、五年度
歳入未收入額二六、九六一圓四九ト比較シ四、二四〇圓四四ノ認定差ア
ルカ如ク認メラルルカ再調ノ上相當措置スルコト

一、過年度支出ニ關スル件
天鹽、小平、二箇町村ハ毎年相當多額ノ過年度支出ヲ爲シ居レルカ、之

北海道廳

レ畢竟財政ノ窮乏ニ因由スルモノト認メラルルニ付相當考慮ヲ拂フコト
一、町村費補助ニ關スル件

本管内毎年度町村費補助額ハ年次増加シツツアルカ一般財政ヲ顧慮シ不
要ノ補助ヲ爲ササル様相當考慮スルコト

一、教育事務ニ關スル件
1、例規ノ整理研究ニ關スル件
例規トシテ保存セラルルモノノ内整理改廢ヲ要スルモノ不鮮、殊ニ大
正五年三月二十三日訓第六號全月十三日留教第五一九號通牒大正六年
十月四日支庫訓令第五號等ハ適當ニ改正ヲ要スルモノト認ム

2、諸帳簿ノ整理ニ關スル件
校總簿、通學圖簿、校舎及校地圖簿ヲ新編整備セルハ頗ル其ノ意ヲ得
タルモノナルカ其ノ他ノ諸帳簿ハ事務ノ性質輕重ヲ考慮シ適當ニ分類
整理スルコト

3、事務處理ニ關スル件
照會ニ對スル回答ニ關スル處理ハ概シテ敏捷ニ行ハレ居ルモ定期報告
ニ關スルモノハ一般ニ遅延ノ傾アリ畢竟町村役場ニ於ケル例規研究

ノ不徹底ニ基ハスルモノト認メラル、更ニ考慮スルコト

4、設備ニ關スル件
管内七〇小學校一分教場、特別教授所ヲ除ク一中屋内運動場若クハ其ノ類似ノモノ、設備ナキ學校三二校アリ、冬季トキ本道ノ設備トシテ加ル遺憾トスル所ナリ、増改築等ノ場合ハ相當考慮スルコト

5、就學奨勵金使用ニ關スル件
昭和五年度ニ於テ返納ヲ命セラレタシモノ九箇町村アリ、要スルニ町知ニ於ケル該趣旨ノ不徹底ニ基因スルモノト認メラルルヲ以テ相當考慮スルコト

6、青年訓練所ニ關スル件
管内青年訓練所入所率合ハ全道ノソ、ニ對シ不良ナラサルモ留萌町ノ四〇、三三、糠延村ノ六九、六七パーセントハ更ニ督勵ヲ要ス

一、農務ニ關スル件

1、一般農事、産業組合等ノ關係團體ヨリ上級廳ニ提出スル書類ニシテ數字ノ誤算、誤記等ニ依リテ上級廳トノ間ニ屢々照復ヲ重ヌルモノアリ、之カ經由迅速ニ當リテハ今少シク調査ヲ密ニシ徒ラニ日時ヲ費サ

北海道廳

サル様留意スルコト

2、一般ニ取扱文書處理ノ結果明力ナラサルモノアリ之カ結果ヲ明記シ苟クモ未決ノ儘放任スルコトナキヲ期スルコト

3、農會ノ會則變更認可申請書類ヲ未處理ノ儘完結シタルモノアリ、速ニ相當處理スルコト

4、農會々則ハ別ニ編纂シ變更ノ都府訂正シ必ス現行ノモノヲ知ルニ便ナラシムルコト

5、農會ノ會則中現行法規ト合致セサルモノアリ、之カ改正ニ關シ適當ノ措置ヲ講スルコト

6、農會ノ經費特別賦課方法認可ニ當リ支廳長ノ認可權限以外ニ涉ルモノアルヲ其ノ儘支廳長ニ於テ認可ヲ與ヘタルモノアリ注意スルコト

7、農會決算ノ報告ヲ受ケタルモノノ内會則ノ規定ニ反シタル繰越金、積立金ヲ爲シタルモノアルニ拘ラス何等ノ處置ヲ講セサルモノアリ注意スルコト

8、産業組合、農會、肥料等ニ關スル袋帳帳簿ニシテ加除訂正未タ完全ナラサルモノアリ注意スルコト

9、農事實行組合補助金ハ其ノ基本額ノ減少ニ伴ヒ補助金ヲ減額スルノ條件ヲ付シ事實相當減少シタルモノアルニモ不拘何等ノ虚置ヲ講ゼズ其ノ儘支出シタルモノアリ注意スルコト

一、道路橋梁改善ニ關スル施設ノ件

道路橋梁ニ關スル施設ノ如何ハ地方産業ノ發達ニ影響スル所實ニ甚大ナルヲ以テ本廳ニ於テハ莫ニ道路保護規則ヲ公布シ道路愛護ノ普及ニ努メタルニ當テハ此ノ趣旨ニ基キ鈔其ノ設立ヲ獎勵シタル結果管内十二箇町村ノ内十一箇町村組合ノ設立ヲ計タルハ誠ニ欣ハシキコトト謂フヘク、此後共各組合ヲ指導シ道路橋梁ノ大破ヲ未然ニ防キ地方自治改善ノ美風ヲ涵養シ地方交通ノ助益發達ヲ期スル様一層督勵セラレムコトヲ望ム

一、財源袋帳整理ニ關スル件

1、財源袋帳整理ニ關スル件、總物、附屬物件又ハ附屬用地ノ成功方法ニ對シ其ノ狀況ヲ記載セサルモノアリ注意スルコト

2、昭和六年三月中央遠別購置所ノ監査復命書一六年三月二十日土第 四六二號ヲ以テ本廳ニ結果報告濟一ニ依レハ官馬中昨年五月種付シ

北海道廳

タルニ受託セリト記載シアルモノ本年ニ於テ未ダ右ニ對スル何等ノ一 出產仔馬或ハ流産等一報告ナク又他ニ此ノ種ノモノアルヲ以テ嚴重 監督ノ要アリト認ム

一、官馬騾帳整理ノ件

官馬騾帳ニハ異動事項ヲ明確ニ記載シ置カサルモノ或ハ官印押捺記載 洩レノモノアリ實際ニ於テ官印ノ押捺ナキモノアリトセハ取締上困難 ノ虞アルヲ以テ官印押捺ノ上ハ洩レナク記載シ置ク様注意スルコト

一、道路占用代決分ニ關スル件

1、昭和六年四月二十四日土第四六八號指令ヲ以テ留前町所在地方官 道留前港線ニ於テ街路照燈設置目的ニテ拾箇年間留前町官田兼松 二道路占用代決許可シアルモノ三箇年以上許可スヘキ該當ノ規程ナキ ハ勿論右ハ代決權限外ノ事項ニ屬スルヲ以テ長官ニ進達シ許可ヲ受 クヘキモノト認ム

2、昭和六年六月二十九日土第一八二號指令ヲ以テ地方官道留前停車 場線ニ於テ立看板目的ニテ小樽市河原由孝ニ占用許可シタル占用料 ハ三箇月分四十五錢徴收シアルモノ二箇月分三十錢徴收スヘキモノニ

道路占用代決
者付見
ノ

付注意スルコト

- 3、道路占田代決處分ニ際シ之カ處分上ノ意見ヲ當シタル所轄土木事務所及警察署ニ對シ其ノ許可ノ旨通知ヲ爲ササルモノ多々アリ、右ハ許可ト同時ニ通知スルコト
- 4、昭和六年七月二十一日土第七七四號指令ヲ以テ羽前町所在地方巻津札幌雜内線ニ於テ廣告塔目的ニテ三箇年間初輪町加藤豊治ニ占用許可シアルモノ右ハ代決處分限外ノ事項ニ付長官ニ呈達シ許可ヲ受クル様取計フヘキコト
- 5、町村道路線認定告示報告ノ件
町村道路線認定認可ヲ與ヘタル後當該道路線管理者ハ之カ告示ノ上其ノ旨支那長ニ報告セシムヘキモノナルニ何等報告ヲ受理シタル形跡ナキヲ以テ將來ハ必ス報告セシムル様各町村道路線管理者ニ注意スルコト

一、土功組合豫算ニ關スル件

- 1、土功組合豫算ハ道廳令ニ依リ年度開始ノ一月前迄ニ總會又ハ議員會ノ議決ニ付スヘキナルニ西古丹別土功組合ハ三月三日ニ小平第一土功組合ハ三月十日ニ提出議決シアルニ不拘何等ノ注意ヲ加ヘス其ノ儘處理シアリ、注意スルコト
- 2、同豫算認可ニ付テハ年度開始前夫々之ヲ了シ以テ支障無キヲ期スヘキモノナルニ當管内十二土功組合中正規ニ認可シタルモノ僅ニ三ニシテ他ノ九組合ニ對シテハ年度開始後一四月六日乃至五月四日一認可シ在リ、注意スルコト
- 3、同豫算ニ於テ豫算各目ノ流用ハ組合長ヨリ次ノ總會又ハ議員會ニ報告ヲ要スルニ不拘、南古丹別、大正ノ二組合ハ之カ報告ナシ、注意スルコト

北海道廳

一、土功組合出納例月検査報告ニ關スル件

- 出納例月検査ハ毎月三日之ヲ執行シ三日以内ニ報告スヘキ廳令ナルニ不拘期限内提出ハ備ノ組合ニ過キス大部分ハ期限經過後提出ス、茂築別土功組合ノ如キ三ヶ月、小平第一及小平中央土功組合ノ如キ二ヶ月ヲ經過セルモノ尙未タ提出セサルモノアリ本件ハ組合ノ財政經理ノ狀況ヲ知ル唯一ノ重要ナルモノナレハ爾今期限ニ遅レサル様嚴ニ督促スルコト

市役所
昭和六年三月二十一日

市役所
昭和六年三月二十一日

市役所
昭和六年三月二十一日

一、土功組合造田ニ關スル件

各土功組合ノ合計濬漕段別ハ二、九二五町五反米ニシテ最近迄ノ造田段別ハ二、五九五町七反米引三二九町八段米ノ未造田ヲ有ス、土功組合財政ノ赤字ヲ期スルニハ其ノ方策多々アリト雖モ造田ノ完了ヲ圖リ生産ヲ増加スルハ急務タリトス、造田遲延ノ事由ヲ調査シ夫々適策ヲ講シ以テ之カ完了ニ努ムルコト

一、不良組合ノ指導監督ニ關スル件

本管内土功組合中不良組合ト認ムヘキ小平第一及小平中央ノ二組合ハ特段ノ指導監督ヲ加ヘサレハ更正發達セス、然ルニ他ノ優良及普通組合同様一律ニ之ヲ取扱ヒアリ、適切ナル方策ヲ講シ特別ナル指導監督ヲ施スコト

一、私費濬漕工事ニ關スル件

濬漕私費工事ニ於テ許可指令書ニ着手竣工ノ期限ヲ付シ其ノ都度届出ツヘキ條件ヲ付シアルニ拘ラス其ノ儘トナリ、果シテ工事ヲ施行シタルヤ否ヤ不明ノモノ大正十五年以來九十七件アリ、右ニ付テハ工事ヲ施行シテ届出ヲ怠リ居ルモノ、未タ工事ヲ施行セス其ノ儘放置シ居

北海道廳

ルモノ及其ノ事由ヲ調査シ適切ノ方法ヲ講スルコト

一、河川事務ニ關スル件

イ、木材流送取締規則ニ依ル處理ニ關スル件

1、木材流送ノ許可條件ハ相當取扱スルノ要アリト認メラル、可成速ニ考究ノ上改正ノコト

2、木材流送許可ノ際ニ於ケル事業ノ着手及終了ハ其ノ都度届出ツルコトニナリ居ルニ不拘之ヲ不爲、終了ノ際ニ至リ着手終了同時ニ届出ツルモノ多ク甚シキハ全然其ノ届出無キモノアリテ事務處理上缺クル所アルハ勿論、取締上亦遺憾ナリ、將來充分注意スルコト

3、木材流送ノ際出ニ對シ願書ノ不備、照會ノ儘結果未ヲ附ケツシテ完結セルモノアリ是等ハ動キスレハ無願流送ヲ敢テスル機會ヲ與フルコトトナルカ如キ場合アルヲ以テ督促ヲ不怠總テ終結處分ヲ爲スコトニ注意スルコト

ロ、土木工事取締規則ニ關スル件

水車水路壩鑿其ノ他私費工事ヲシテ既ニ使用存置期間ヲ經過シタルモ

- ノ五十七件ノ多キニ達ス、是等ハ速ニ取調ノ上整理スルコト
- ハ、河川取締規則ニ依ル河川堤防敷地使用許可處分ニ關スル件
- 1、戸田安次郎繼續使用新期ニ際シ期間五ケ年ヲ超過シタルハ本則第八條前段ノ違反ナリ、注意スルコト
 - 2、街道セン外敷地使用權ノ讓渡ヲ許可シアルハ本則第十條抵觸ノモノニ付注意スルコト
 - 3、指定河川ノ堤防使用ニシテ假設倉庫(兼池田與次郎外九名出願)體設建物(青山三郎出願外敷地)或ハ物置場等ノ出願ニ付許可シタルハ本則第六條各號ノ範圍外ニシテ大正十五年二月十日第二〇一條通牒ヲ無視シタルモノニ付注意スルコト
 - 4、菅井真代治、宮川房次郎外二名競願ノ件ハ其ノ使用方法ハ公共用ノモノナルヲ以テ當該町村(天鹽町)ニ出願セシメ許可ヲ受ケタル後競願者其ノ他ニ供用セシムルヲ至當ナリトノ指示ヲ與ヘ書類ヲ返展シ尙大島、椿條、高木等外二件亦不備訂正ヲ命シ願書返付中間判決ノ儘完結シアルハ適當ナル處理ニ非ス必ス事件ノ終局ヲ俟ツテ完結スルコト

北海道廳

二、町村河川行政指導監督ニ關スル件

- 1、三田拙待前許可指令書中第五條「當役場ノ許可ヲ受クルニ非サレハ擔保、貸付ニ供シ又ハ他ニ移スコトヲ得ス」トアルモ處分規程第十一條列舉事項以外ノ規定事項ニ應スルヲ以テ之ヲ削除スルヲ至當トス
- 2、各町村長處分ニ係ルモノハ認可申請書ニハ命令條項案ヲ添付セシメ審査スルコト
- 3、増毛町外二村申請ニ係ル出願中「堤防敷地處分規程ヲ遵守云々」トアルモ屢々違フルカ如ク處分規程ハ事務處理ノ準則ヲ揭ケタルモノニシテ之カ職務擔當者ノミ違由ノ義務ヲ有スヘク敢テ一般人ヲ拘束スヘキ法令ニ非ラサルヲ以テ之カ字句使用ヲ避クルコト
- 4、長谷川嘉之ノ如キ出願使用目的ハ物置場ナルニ「土木工事取締規則並河川取締規則ヲ遵守可致云々」トアリ或ハ他ニ「特別使用規則遵守可致」等願書ノ書式頗ル不統一ナリ、之等ハ一般人ノ關係法規ノ不知ナルニ因ルモノニ付懇切指示シ惑ハシメサル様留意スルコト
- 5、小池彦治、鷲尾文次郎外二件ノ認可申請ニ對シ其ノ使用目的カ鑛泉

附隨使用地ナルヲ以テ許可ニ當リテハ大正十五年三月十日第三一九號
通牒ノ失効條件ヲ附スヘキヲ指示セサリシハ適當ナラス

ホ、特別使用規則ニ依ル處分ニ關スル件

- 1、 柵田鐵礦外十數件ノ鏡願順位ハ施行規則第七條第一項ニ該當スト
稱スルモ右ハ第七條第一號ノ誤ナリ
- 2、 台名會社精原商店ノ堤防敷地返還願ノ代理人委任狀謄本ハ受任者
自ラ製作セルモノナルモ右ハ經由行政廳ノ證明セルモノ若ハ委任狀
正本ヲ提出セシムルコト
- 3、 大川長太郎外三名受許可使用地ハ錯誤處分ノ爲重複貸付セラレ其
ノ后此力事實ヲ發見セラレタルニ依リ「使用坪數ヲ更正ス」ト發令
セラレタリト雖右ノ如キハ後ノ錯誤處分ニ依ル取消命令ヲ發シ既發
收ノ使用料ハ重複處分相當額ヲ返付スヘキモノナルニ不抽之力
處置不明ナルニ付調査ノコト
- 4、 見延清一郎外六名使用許可地一部禁止區域編入ニ付使用料減額ヲ收
入命令者ニ通知ヲナササリシハ不可ナリ
- 5、 伊藤七五郎出願ニ係ルモノハ禁止區域ニシテ許可難相成トシテ返

北海道廳

戻シ和內三郎出願ニ係ルモノハ耕作區域ナルモ將來伊安林料入豫
定箇所トナリタル理由ニ依リ贖書ヲ返戻シアルモ前者ハ却下、後者
ハ不許可處分ト爲スヘキヲ「者混淆シテ截然タラサルハ妥當ナラス
注意スルコト

ヘ、河川堤防敷地產物拂下處分ニ關スル件

- 1、 尾田敏政ニ對シ天鹽川河川敷ニ於テ粗糞採取許可シタル拂下代金
一圓二角餘地方費ニ收入シタルモ國費ニ收入スヘキモノトス
- 2、 羽前川、羽瀨川ヨリ粗糞又ハ砂利採取區域圖ハ二万五千分又ハ五
万分甚シキハ見取圖ヲ以テ許可シタルモノ數件アリ、處分ノ正誤ヲ
危殆ナラシムルモノニシテ穩當ナラス、必ス河川堤防圖ニ依リ處理
スルコト
- 3、 瀧本精一出願ニ係ル水採取許可ハ時期ヲ失シタル爲採取不能トナ
リタルニ付處分取消方圖出テタルニ「雜用水採取許可取消ノ件許可
ス」ト指令書ノ主文ナルモ右ハ「、、、、雜用水採取許可ノ件取消
ス」ト爲スヘキモノトス

4、羽嶽川ニ於テ松井組八出願砂利採取區域ハ一部民有地ニ介入セ
ルニ不拘所有者ノ承諾書ヲ徴セサリシハ昭和五年二月土河第一三
五一號通牒ニ反スルモノニシテ妥當ナラス
ト、**裏帳整理ニ關スル件**

記帳例ニ倣ヒ處理セラレ遺漏無シト雖私費工事ノ使用存置期間ノ經
過不明ノモノ數十件ニ達スルヲ以テ此ノ際整理スルコト
テ、**宗結文書整理ニ關スル件**

使用願書之カ裁決書ハ總テ權利義務發生消滅ノ緣由ヲ明瞭ナラシム
ルモノナルニ付善良ナル注意ノ下ニ整理俾管セララルモノナルニ間
々未處理文書ノ混入シアルハ遺憾ナリ

一、**畜産事務ニ關スル件**
補助獎勵等ノ關係書類ニ於テモ平素獎勵ノ結果各種團體及個人ノ出席期
日ノ勵行及願書ノ内容ニ於テモ相當整備スル所ナリト將來省令及廳令
ニ係ル各種ノ補助、獎勵規則ニ依リ提出ノ願書經由進達ノ場合ハ其ノ内
容ニ付充分調査ノ上相當留意見副申ノコト

北海道廳

向畜産生馬匹獎勵規則ニ依リ畜産ニ委託化牛政社馬社入ノ際資金納入ノ
遅延ハ勸モスレハ其ノ購入上時機ヲ逸スルノ虞ナシトセス將來ハ畜産團
体ヲ獎勵シ以テ資金調達ニ就テモ一段ノ努力ヲ加フコト

昭七北地第八五號

昭和七年五月十日

甲乙ノ種別

決判

日

日 文書課長

施行

月

日

北八五

案起

昭和七年五月十日

付局受

月第

日號

局送

月

日

省及受付月日

合議局號及

第 第 第 第 第 第 第 第

號 號 號 號 號 號 號 號

送受 送受 送受 送受 送受 送受 送受 送受

月 月 月 月 月 月 月 月

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

大臣

次官

地方局長

主査行政課長

政務課長

政務課長

官報掲載

七年五月十日

北海道一級町村制施行地指定件

内務省告示第...

北海道一級町村制施行地... 左ノ自指定ニ照

和七年六月一日施行ス

裏面あり

日		月	
第	第	第	第
號	號	號	號
送受	送受	送受	送受
月	月	月	月
日	日	日	日

年
月
日

札幌
郡
白石
村

内務
局長

踏トシ廣島村多任多惠庭村ニ通ル者昭和六年ニ
 八國有鉄道皇平川鉄橋ニ併行シテ上白石橋多味
 設シ札幌市苗穂所方面ノ唯一ノ交通線ト南ヶ
 り又國有鉄道八國通二十七路線ト併行シテ
 東西ニ貫通シ村内ニ白石、厚別ノ二驛有ル此ノ
 地私設鉄道ニ線ノ村内多通ルモノ已テ交通線
 儿便利ナリ
 村民ノ生業ハ農多シ如位トシ副業的ニ畜牛トシ
 飼育ス農耕地ハ田千四百九十町米畑千六百
 町米ト有シ米麦並麦多シ主要物産トシ總
 生産額ハ農産高産工産多シ合シテ百五十餘
 万金ニ及ビ一戸者七百二十金程ト示セリ
 二、戸口及諸税負担額

裏面あり

戸数 昭和六年末

人口 同上

諸税負担 昭和七年分

一、四七五戸

八、四四一人

五、一〇三二円

各世帯に米取手一石町村制施行地標準

戸数 一、〇〇〇戸

人口 五、〇〇〇人

諸税負担 二〇、〇〇〇円

三、資力調査

昭和七年分
調査期七月至八月

直接国税

地方税

町村税

九、二一五円

一四、三二〇円

二七、五〇二

土地

建物

有価証券

現金

利息 七、五五
土地 二、六五

二、六二四円

五、六〇〇円

一、六、五七四円

負債未償還額 七、三〇〇円
土地未償還者一之〇〇戸
昭和三十五年分迄の償還元金一〇〇

内務省

四、一級町村制施行後増加負担

経費負担科

全旅費

会派費官費系債

計

四一四〇圓

六〇〇圓

二二〇圓

四九六〇圓

二級町村制施行地ニ在リテ村長及書記ノ給料、
 旅費ハ北海道地方費ノ支弁スルニ一級町村制
 施行後ハ右費用ハ勿論助役級並号ノ為新ニ
 之ノ給料ノ旅費等々悉ク外會派費ノ如キニ
 二級町村ニ在リテ輕易ノ事件ハ町村會々
 間カス書面決済ノ便法アリシモ一級町村ニ在
 リテハ此ノ方法ニ依リテ純ニ其ニ依リ會派費
 取テ自カク多キヲ加フハニ至ル一ラ大仰ニ於テ前
 記ノ諸費増加ス
 而シテ右増加経費ノ負担ハ勢ヒ村程ノ減降ニ

裏面あり

領ノ外ナル一キリノ試ニ其ノ財源多ク戸割制ニ
取ルルハ一戸者三系二十六鐘五金ノ増徴ノ事
免スト、古七年度者初年度ニ領員担額ト合
シテ八系七十鐘二聖ト大ニ現在全道ニ於ケル
百二十四ノ一級町村ノ平均戸割制一戸者十二系
五十二鐘ト比スレハ約五分ノ二倍ニ過キス
差、負担ハ格不困難ナリト認メス

五現在二級町村中一級町村制ノ施行ヲ白石村ニ止
ム事由

現在二級町村制施行地百五十一町村中其ノ戸
口ニ於テ諸税負担額ニ於テ一級町村名標準以
上ノモノ有テ白石村ノ外五十五町村見テ概シテ
増力充實ト見現在以上経費ノ増加ハ何レモ之

力員担因班ノ宣状ニ在ルコトハ是等ノ地ノ持株
ノ割少ク待ツトシ以上列記ノ事由ニ依リ此ノ際
ハ白石村ノ一併町村割ヲ施行スルトス

北 行

北 行

昭和三十七年八月二十一日

北海道廳長官依の上條



四 州 長 官 依 上 條

一 級 市 村 制 施 行 一 級 市 中

現 在 本 道 二 級 市 村 中 札 幌 市 石

村 一 二 級 市 村 制 施 行 後 相 当 年 村

一 級 市 村 制 施 行 後 相 当 年 村

一 級 市 村 制 施 行 後 相 当 年 村

一 級 市 村 制 施 行 後 相 当 年 村

一 級 市 村 制 施 行 後 相 当 年 村

一 級 市 村 制 施 行 後 相 当 年 村

北 海 道 廳

裏 面 あ り

添付書類目次

- 一、一級町村制施行地
- 一、公民権資格者戸口及經營調
- 一、二級町村ニシテ一級町村ヲ施行セザル理由調
- 一、白石村ノ情勢調
- 一、區域戸口調
- 一、資力調
- 一、公民権資格者調
- 一、戸調
- 一、歳入出豫算區分調
- 一、歳出翠年比較表
- 一、負擔力調 其ノ一、二
- 一、一級町村崗稅地方稅一戸當額調
- 一、道制度圖
- 一、白石村圖

北海道廳

一级町村制施行地

村名	所属郡名	二级町村制施行期
白石村	札幌郡	明治三十五年四月

北海道廳

公民権資格者戸口及経済調

白石村	村名	公民権資格者	人口	戸数	徳昭和七年 總額	村税額	村税一戸當
		一、四〇七	八、四四一	二、四七四	四六、三六四	二七、五〇二	一、八六五

北海草廳

二級町村ニシテ一級町村制ヲ施行セザル理由
 (千戸以上ニシテ町村税負
 担二萬以上ノモノ)

郡町村名	公民資格者町 村税負擔額	人戸	口數	理由
龜田郡 尻岸内村	一八八四 二六四二七圓	一〇六九 六九〇七人	一〇六九 六九〇七	昭和四年駒ヶ岳ノ爆發ニ依リ甚大ナル被害ヲ 受ケ之カ復舊ノ爲低利資金ノ貸付ヲ爲シ救済 中ニ付現在以上ノ負擔ハ至難ナリ
檜山郡 上ノ國村	一四三二 二八五九五	一七四 七三四〇	一七四 七三四〇	半漁半農ノ地ニシテ漁業ト雖雖漁ヲ主トシ交 通不便ナルカ故ニ生産所得少ク住民ノ富力薄 弱ナリ、隨テ現在以上ノ負擔ハ至難ナリ
爾志郡 乙部村	一四〇〇 二六三八五	一五八 八八五三	一五八 八八五三	上ノ國村ニ同シ
爾志郡 新石村	一三五八 二四一六六	一三〇 六八〇八	一三〇 六八〇八	上ノ國村ニ同シ
虻田郡 喜茂別村	一〇〇七 二四三〇〇	一〇二 一〇〇五	一〇二 一〇〇五	純農村ニシテ輸出耕作物ノ減價時代戸數増加 セルモ近時財界ノ不況ニ依リ戸口漸減ノ傾向 アリ且住民ノ富力薄弱ニテ現在以上ノ負擔ハ 堪ユル所ニアラス
虻田郡 狩太村	一五五 四六六〇一	一五五 五五六	一五五 五五六	喜茂別村ニ同シ
磯谷郡 南尻岸村	一六二六 二六七三七	一四八 九一一一	一四八 九一一一	喜茂別村ニ同シ
空知郡 首江村	一三二 四二八一五	一三二 七〇二六	一三二 七〇二六	土地瘠薄ニシテ住民ノ富力充實セス負擔重キ ナリテ進級ニ依リ經費增加スルトキハ到底 負擔ニ堪ヘス
中龍郡 多度志村	一三二 二八二九八	一三二 五七〇五	一三二 五七〇五	住民ノ富力充實セサルニ不拘施設事費比較的 多ク現在ニ於テ尙且負擔重キヲ以テ進級ニ依 リ負擔增加スルトキハ負擔ニ困難ナリ

北海道廳

<p>枝幸郡 根室村</p> <p>宗谷郡 根室村</p> <p>天塩郡 幌延村</p> <p>上川郡 上川村 下川村</p> <p>上川郡 剣淵村</p>	<p>空知郡 南富良野村</p> <p>上川郡 和寒村</p> <p>上川郡 愛知村</p> <p>雨室郡 幌加内村</p> <p>山形郡 沼田村</p>	<p>一、〇五七 一、〇五七</p> <p>九三九 九三九</p> <p>一、〇七〇 一、〇七〇</p> <p>一、〇四九 一、〇四九</p> <p>一、二七五 一、二七五</p> <p>一、一六〇 一、一六〇</p> <p>一、三二二 一、三二二</p> <p>一、二〇〇 一、二〇〇</p> <p>一、一七八人 一、一七八人</p>	<p>一、〇四四 一、〇四四</p> <p>一、〇四四 一、〇四四</p> <p>一、〇八八 一、〇八八</p> <p>一、一五二 一、一五二</p> <p>一、三二八 一、三二八</p> <p>一、五二〇 一、五二〇</p> <p>一、一八一 一、一八一</p> <p>一、三七九 一、三七九</p> <p>一、七〇五戸 一、七〇五戸</p>	<p>最近鐵道ノ開通ヲ見タルヲ以テ出入地者 多ク隨テ資力乏シニ不拘施設事業少ナ カラス此ノ以上ノ負擔ハ到底至難ナリ</p> <p>土地瘠薄ナルト既往交通不便ナリシニ原 因シ住民ノ資力充實セス且施設事業多キ ヲ以テ進級ニ依ル經營ノ増進ハ負擔ニ堪 ヘス</p> <p>區域内ハ大部分高丘地ニシテ瘠薄ナル畑 地ナルカ故ニ住民ノ資力充實セス現在以 上ノ負擔ハ困難ナリ</p> <p>土地瘠薄、泥炭地ニシテ土功組合ノ施設 事業開進ナラサルカ爲組合員タル住民ノ 負擔容易ナラサルニ進級ニ依リ更ニ負擔 ヲ増加スルハ堪ヘサル所ナリ</p> <p>土地瘠薄、泥炭地ニシテ收益少ク住民ノ資 力充實セス隨テ之カ開發ヲ爲スニアラサ レハ進級ヲ爲スハ至難ナリ</p> <p>土地瘠薄ナル爲收益少ク隨テ住民ノ資力 薄弱ナルヲ以テ之レ以上ノ負擔ハ堪ヘサ ル所ナリ</p> <p>區域廣瀾ニシテ最近多數ノ新來移住者ア リ未タ開拓ノ道途ニアリ將テ人口増加ニ 依リ二、三村ニ分村ヲ爲スルモノト認ム ルニ付進級ハ適當ナラス</p> <p>未開地多ク且住民ノ資力薄弱ナルヲ以テ 現在以上ノ負擔ハ困難ナリ</p> <p>鐵道ノ開通ニ依リ急遽ニ人口増加セルモ 未開地多ク住民ノ資力薄弱ナルヲ以テ之 カ開發ヲ俟テ進級セシムルヲ適當トス</p>
--	---	--	--	--

北海道廳

<p>紋別郡 遠田村</p> <p>七 三 八 二 七</p> <p>一 五 五 〇 一</p> <p>面積七十一方里ヲ有シ未開地多ク且將來 ハ村ヲ要スヘキヲ以テ現在以上ノ負擔ハ 難ナリ</p>	<p>常呂郡 佐呂間村</p> <p>四 三 七 七 〇</p> <p>八 六 四 七</p> <p>未開地多ク今尙未開ノ道程ニアリ隨テ 施設事業多ク經費多量ナル折柄現在以上 ノ負擔ハ難ナリ</p>	<p>常呂郡 留邊本町</p> <p>五 一 七 二 〇</p> <p>一 〇 〇 〇 〇</p> <p>經濟界ノ好況當時木材事業ノ急激ナル發 達ニ伴ヒ一時發展シタルモ近時事業衰退 シタル爲戸ノ漸減ノ傾向ニシテ負擔重キ ヲ以テ道級ニ依リ經費增加スルトハ負 擔ニ堪ヘサル所ナリ</p>	<p>常呂郡 川子府村</p> <p>三 六 一 八 七</p> <p>七 一 六 〇</p> <p>小清水村ニ同シ</p>	<p>常呂郡 龍戸村</p> <p>四 一 三 三 四</p> <p>七 六 四 六</p> <p>小清水村ニ同シ</p>	<p>斜里郡 小清水村</p> <p>三 四 五 九 九</p> <p>八 四 六 九</p> <p>區域廣瀼ニシテ未開地多ク今尙后施設ヲ 爲スベキ事業少ナカラサルモ民力薄弱ナ ルヲ以テ施設ヲ能ハス故ニ現在以上 ノ負擔ハ難ナリ</p>	<p>斜里郡 斜里村</p> <p>六 八 七 〇 八</p> <p>一 〇 〇 〇 九</p> <p>面積六十三方里ヲ有シ未開地多ク今尙ホ 開カノ道程ニアリ隨テ施設事業多ク負擔 重ク將來戸口増加ニ伴ヒ村ノ必要アリ</p>	<p>網走郡 津田村</p> <p>七 〇 六 七 五</p> <p>八 七 六 一</p> <p>區域廣瀼ニシテ未開地多ク今尙ホ開カノ 道程ニアリ隨テ施設事業多キヲ以テ現在以上 ノ負擔ハ難ナリ</p>	<p>網走郡 女川村</p> <p>四 〇 九 八 二</p> <p>七 四 七 九</p> <p>未開地多ク今尙未開ノ道程ニアリ施 設事業多ク經費多量ナル折柄現在以上ノ 負擔ハ難ナリ</p>	<p>枝幸郡 中川村</p> <p>二 五 二 三 二 圓</p> <p>七 一 一 一 二 人</p> <p>中川村ニ同シ</p>
---	---	---	--	---	---	---	---	--	--

北海道廳

紋別郡 上湧別村	紋別郡 下湧別村	紋別郡 赤井村	紋別郡 澤ノ上村	紋別郡 興部村	紋別郡 此田郡 辨邊村	勇拂郡 鴨川村	勇拂郡 穂別村	尾別郡 尾別村	白老郡 白老村	沙流郡 平取村
一、二八五 四〇八八七 四	一、八二二 五、四三六 三	一、三九三 四、四四八	一、五二五 四、四二六	一、三三二 四、五八五	一、三六九 三、八四一	一、二六六 一、七九七	一、一八九 二、一七八	一、二六三 一、一六六	一、二八五 一、三九八	一、四九一 一、四八四
一、三三三 五、九八六 八	一、六四七 一、四一六	一、六二四 一、八三九	一、五五二 一、四一九	一、五四二 一、二一八	一、一五二 一、四六二	一、一七二 一、一七二	一、三二四 一、六四五	一、三二八 一、三九八	一、二七七 一、四八八	一、一五八 一、〇二七
佐呂間村ニ同シ	半道半農ノ地ニシテ農業ハ今尙ホ開拓ノ道程ニアリ住民ノ資力充實セサルノミナラス將來原野ノ開發ヲ俟テ分村ヲ爲スノ必要アルヲ以テ連級ハ適當ナラス	近ク一村ヲ要スハキヲ以テ分級スルハ適當ナラス	佐呂間村ニ同シ	佐呂間村ニ同シ	佐呂間村ニ同シ	鴨川土功組合事業ノ遂行ニ依リ組合員タル住民ノ疲弊困憊甚シク政府ノ特別助成ヲ仰キツツアル狀況ナルヲ以テ負擔重ク連級ニ依リ更ニ負擔ヲ増加スルハ堪ヘザル所ナリ	面積三十九方里ニシテ未開地多ク而モ何等ノ施設ナキヲ以テ今後多額ノ經費ヲ要ス、故ニ現在以上ノ負擔ハ至難ナリ	住民新漁業ヲ主トシ一般ニ資力薄弱ナリ連級ニ依リ負擔増加スルハ堪ヘザル所ナリ	尾別村ニ同シ	未開地ナルト住民中酋土人多數ヲ占ムルノ關係上資力乏シク進級困難ナリ

北海道廳

三石郡 三石村	河西郡 大正村	河西郡 川西村	河東郡 鹿追村	河東郡 十勝村	中川郡 西足寄村	十勝郡 浦尾村	尾羅郡 廣尾村	廣尾郡 大樹村	多路郡 息収村
一三三二八人	一四二七	一八七	一〇二一	一五七	二七二六	一五七	一〇九八	八六一	一七三
一四三九戸	一六〇〇	二二四八	一〇二二	一三三	一七二五	一三三	一〇八八	一〇一七	一四八一
未開地多ク今后施設スヘキ事業多クアリ 加フルニ部落民相確執シ自治的訓練ニ乏 シ、チ以テ時期尙早ナリ	住民ノ多クハ移住後日尙ホ淺ク資力亦薄 弱ニシテ負擔力乏シク更ニ、擔ヲ増加ス ルハ堪ヘサル所ナリ	大正十三年大正村ヨリ本村シタルモノニ シテ財政上増進ナルモノアリ進級村置ナ リ	未開地ナルチ以テ、設事業少カラス然ル ニ住民ノ多クハ資力尙弱ナルチ以テ、擔 ニ困難ヲ來セリ	最近十功組合ノ設置及未開地ノ開發ニ依 リ、日増加セルモノ、年四月十勝村チ、 村シタルチ以テ、令進級セシムルハ妥當ナ ラス	未開地多ク住民ノ資力充實セサルト區域 廣濶ナル爲施設スヘキ事業少カラス現在 以上ノ巨額ノ至難ナリ	西足寄村ニヨシ	西足寄村ニヨシ	西足寄村ニヨシ	富士製糖株式会社工場所在地タルノ關係 上、日増加セシモノ、工場關係ノ勞働者、數 以上ヲ占メ、資力尙弱ナルチ以テ、現在以上 ノ負擔ハ至難ナリ

北海道廳

阿寒郡 舌辛村	白糠郡 白糠村	釧路郡 釧路村	野付郡 野付村	津別郡 津別村
一、二五四人	一、一七二	一、一七二	一、一七二	一、一七二
一、一七二	一、一七二	一、一七二	一、一七二	一、一七二
一、一七二	一、一七二	一、一七二	一、一七二	一、一七二

住民中農業ハ牧畜ヲ兼營スルモ新墾ノ地タ
リ雄州炭鑛アルモ下層ノ炭層者ニシテ負擔
力ニ乏シク且ツ區域廣濶ナルニ人家點在セ
ル爲メ設置ニ多額ノ經費ヲ要シ且墾ニ堪ヘ
ス

漁民ト雖儀ニ採集ヲ然レムニ過キス農業亦土
地瘠薄ニシテ收穫少ナリ以テ等級ニシテ
負擔ヲ重クシタルコトナリ

漁民ニシテ是布並取ヲ主要ニセル七時價低
落ノ爲メ殆ト生活ニ窮セル者ナリ

最近移民ヲ招來シタル由開墾ニシテ戸口
増シタルモノナリ力ナキ住民多クテ財政
最モ窮セルヲ以テ地方官ヨリ多額ノ補助
ヲ支拂シテアル現況ナリ

海行ニ同シ

北海道廳

白石村ノ沿革、産業、交通ノ状況、人口ノ推移
地理上ノ關係等ノ詳述

明治四年九月角田縣元白石領ノ一、百四戸野月寒村ニ移住ス、之ヲ本村ノ
副基トス而シテ、同十一年十一月野月寒村ヲ郡制ノ名ニ改メ白石村ト改稱ス
當時形勢ノ未タ興ラス交通ノ便今ク杜塞シ僅ニ札幌ニ通スル小徑ア
ルノミニシテ、資需給甚ク困難ヲ極メ耕耘亦、ノ如ク、マシ、明治十六年、
州ノ入河西、造等七戸本村ノ東北部落厚別ニ移住ス

明治二十三年札幌ヨリ江別ニ達スル道路開鑿セラレ交通ノ便漸ク加ハ、拓
殖ノ事業亦大ニ進捗シ、日ノ城ニ達スルニ至レリ

明治十三年豊平、白石、上白石、下原、月寒ノ五箇村戸長役場ヲ始メテ本
村大字上白石村ニ置キ、次テ合十七年豊平町ニ移シ、三十年七月白石、上
白石ノ二箇村戸長役場ヲ離設置セラレ、三十五年四月一日二級町村制ヲ
實施セラレ、同十三年四月札幌市ト大正二年四月及大正七年四月江別町ト
境界ノ變更ヲ爲シ今日ニ至レリ
本村ハ農業ヲ以テ本位トシ、商業的ニ畜牛ヲ飼育ス、農耕地ハ田千四百九

北海道廳

町歩、畑千六百町歩ヲ有シ、粟、麥、燕麥等ヲ主トシ、畜産ハ
産、畜産、丁産ヲ合シ百五十萬圓ヲ算シ、一戸當七白二十圓ト示ス
本村ハ札幌市ニ近接セル爲交通極ノテ至便ニシテ、國道二一七號線ハ札幌市
ヨリ上白石、中、本、大谷地、旭町、小野幌ノ各部落ヲ經テ、川市ニ
至ル、ワ、地方道ハ大谷地ヲ起點トシ、廣島村ヲ經テ、庭村ニ通ス
尙ホ昭和六年ニハ國有鐵道豊平川鐵橋ニ併行シテ上白石鐵橋ヲ架設シ札幌
市多摩町方面トノ一ノ交通路ヲ開ヤタリ
國有鐵道ハ國道二一七號線ト併シテ東西ニ貫シ、白石、厚別ノ二驛アリ
又私設鐵道ハ白石驛ヨリ、山溪鐵道株式會社線及省線道總驛ヨリ分岐シ村
内東札幌、月寒、大谷地、上野幌ノ各驛ヲ經テ、治之、ニ、ル北海道鐵道株
式會社線ノニアリテ交通頗ル至便ナリ
通信機關トシテハ白石、厚別ノ各三等郵便局ノ設ケアリ
東西二、二十四丁、南北二、十九丁ニシテ東北ハ江別町ニ、シ、ハ札幌市
ニ接シ西北ハ豊平町ヲ隔テテ札幌村ニ隣リ、南ハ豊平町及廣島村ニ、野
月寒、月寒、野月寒、小野幌、野川貫流ス

區域戶口調

(昭和六年末現在)

白石村	所有	地種	町村名
一四八五	官有	田	
一六〇二	民有	畑	
二六		宅地	
		海崖平場	
五四一		山	
一七五五		林	
二二		野	
五二		其他	
五六四〇		計	
八四四一		人口	
一四七四		戸数	

北海道廳

資力調

昭和七年度

町村名	諸税及町村費	賦	建物	所有財産	現金	負債
白石村	直接税 九二五 地付税 一四三〇 町付税 二七五〇	揮毫 七五 其 一六五	一六三四	一六六〇 一六三〇	現金 一六三〇	七三〇

備考

財産及負債ハ昭和七年三月三十一日現在トス

北海道廳

負債未償還額調

一、負債未償還額 六三、〇〇圓

一、負債、目的別に依り未償還額、年次表

年 度	土木工事費充當	年 度	土木工事費充當
自昭和十六年度 至全十年度	据 置	昭和十九年度	四九、二四。
昭和十一年度	三五八、〇〇。	昭和二十年度	五二、〇四三。
昭和十二年度	二七三、二〇。	昭和二十一年度	五四、五五二。
昭和十三年度	三八九、〇四。	昭和二十二年度	五六、五五四。
昭和十四年度	四、五五五。	昭和二十三年度	五八、五四。
昭和十五年度	四二、六七七。	昭和二十四年度	六一、四六七。
昭和十六年度	四四、七〇。	昭和二十五年	六四、四六。
昭和十七年度	四五、九四二。	計	七、三〇、〇〇。
昭和十八年度	四七、八九二。		

北海道廳

公民権資格者調

(昭和六年末現在)

町村名	資格者数
白石村	一四〇七

備考

公民権資格者ハ町村制第七條ニ依ル資格者トス

北海道廳

白石村	昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年
	一三二二	一三二八	一三六六	一三五三	一四九九	七、一〇二	六、一五九	七、四七二	七、六四八	八、三五六

戸口調

北海道廳

現在一級町村、特別税戸数割

平均	最低	最高
一、二、五、三、〇	五、〇、五、〇	二、四、 ^四 、二、八、〇

北海道庁

負 擔 力 調 査

昭 和 七 年 一 度

町 村 名	直 接 國 稅 額	合 上 所 附 稅 額	地 方 稅 當 量	合 上 所 附 稅 額	地 方 稅 家 屋 稅 額	合 上 所 附 稅 額	特 別 稅 戶 數 割	合 上 所 附 稅 額	新 定 他 地 產 于 場 地 稅 額	合 上 所 附 稅 額	賦 課 總 額
白石村	九、二五〇	一、五〇〇	三、四四〇	三、〇二九	二、四〇〇	一、二〇〇	七、八六一	一、六五〇	三、一〇〇	五、一三〇	六、八四九

備 考

特 別 稅 戶 數 割 一 戶 當 五 月 三 三 年

北 海 道 廳

負擔力調、二 (直接國税)

町村名	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度	昭和五年度	昭和六年度
白石村	税額 七、三四	税額 七、四一七	税額 八、四二一	税額 九、〇七二	税額 九、五七〇
	一戸當	一戸當	一戸當	一戸當	一戸當
	七、三四	七、四一七	八、四二一	九、〇七二	九、五七〇
	六、四三	六、四一七	六、四二一	六、五七〇	六、五七〇

北海道

負擔力調一二 (直接地方税)

町村名	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度	昭和五年度	昭和六年度
白石村	税額 一五五・八	税額 一六四・二六	税額 一六九・四五	税額 一三三・二	税額 一三三・二
	一戸當	一戸當	一戸當	一戸當	一戸當

北海道廳

負、擔力調ノ二 (直接町村税)

白石村	町村名	昭和二年年度	税額	昭和三年年度	税額	昭和四年年度	税額	昭和五年年度	税額	昭和六年年度	税額
三、六四五		一戸當	二、四九一	一戸當	三、五二四	一戸當	三、八二二	一戸當	三、三三二	一戸當	一、五八二

北海道廳

一級町村國稅地方稅町村稅一戶當負擔調			
稅別	最高	最低	
國稅	一七、七七。 (根室町)	四、八三。 (赤平村)	平均 五、五八。
地方稅	五九、九六。 (苫小牧町)	一、七四。 (三笠山村)	一、五九。
町村稅	四六、七九。 (鬼脇村)	九、八〇。 (角田村)	二六、六四。

七 每 頁

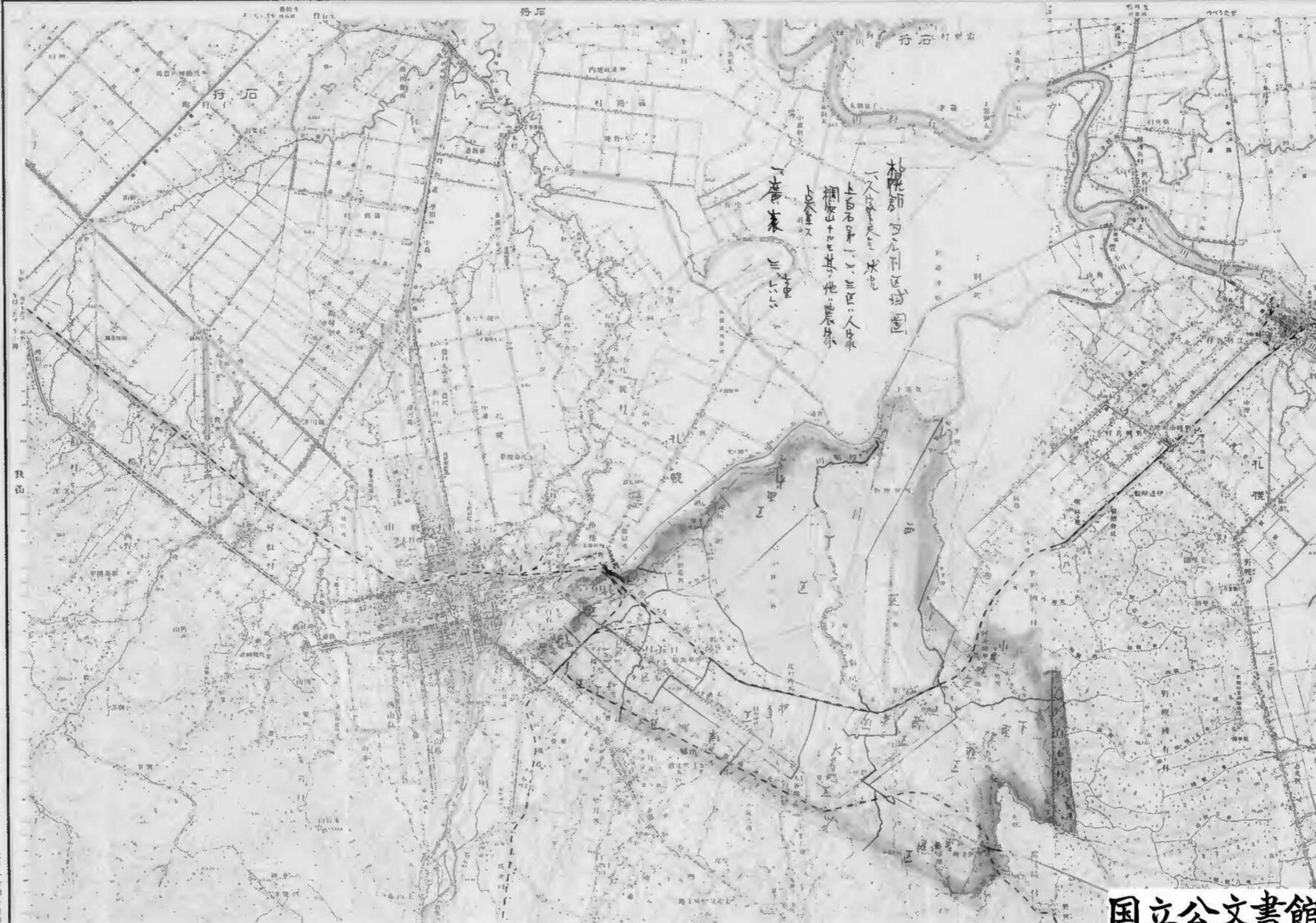
北海道廳



封筒在中物

鐵道
 國道
 支線
 町道
 村道
 水路
 河川
 湖泊
 山岳
 森林
 田圃
 地畝
 境界
 地籍
 測量
 補遺
 備考
 附記
 說明
 凡圖中
 之點線
 均係
 測量
 界址
 凡圖中
 之虛線
 均係
 測量
 界址
 凡圖中
 之實線
 均係
 測量
 界址
 凡圖中
 之點線
 均係
 測量
 界址
 凡圖中
 之虛線
 均係
 測量
 界址
 凡圖中
 之實線
 均係
 測量
 界址

札幌



0000 0512

別江

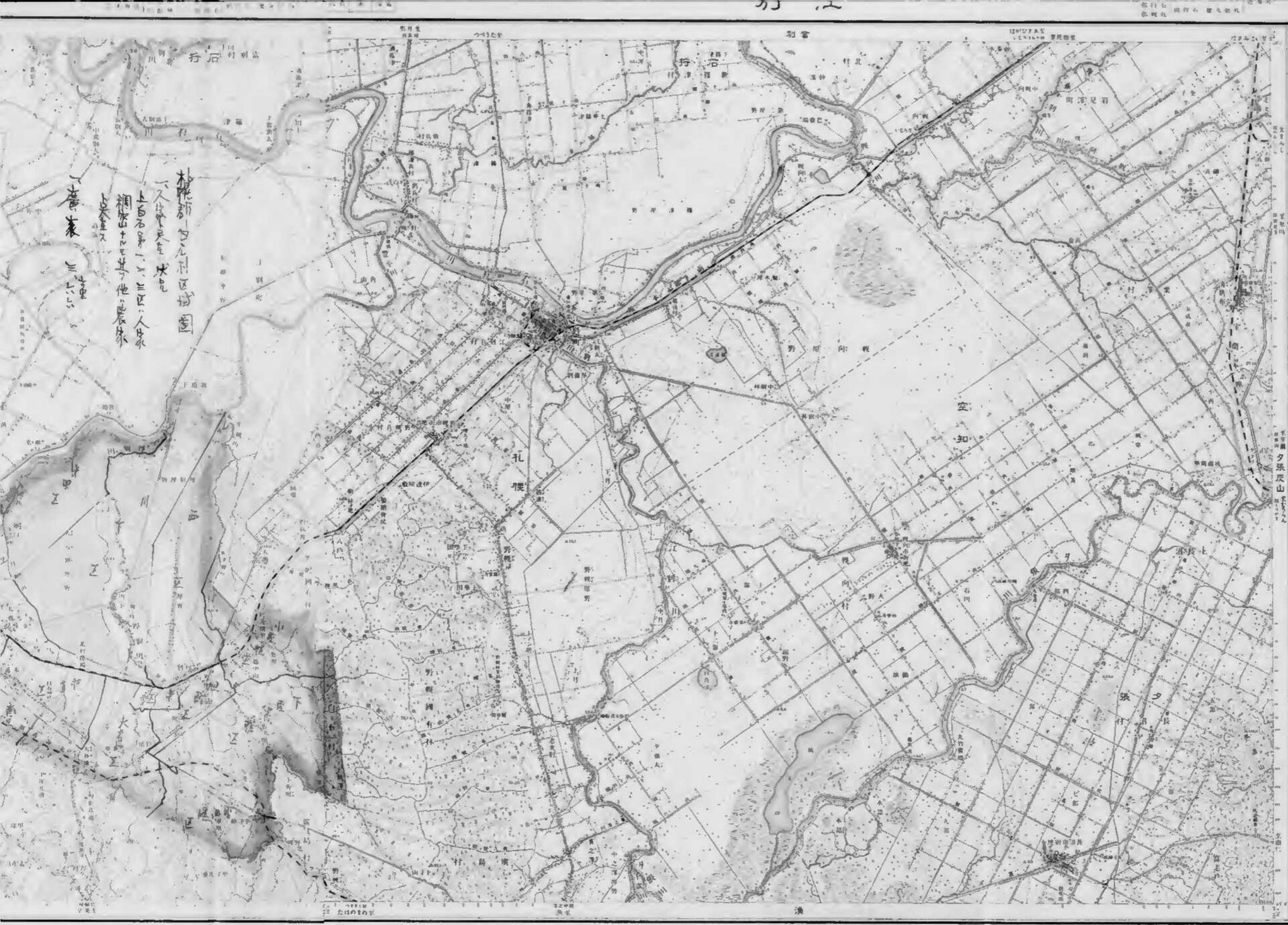
町	村	大字
●	○	□

別江町 別江村 別江大字
別江町 別江村 別江大字



本郷町 白石村 区域図
一八〇石第一二三區 人家
網原山 十石 其他 世辰林
一廣表 三三三

五万分之一 縮影 別江 六號 第六十六號



村松新市町区域地図
 一八八九年
 上白石第一、二、三区、人井水
 桐原山十、七、五、他、長原林
 下木生入
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

五方分一地圖國柱概一版第十六也

國柱概一版第十六也
 一八八九年
 上白石第一、二、三区、人井水
 桐原山十、七、五、他、長原林
 下木生入



裏面白紙

火漣市町界圖

記號

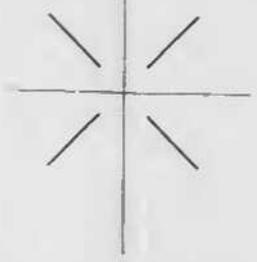
●	北海道廳
○	支庁
○	市
○	一級町
○	二級町
○	村
○	支庁界
○	市界
○	町界
○	村界
○	支庁界
○	市界
○	町界
○	村界
○	支庁界
○	市界
○	町界
○	村界



大正十三年四月一日現在

北

北海通 支 所 處
 一 觀 町 所 處
 二 觀 町 所 處
 三 觀 町 所 處
 四 觀 町 所 處
 五 觀 町 所 處
 六 觀 町 所 處
 七 觀 町 所 處
 八 觀 町 所 處
 九 觀 町 所 處
 十 觀 町 所 處
 十一 觀 町 所 處
 十二 觀 町 所 處
 十三 觀 町 所 處
 十四 觀 町 所 處
 十五 觀 町 所 處
 十六 觀 町 所 處
 十七 觀 町 所 處
 十八 觀 町 所 處
 十九 觀 町 所 處
 二十 觀 町 所 處



大正十三年四月一日現在

北海道廳内務部

地方課



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

裏面あり

1 : 25

昭七北地三三三号

昭七

大蔵省 7.2 第60号

昭和七年七月十六日 文書課長 付局受 月第 日號 局送 月 日

主査行政課長

地方局長

大臣

次官

警保局長
會計課長
審査委員

大蔵大臣

文書課長

主計局長

鳥嶼其他在勤者手付文給細則中改正件

7.26 第60号

第	第	第	第	第	第
送受	送受	送受	送受	送受	送受
月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日

地方 4/14
北 323
12
北 345 7/2

八日

7.26 第60号

大藏省
第404号

昭七北地三二三号

昭和七年十月十六日

昭七
8.4.13
號

大臣
次官
地方局長
文書課長
主査行政課長

第	第	第	第	第	第
送	送	送	送	送	送
月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日

大藏大臣
次官
警保局長
會計課長
審査委員
文書課長
主計局長

島嶼其他在勤者手支給細則中改正件

日	月	第
第	第	第
送受	送受	送受
月	月	月
日	日	日

今回北海道昔前郡天賣島ニ渡港修築工事ヲ
 施行スルコト、本年九月十日、天賣築港
 事務所ヨリ開始セラル、旧島ハ天鹽國沿
 岸ニ距ル十六里、面積ニ方里戸敷ニ百餘人
 口千六百餘人、有テ新島ニシテ十樽港ニ是
 占トス、定期船ハ毎年四月ヨリ十二月ニ至ル而
 ハ月八回、十二月ヨリ二月ニ至ル間ハ月六回、寄
 港ニ止リ、交通具、他生活ノ点ニ於テ、禮
 文利尻両島ニ比シ、一層不便ナク、事情ニ存リ
 依テ旧島在勤ノ右事務員并ニ巡查員
 等ニ對シテモ、禮文利尻両島在勤者同様
 大正十年内務省令第十號、島嶼其他在勤
 者手当支給細則ニ依リ、手当支給ノ先要アリ

裏面白紙

为天賣島ニ近通シテ交通并生活狀態等事情ク曰
クハ燒尻島ノ在勤出賣ニ對シテモ同様ノ手者多支
給クコト、シ又旧省令別表第二編中一等地
係後區ノ欄「双珠別」曰ク等地位係後區ノ欄「
牛」及「立牛」ハ今回整理ノ結果他ノ係後
區ニ係合シテ之ヲ廢止セムル以テ旧表ヲ削除ス
コト、シ別紙ノ通省令ヲ改正セントス

天賣島

天賣島

榮港事務所 技手二人 係一人 雇員一人

駐在 出賣 出賣部長一人 出賣人

燒尻島 駐在 出賣 出賣部長一人

内務省

裏面あり

内務省令第一編

島嶼其他在勤者手當支給細則中左ノ通改
正ス

年月日

内務大臣

第二條中「利尻島」下ニ「天賣島焼尻島」ヲ

加フ

別表第一編中一等地場所ノ欄「利尻島」

下ニ「天賣島焼尻島」ヲ加フ

別表第二編中一等地保護區名ノ欄「双

珠別」同云等地保護區名ノ欄「喜牛」及

「立牛」ヲ削ル

所則

内務省

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内務省

表紙

島嶼其他在勤者手当支給細則

墨書現行
朱書改正並

大正十年内務省令第四十號

第一條

大正九年勅令第四百五號ニ依リ 交通至

島嶼ニ在勤ス地方官廳ノ職員ニハ別表

第一號ニ依リ月手当ヲ給ス但シ別表第一號

中四号地ニ在勤ス者ニ付テハ比ノ限ニ在リ

前項ノ規定ニ依リ月手当ヲ受ケル者ヲ除クノ外北海道廳

森林主事ニシテ僻陋地ニ在勤スル者ニハ別表第二號

ニ依リ月手当ヲ給ス

ニハ土地ノ状況ニ依リ給付額補正ニハ八円以内ニ限リ

六円以内ノ月手当ヲ給スコトヲ得

(以下略)

別表第一號

裏面あり

差

島嶼其他在勤者手支給細則

墨書現行
朱書改正並

大正十年內務省令第四十號

第一條 大正九年勅令第四百五號ニ依リ交通至

手支給

第二條 千島諸島根室諸島禮文島利尻島及

奥尻島以外ニ在勤者北海道廳給却補及巡查

ニハ土地ノ状況ニ依リ發却補ニハ八円以内巡查ニハ
六円以内ノ月手支給及ニ付得

(以下略)

別表第一條

等级	场所	表任	底任	利任	官	巡查	位	員
一等地	北海道千島諸島根室諸島 利尻島 利尻島 本州府下六支家島群島 以南諸島 沖繩諸島古利島八重山列島	三十日以内	二十日以内	二十日以内	十五日以内	十日以内		
二等地	北海道奥尻島 本州府下八支島以南諸島 沖繩諸島下支島宮古島 島津島渡名喜島何 平佐島南大東島北太東島 仲太東島	二十日以内	二十日以内	十日以内	十三日以内	九日以内		
三等地	本州府下大島新島伊豆諸島 島利島御前島式根島三宅島 沖繩諸島伊江島 鹿児島府下大島美里島 仲之永良部島種子島 論島	二十日以内	十七日以内	十日以内	十日以内	八日以内		

裏面白紙

四等地	甲(地 _三 交通不便者)	十町以内	十二町以内	十町以内	八町以内	六町以内	六町以内
	乙(甲 _三 交通不便者)	十町以内	八町以内	六町以内	五町以内	四町以内	四町以内

別表第二條

等級	保種區名	利任
一等地	山口 荅路 春別 雨陽 羅印 上德志別 阿美 双珠別 本境別	八町以内
二等地	上遠別 久若路 卜之山 音標 珊内 尻苗 德舞智 中標別 居見布	六町以内
三等地	志之内 雪程 董別 中標津 川北 西別 幌志 豊元別 千只露 妻登牛 群別 彦牛 峠下 飽別 嶋戸狩 針根別	四町以内

裏面白紙

交通至船ノ場所ニ在勤之職員ニ手書給共ノ件

大正九年勅令第百五號

交通至船ノ島嶼其他ノ場所ニ在勤之職員ニ三月
被口十五系以内ノ手書ヲ給之トシ得但シ千島國境
延島ニ在勤之職員ニ限り月額百系以内ノ手書ヲ
依之トシ得

前項ノ交通至船ノ島嶼其他ノ場所ノ指定及手
書ノ依共ニ同之細則ハ所管大臣大臣ト協同シ
テ之ヲ定ム (後略)

二號江戸川美濃洋半切紙

會第一九〇九號

昭和七年九月二十七日

北海道廳長官 佐 上 信

内務大臣 芳澤 山 本 雄 殿



北海道廳

行

323
10 3

三行
地

高嶼其ノ在動者手當支給ニスル件
 天寶ノ修築工事施行ノ際九月十日ヨリ天寶築港事務ヲ開始相成候處同地
 ハ大鹽國沿岸ヲ距ルニ六哩ノ離島ニシテ面積三方里戸數三三二戸人口千六百
 七人ヲ有シ小樽港ヲ基點トスル定航船ハ自五月至十二月各月九月自十二月至
 三月各月八月ノ航行アルモ交通ニシテ不便ニシテ之ヲ補給ニ難クニシテ
 口至難ナルモノアル状況ニ有之候ニ付本島ニ在動スル右事務所員ニ付シテ大正
 十年内務省令第十號島嶼其ノ他在動者手當支給事務ニ據リ手當支給ノ必要
 有之被認候候ニ付一覽表ノ一符ニ在指定方仰度右申候也

追而交通其他生況况等ノ不利不便ナル点ニ於テ天寶島ニ遊ラサレ候尻島
 ノ在動巡查ニ付シテ元同様ノ手當ヲ支給スルハ必要存之候同併セテ御指
 定仰度申添候

裏面白紙

30
345
行

二層 江戸川美濃守半圓紙

林第三七八六號

昭和七年十一月七日

北海道廳長官 佐 上 信

内務大臣 男爵 山 本 達 雄 殿

島嶼其ノ他在勤者手當細則改正ニ關スル件

本年十月十一日勅令第三〇八號ヲ以テ當廳臨時職員増置等ノ件中御改正相成其ノ結果森林主事十二名減員セラレ候ニ付本年十月二十八日付當廳告示ヲ以テ十二箇保護區ヲ廢止ノ上其ノ區域ヲ他保護區へ併合致候處右廢止保護區中大正十年三月内務省令第十號別表第二號ニ依リ併取地在勤手當ヲ支給シ來リタルモノ左記ノ通ニ付同表ヨリ削除方御取計相成度此段及上申候也

記

- 一 双珠別保護區 (一等地)
- 二 立牛保護區 (三等地)
- 三 喜登牛保護區 (三等地)
- 四 以上三保護區

記録受

北海道廳

裏面白紙

天賣村

一 天塩沿岸ノ距離

天賣

甘前

向

一天

向

三、五哩

二 全面積

〇、三五四方里

三 総人口

一、六七三人

四 総戸口

三、八一戸

三 交通状況

北海道廳命令航路定期船

小樽 稚内 向 往復 寄港

自四月	自四月
至五月	至五月
三月	三月
月八回	月六回

四 行政

村役場、小學校、郵便局、病院、北寺アリ、

其他有限責任天賣信用組合、天賣漁業組合、水産會等アリ

産業

総生産額

九八、〇四二

農産

畜産

林産

水産

鉱産

工業

三、六三〇

二、一八〇

九、三二九

一、七四〇

七、五〇〇

九八、〇四二

村民生活状況

本村民、大部分ハ漢業ヲ以テ生活ヲ営ミソノモトハ鱒漁業ニシテ鱒、鮎、鯉、海魚ヲ專シ漢業之ニ次ギ年中通シク漢業ニ従事スルモ近年鱒、漢業、薄漢ノ由メ一般漢業者、生活程ニ中以下ニ在リ

利尻島 (鴛泊村、沓形村、仙法志村、鬼脇村)

一) 天塩沿岸ト、距離

最短距離 鬼脇・天塩間 二四、五哩

宗谷沿岸ト、距離

最短距離 鴛泊・稚内間 二八哩

二) 全面積 十方里余 (鴛泊 三方里余、沓形 二方里、鬼脇 三方里、仙法志 二方里)

总人口 一六、三九一人

総戸数 二、八五五戸 (鴛泊 四四八人、沓形 四九三人、仙法志 三九三人、鬼脇 五二一人、鬼脇 六九八戸)

三) 交通状況

鬼脇ヨリ、里程 島内 自動車便アリ

仙法志へ 重一丸町 氷形へ 五里二三町 鴛泊へ 四里二八町

北海道廳命令航路定期 (北海道廳 小樽・稚内線 往復舟港) 月十四回

四) 行政

各村共、村役場警署、郵便局、小学校、病院、社寺アリ。其他水産會、漁業組合等アリ

利尻島ニ於ケル總生産額 二、八五二、六一丸

水産	農産	畜産	林産	水産	林産	工業	計
鴛泊	七、七〇八	四、五一	九、〇二	六、六〇一	三、九〇二	一、八九六	一、一九九、〇〇〇
沓形	三、七四七	二、四六八	八、五二	五、七六	五、八八	七、〇一〇	八八九、六一一
仙法志	一、三六四	一、六四二	六、九九	三、四四七	〇	一、三七	三五七、五二九
鬼脇	五、五三五	二、九五七	五、五一	三、六五四	二、三七五	六、六九九	四三五、九三八

生活状態

本島右村民ノ大部分ノ漢業ヲ主トスルモ近年主要
産業タル 糖業 薄漢ノ爲メ漢業者ノ多数ハ
生計程中以下ナリ

礼文島 (香深村、船泊村)

(一) 天塩沿岸ト、距離

最短距離

香深

天塩向

五〇哩

宗谷沿岸ト、距離

最短距離

香深

稚内向

三二哩

(二) 全面積

五方里余

香深

船泊

三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

総人口

七、六、一、六、人

香深

船泊

三、二、一、人

総戸数

一、四、三、六、戸

香深

船泊

八、六、九、戸

(三) 交通状況

香深、船泊向 四里二〇分向

自動車便アリ

北海道廳命令航路定期
藤山汽船特別定期 (此特設航路)
命令航路

小樽航内航
往復号港
月十四日便

(四) 行政

西村共ニ村役場、警署 (船泊村ハ調査部水出所、調査駐在所)
郵便局、小学校、病院、社寺アリ、ソノ外、水産会、漁業
組合等アリ

香深村ニ稚内ニ出所、香深出張所、稚内官林、区分署番
深保護区員、駐在所アリ

産業

礼文島ニ於ケル総生産額	二、二五八、八、千、圓
内譯	
農産	八、七、二、五、千、圓
畜産	一、三、八、六、三、一、圓
林産	八、七、二、五、千、圓
水産	一、三、八、六、三、一、圓
船泊	八、七、二、五、千、圓
香深	一、三、八、六、三、一、圓

生活状態

本島村民、大部分は漢業ヲトスモ近年主要産業タル糖業ノ薄産ノ爲メ漢業者ノ多数ハ生計程之中以下ナリ

裏面あり

北海道廳

交通至難ノ島嶼其他認定標俾ニ故チノ有知

ノ又四ハ天童燧ノ天島嶼十八ヲ以テ因縁ナシ

四 郵便集源回数ハ四日又ハ五日ニ一回ナリ

核当也不

村匠ノ村費ヲ以テ俸給等ヲ支弁スルモノ一名ナリ

冬野直ハ交通不庄、為一留付也交通仕途スハコトナリ

其ノコト不便事ト認メス

四 岩前港ヨリ三十一日ヲ隔テ、其ノ内四日又ハ五日ニ一回航

船ノ航海カハミナリ

四 孤島ニシテ一交通不便トハコトハ其ノ早記載ノ如シ

四 月用尚、内儀ハ留前港ニ以テ平均ニ割高ナリ

四 島嶼十八ヲ以テ因縁ナシ

附記

北海道廳

一、天吉島又嶺八島在嶺年者ハ既足る存、國家用ハニ於テ差
諱リ支取スハ貞正ナリ

二、天吉島以東之嶺ハ差向ナニ匡救可キ業トシテ北洋八、大西年
後嶺行ノ事ニナリ其ノ天吉島ノ東ニハ更ニ孤懸島
ヲ以テ引線ナシ嶺行ヲ要スハ天吉島ノ東ニナリ、天吉島ノ北ニハ
巡査三人ノ嶺八島ニ於ケル巡査一人ハ亦久ニ在嶺スハ天吉
ナリ

裏面白紙

北海道廳

島崎在勤平寺酒坊調

成額一却 (保後又處此二件ヲ云)

月額八日一人 同月二人

年

一六二四

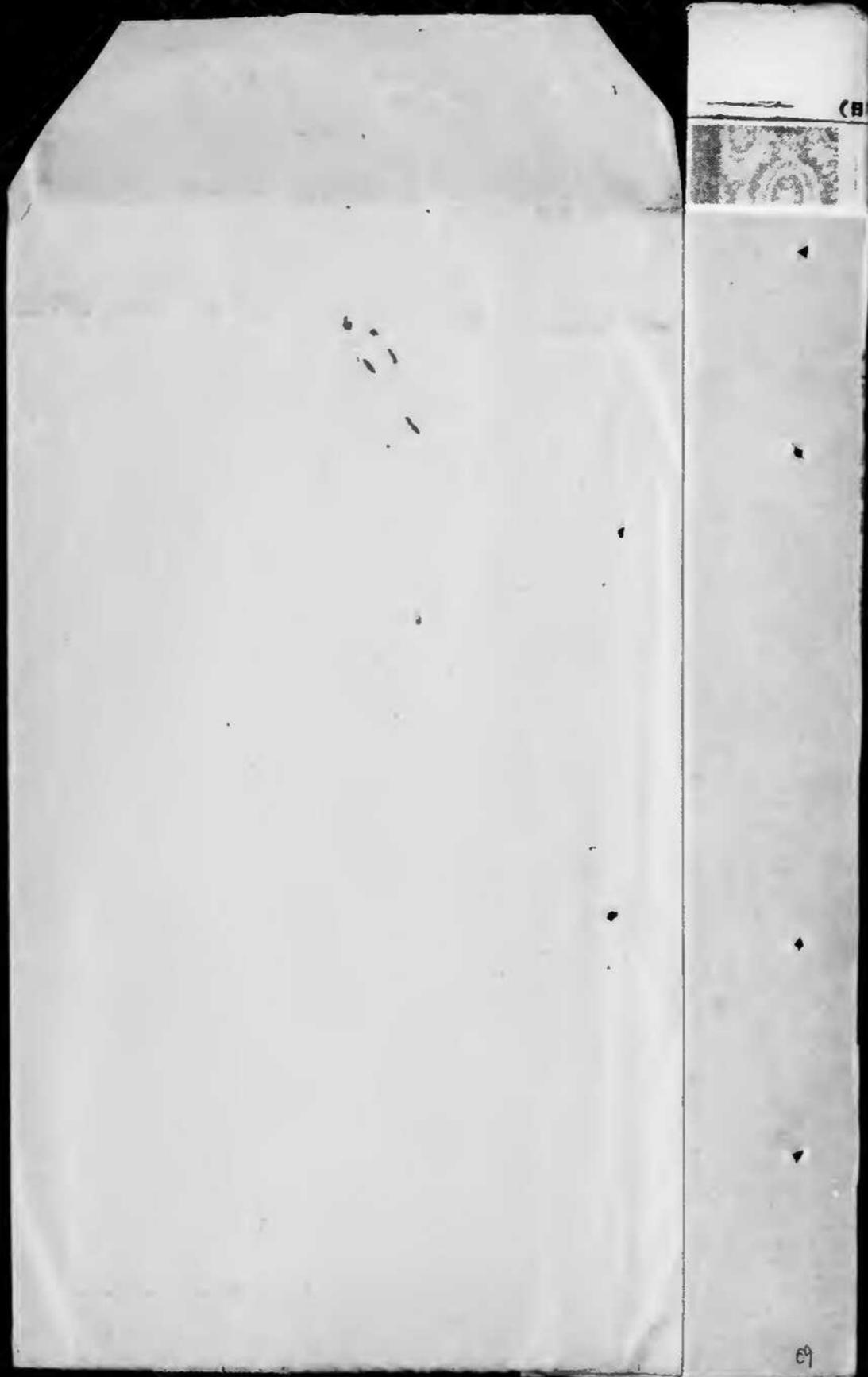
成額一却 (天高寛、續分)

月額十五日三人 同十一月一人

年

一六二四

北海道廳





道臺拓殖部

日	月	年	時	分	秒
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31

1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31

地籍一丁目丁三番線二北市民札 資行銀
 地籍一丁目丁三番線二北市民札 資行銀
 地籍一丁目丁三番線二北市民札 資行銀

裏面あり

北海道居住内客

第九十二第

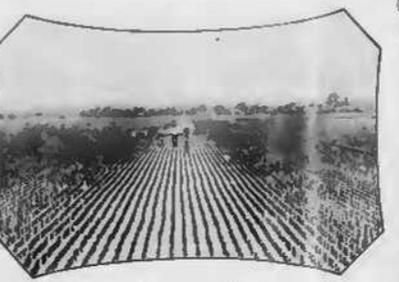


北海道廳拓殖部編

第二 移住者の世話
(八) 林業... (七) 工業... (六) 農業... (五) 漁業... (四) 移住の時期... (三) 移住の準備... (二) 移住の注意... (一) 移住の目的...

第五 開墾
(一) 開墾の目的... (二) 開墾の準備... (三) 開墾の注意... (四) 開墾の補助... (五) 開墾の奨励...

何々銀行 移住者荷物何々ノ内何々
何々郵便何々何々何々何々
何々何々何々何々何々



第八 土地の賣拂貸付

(一) 賣拂地... (二) 賣拂地の種類... (三) 賣拂地の取得... (四) 賣拂地の利用... (五) 賣拂地の管理... (六) 賣拂地の処分...



第一 北海道の概況

近時我が國人口の増加は年々百万人と稱せらるるも資源の開發之れに伴はば、個人生活者共は共に加増しつゝあり。而かも一方地方の充實を期するに切なる努力を得。今や海に我が國は凡ての事情に更迭一節、國民互に強兵強種、而して大なる努力を要する重大なる時期に當りしつゝある。此の秋に際し帝國の運命と個人の生命を托すべき、天恵豊かにして土地を人少なき極端自由の大地北海道を紹介することは實に陛下の念務と信するが故に左に掲げて其の概況を示さん。

Table with columns for year (年次), population (人口), and other statistics. It shows data from 1910 to 1925, including population growth and land acquisition figures.



北海道庁

北海道は二十万平方キロメートルの面積を有する。其の人口は約二百五十万人に達する。其の地味は、北にシベリア、東に千島列島、南に太平洋、西に日本海に接する。其の地味は、北にシベリア、東に千島列島、南に太平洋、西に日本海に接する。其の地味は、北にシベリア、東に千島列島、南に太平洋、西に日本海に接する。

第二 移住者の世話

移住者の世話をなすは、移住者の生活に必要なるものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要な物品を多く必要とする。故に、移住者の世話をなすは、移住者の生活に必要なるものを供給するに在り。

- 第一、移住者の世話をなすは、移住者の生活に必要なるものを供給するに在り。
第二、移住者の世話をなすは、移住者の生活に必要なるものを供給するに在り。
第三、移住者の世話をなすは、移住者の生活に必要なるものを供給するに在り。

第三 移住者の心得

移住者の心得は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。



移住者の心得は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。

移住者の心得は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。

第六 農業經營

農業經營は、移住者の生活に必要なるものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。



Table with columns for crop type (作物), planting date (播種期), and harvest date (収穫期). It lists various agricultural products and their respective cycles.

農業經營は、移住者の生活に必要なるものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。移住者は、移住先で生活するために必要なものを供給するに在り。

この間に、日本は、

一、移住者の世帯... 二、移住者の世帯... 三、移住者の世帯...

第三 移住者の心得

一、移住者の資格... 二、移住者の方法... 三、移住者の資金...



何々銀行 移住者何物何々内何何 何々銀行何物何々

第六 農業経営

一、農業経営の重要性... 二、農業経営の方法... 三、農業経営の資金...

第七 産業獎勵に関する補助施設

Table with columns for industry type, location, and financial details. Includes rows for various agricultural and industrial activities.

第八 土地の賣却貸付

一、土地の賣却... 二、土地の貸付... 三、土地の管理...

第九附録

Large multi-column table containing detailed financial data, interest rates, and administrative information. Includes sub-sections like '未開地貸付' and '北洋自治移住補助規程'.



裏面白紙

1 : 25

昭七 東地 記録

昭七 五ノ三

要再回

五月二十

昭七 年五月十二日

主任

189
5

地方局長
行政課長

内務事務官

年月日

東京府 地方局長

區會設置ニ案云件

五月十三日申地發一七六號ノ以照會相成
候標記ノ件一以見止ノ通ト存候

送受及配局通合								日月付受及配局通合	
第	第	第	第	第	第	第	第	送受	配局
送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	月日	月日

5-20

裏面白紙

理由

市制町村制施行令第六十一条ニ「府令知事ハ市會ノ
 意見ヲ出シテ府令知事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ制定
 シ新ニ區會ヲ設クニトシ得トスルハ本々區會ノ設ケテ
 市ニ適用スルモノト認ム東市ニ於テハ明治三十二年
 府市制第九十三條ノ規定ニ依リ區會條例ヲ設ケ
 其ノ第一條ニ本市毎區ニ區會ヲ設置スルト規定スルヲ以テ
 市域ノ擴張ニ新ニ區會ヲ設クニ於テハ當然新設區ニ區
 會ヲ設置セラルモノト認ム

裏面あり

市制

(明治二十一年四月十七日法律第一〇〇)

第二條第二項 東京市京都市大阪市ニ於テハ從來ノ區ヲ
存ス其區ハ賦産及營造物ニ関スル事務其他法律命令
ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理スルニトス

第百十三條 市内ノ一區ニテ特別ニ賦産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ
設ケ其區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負担スレトシハ府
縣參事會ハ其市會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ発行シ賦産及
營造物ニ関スル事務ノ存メ區會ヲ設ケルコトヲ得其會議
ハ市會ノ例ヲ適用スルコトヲ得(第百四十六條)

第百三十三條第二項 此法律中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外東京市
京都市大阪市及人口ニ十萬以上ノ市ノ區ニ関シ必要ナル

内務省

印ノ事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルノ旨有テ之ヲ條

内務省

昭和十一年

裏面白紙

東京市京部市大阪市、区ニ関スル件

明治三十一年九月
勅令第百十号

第七條 従来ノ区會ハ之ヲ存シ新ニ区會ヲ設ケルトキハ
 市制第百十三條ノ例ニ依ル
 区會ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ賦産及營造物
 ニ関スル事務其ノ他已ニ爲スル事務ヲ議決ス
 区會議員ハ市ノ公選職トス

184
5

申地発一七六號

昭和七年五月十二日

東京府知事 藤 庄 平

内務省地方局長 安 井 英 二 殿

區會設置ニ關スル件

東京市ニ於テハ從來左記條例ニ據リ區會ヲ設クルモ新ニ區ヲ設置シタル場合ニ於テモ右條例ニ依リ何等ノ手續ヲ要セズ當然區會ハ設置セラレルモノト被存候處卿カ於義有之候條何分ノ御回示至急相煩度

記

東京市條例第一號 區會條例

第一條 本市每區ニ區會ヲ設置ス

第二條 區會ハ其區ニ所有スル財産及營造物ニ關スル事件ヲ議

決スルモノトス

東京府



裏面白紙

裏面白紙

第三條 會議ハ市會ノ例ヲ適用ス

備考

本條例ハ明治二十二年四月一日施行市制ニ基キ東京府參事會ガ市會ノ意見ヲ聞キテ明治二十二年七月八日設ケタルモノナリ

東京府

東京市區會設置關係規定

臨時市域擴張部

東京市役所

東京市區會設置關係規定

◎明治二十二年四月一日施行市制

第百十三條 市内ノ一區ニシテ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ
特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ府縣參事會ハ其市會ノ意見ヲ
聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會ヲ設クルト得
其會議ハ市會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百廿一條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一、市條例ヲ設ケ或改正スル事

三、(略)

◎諮問第一號

東京市會

從來各區ニ所有スル財産及營造物ニ關スル事件ノ爲メ市制第百拾三條ニ依リ左ノ
通條例ヲ發行シ區會ヲ設ケントス

東京市役所

右其會ノ意見ヲ問フ

明治二十二年六月八日提出

東京府知事男爵 高崎 五六

區會條例

- 第一條 本市各區ニ區會ヲ設置ス
- 第二條 區會ハ其區ニ所有スル財産及營造物ニ關スル事件ヲ議決スルモノトス
- 第三條 會議ハ市會ノ例ヲ適用ス

◎市制第百十三條ニ依リ區會條例ヲ設ケ第百二十一條ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ受ケ
左ノ通之ヲ定ム

明治二十二年七月八日

東京府知事男爵 高崎 五六

東京市條例第一號

區會條例

第一條 本市每區ニ區會ヲ設置ス
第二條 區會ハ其區ニ所有スル財産及營造物ニ關スル事件ヲ議決スルモノトス
第三條 會議ハ市會ノ例ヲ適用ス

◎明治二十四年九月市條例第二號ヲ以テ明治二十二年市條例第一號區會條例第三條
第四條追加改正

第三條 區會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議
事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス
第四條 會議ハ前條ヲ除クノ外市會ノ例ヲ適用ス

◎明治四十四年十月一日施行市制

第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財産及營造物ニ關スル事
務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス
第七十三條 本法ニ規定スルモノノ外第六條ノ市ノ有給吏員ノ組織任用分限及

東京市役所

其ノ區ニ同シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◎明治四十四年勅令第二百三十九號

市制第六條ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ

東京市
京都市
大阪市

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎明治四十四年勅令第二百四十三號

第一條 市制町村制施行前舊市制町村制ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本令
ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ市制町村制ニ依リ爲シタルモノト看做
ス
第十七條 市町村ノ一部ニ屬スル財産又ハ營造物ニ關シ區會又ハ區總會ヲ設クル

明治四十四年勅令
第二百三十九號
第二百四十三號
市制第六條ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ
東京市
京都市
大阪市

カ爲市町村條例ノ設定ニ付府縣參事會又ハ郡參事會ヨリ内務大臣ニ提出シタル申請ハ之ヲ府縣知事又ハ郡長ノ申請ト看做ス

◎大正十五年勅令第二百一號市制町村制施行令

第六十一條 府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ新ニ區會ヲ設クルコトヲ得

附則第三項

從前ノ規定ニ依ル手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

東京市役所



裏面白紙

雙

東地三六五号

昭七八

裏面あり

及 日 月 付 及

及 號 届 議 合

265

大臣

次官 湯

審査委員

文書課長 持石

地方局

主査行政課長

内務事務官

年月日

東京府知事 花

地方局長

市所村吏員退職給付金支給二箇月分
六月十六日申地及元第三〇号ノ以テ以照會相
成候標記ノ件一八市所支給義隊ア二八

ア-5

82

裏面白紙

理由

町村ノ廢止ニ至ル迄勤勞シタル其ノ町村廢止ノ日
 時ニ退職者トナリ又曰時ニ當該町村ニ退職始時金ノ款
 ヲ支給スル事ナリ然レバ場合ニ其ノ条件ノ規定ニ依
 當ルニト認ムルノ相當トスルニ依リ町村ハ之カ支給
 ノ義務ヲ同時ニ生ズ而シテ之ノ義務ハ財產処分
 ニ依リ東京市ニ承継セラルルニ依リ市ハ之カ支給義
 務アルニトス

然レトモ市ニ於テ當該町村ノ吏員ヲ引續キ採用シ且
 場合ニ於テ旧町村ニ於テ勤勞年數ノ通算年數退職
 始時金、退職料等ヲ支給スルニ依リ、退職始時金
 退職料等ニ乗ズル限リ退職ノ事實ナク之ノト認
 可スルヲ相當ト認ム

265
 7.6.18
 内務省地方局

申地外務部
 乙五〇別

昭和七年六月十六日

内務省地方局長殿

東京府知事



市町村吏員ノ退職給與金支給ニ關スル件照會

東京市境界變更ニ伴ヒ廢止セラレヘキ町村ノ吏員ニ對スル退職給與金ノ支給ニ關シ左記疑義有之候條至急何分ノ御回答相煩度

記

- 一、町村ハ其ノ廢止ニ至ルマデ加務シタル吏員ニ對シ其ノ條例ニ定ムル退職給與金ヲ支給スル義務アリヤ
- 二、前項ノ場合義務アリトセバ市ニ引續採用シタル者ニ對シテ其ノ舊町村ニ於ケル勤続年數ヲ市ニ於テ通算スル種退職給與金條例退職料條例等ヲ設クル場合ニ於テモ尙右吏員ニ對シ町村ハ之ヲ支給ス

東京府

裏面白紙

ル義終アリヤ

東京府

裏面白紙



裏面白紙

昭七赤地四〇八

昭七ノ一二三四

乙

裏面白紙

合議及號及 告及受付月日

第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第
 送交 送交 送交 送交 送交 送交 送交 送交 送交 送交 送交 送交 送交 送交 送交
 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月
 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日



東地局
 408
 12 14

大臣

次官

地方局

支那局長

主査行政課長

昭 和 七 年 十 二 月 五 日 付 局 受 第 月 日 局 送 月 日

右 勿 毋 誤 候

刑 餘 看 復 格 促 成 會 經 過 報 告 一 件
 提 出 看
 刑 餘 看 復 格 促 成 會 幹 事
 山 崎 潔 次



東京市麴町區大手町一丁目二番地

省 務 内

電話番號
(本館交信課)
代表 丸ノ内 (23) 二二三番 (10)
代表 丸ノ内 (23) 二二三番 (9)
夜間直通
巡視詰所 丸ノ内 (23) 二二三番
電信取扱所 丸ノ内 (23) 二二三番
文書課宿直 丸ノ内 (23) 二二三番
警保局圖書課宿直 丸ノ内 (23) 二二〇番

3
翻所送人其
内務省地方司
坂中務報

封筒在中物

方、
牛、
山、
去、

封筒在中物

謹啓

貴社より御送付の

資料先

刑部省に奉

答申の御

事は誠に

宜しう承

知り申上

り候所と

存じます

... 其... 大...

... 其... 代

... 其... 代

... 其... 代

... 其... 代

... 其... 代

... 其... 代

... 其... 代

... 其... 代

... 其... 代

... 其... 代

... 其... 代

裏面白紙



封筒在中物

裏面白紙

昭和七年十一月

以活字代騰寫

經過報告

(第三回)

刑餘者復格促成會

東 408
12 14
修
以
書
閣

経過報告

(昭和七年十一月廿一日)

刑餘者復格促成會幹事

緒言

大正十四年十月京都ニ於テ開催セル輔成會主催第十一回全國司法保護事業協會ハ全會一致決議ノ下ニ現行衆議院議員選舉法中第六條第一項第五號及第六號ノ削除並ニ第七號ノ改正即チ刑餘者ニ對スル缺格條項ノ撤廢ヲ要求シ之ガ實現ヲ期スル爲メ機關トシテ普選法改正期成同盟會ヲ組織シ更ニ實行ノ綱ニ當ル便宜上東京、神奈川、埼玉一府二縣ノ保護事業團體ニ之ガ運動ヲ一任セリ受任團體ハ更ニ實際行動ノ促進ヲ期スル爲メ常役委員又ハ幹事ヲ設クテ爾來此處ニ八年ニ互リ毎議會ニ對シテノ實行運動ハ勿論尙モ機會アル毎ニ相當熱烈ナル運動ヲ進メ以テ今日ニ至リタルモ他ムラクハ事體甚ダ重要問題タルト他亦其後不幸ニシテ政變相繼キテ起リ政局ノ安定ヲ見ルニ至

ラザリシトノ主要原因ニ支障ヲ來タシ今後尙ホ若干期間ノ經過ニ依リ更ニ根強キ運動ヲ進ムルニ
アラザレバ目的達成ノ域ニ到達シ得ザル現狀ニアリ今此處ニ前ニ公開シタル第一回第二回ノ經過
報告ノ後ヲ承ケテ第三次ノ中間報告ヲナサンガ爲メ左ニ項ヲ設ケテ其經過大要ヲ叙ス就テ附屬ヲ
得之ニ諒恕ヲ賜ハラバ幸甚之ニ過ギス

因ニ當時ノ決議ニ依ル普選法改定期成同盟會ノ稱ヲ改メ大正十五年以來現時ノ如ク刑餘者復格
促成會トセルコトハ當時報道シアリタルモ尙ホ念ノ爲メ茲ニ附記ス

第一 本會ノ主張梗概

本會ノ主張ハ既ニ其當時定メラレタルトコロニシテ今茲ニ重キテ叙スルノ要ナキガ如クナルモ
大正十四年以來實行委員トシテ政府ノ要路並ニ貴衆兩院議員其他現ニ續行中ナリシ選舉法改正ノ
爲メ特ニ設ケラレタル臨時法制審議會當該委員等ニ於テ陳情シ且ツ說明ヲ試ミタル要點ヲ更ニ
明確ニスル爲メ下ニ之ヲ略説スルコト、セリ（以下本會トアルハ刑餘者復格促成會ヲ稱シ委員又
ハ幹事ト稱スルハ本會委員及幹事トス）

明治二十二年法律第三號即チ憲法發布ニ次ヲ初メテ公布セラレタル立憲法治國トシテノ衆議院
議員選舉法ハ國民智識ノ尙ホ未ダ發達其域ニ達セザルノ故ヲ以テ選舉、被選舉兩權共ニ其資格ニ
對シ年齡及資産程度ニ相當狹キ制限ヲ設ケ從テ刑罰ヲ受ケシ者ニ對シテモ其制限甚ダ酷ナリシガ
如ク定メラレタルモ爾來國運ノ進展ト文物發展ノ趨向ニ鑑ミ幾度カ本法ニ改正ヲ加ヘ其都度資格
制限ヲ擴張シ刑餘者ニ對シテモ漸次緩和セラレ大正八年法律六十號ノ改正選舉法公布ニ當リテハ
資格制限ヲ納稅額十圓ヨリ三圓ニ引キサゲ刑餘者ニ對シテハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セ
ラレル者ノミヲ缺格者トシ他ハ悉ク有權者トシテ之ヲ認ムルニ擴張シタルコトハ即チ刑餘者ナル
ガ故ニ缺格者トスルノ不條理ヲ確認シタルガ爲メニ外ナラズ但六年以上ノ受刑者ニ對シテハ重大
犯罪者トシテ反社會性ノ重キモノト認メ之ヲ除外スルコト尙ホ舊ノ如クナリシハ之スラ保護事業
家ノ立場ヨリ見テ本規定ノ存置ヲ不合法ト爲シ又其當該者タル刑餘ノ人々ノ甚ダ苦痛トスルコ
ロニシテ折角ノ改正モ不徹底ヲ感ゼシメラレタルニ拘ラズ更ニ大正十四年ノ改正ニ於テ國民多年
ノ要望タリシ普通選舉ヲ斷行スルニ當リ其既存權トモ稱スベキ六年未滿ノ刑餘者ニ對シテ與ヘア
リシ資格ヲモ罪質ニ依リテ之ヲ缺格者ト爲シタルハ時代逆行ノ矛盾ト見ル亦當然ノ叫ビニシテ苟

モ一度與ヘタル權利ヲ奪フコトハ重大ナル過去ニ於テノ否定的理由ナカルベカラズ然ルニ重大缺點ト見ルベキ何等ノ事由ナキニ拘ラズ之ヲ奪還スルハ不法ノ甚ダシキモノト認メ刑餘者ニ代リ全國保護團體ノ結束行動ヲ起スノ已ムナキニ至リシコトヲ各種ノ毎選舉毎ニ幾多悲惨事實ノ暴露ニ泣ク實例等ヲ擧ゲテ之ヲ説明シ陳情トニ努メ又最近ノ行動トシテハ幸ニ現齋藤内閣ハ選舉修正ノ目的ヲ以テ選舉法ノ改正斷行ヲ相關綱領ノ一項ニ加ヘ其諮問機關トシテ臨時法制審議會中特ニ選舉法改正ノ爲メ委員ヲ設ケ之ニ諮問スルコトトナリタル其機會ヲ逸セズ行動ヲ起シタル本會實行委員ノ説明陳情ノ第一理由トシテハ憲法附屬ノ大法院ノ改正ハ之ヲ屢々行ハルベキモノト思ハレズ此好個ノ機會ニ於テ吾會ノ多年要望シ來タレル刑餘者ノ資格回復ノ件モ亦改正事項中ニ加ヘテ審議セラシムコトヲ力説セリ本會實行委員トシテノ行動ハ飽マデ前述ノ論旨ニ重點ヲ置キテ進進セントスルモノニシテ終始一貫此要望ヲ達セズバ已マザルハ勿論ナリト雖モ其梗概ヲ叙シテ參考ニ供スルコト以上ノ如シ

四

第二 議會ノ本法改正法律案上程

大正十四年十一月以來先ヅ以テ當面セル當時ノ第五十一議會ニ於テ本會ノ決議ニ基ク條項削除並ニ改正ヲ提案セラルベク行動ヲ起シタルコトハ第一次第二次ノ本會既報經過報告中其概要ヲ記述シタル如クナルガ更ニ之ヲ詳述セバ其年十二月ヨリ翌年一月ニカケテ市内各所ニ講演會又ハ演說會ノ形ヲ以テ開催スルコト實ニ三十有數回ニ及ビ之ニ依リテ院外ノ輿論ヲ喚起シ毎回議員ノ盛況裡ニ奏功ヲ見殊ニ開催ノ都度政友會所屬議員各位及其他有力者ノ應援演說アリタル爲メ院ノ内外ヲ通ジテ相當有効ナル結果ヲ得次テ政友會ハ政務調査會ノ議ヲ經テ之ヲ黨議トシテノ確定意見ヲ纏メ第五十一議會ニ提案スルコトナリタリ提案ノ贊成者當時ノ同交會、新正俱樂部ノ二派ト共同動作ノ下ニ之ヲ通過シ期シ大正十五年(昭和元年)一月二十二日休會明ケテ待テテ提出ノ手續ヲ了シ三月二日ニ至リテ本會議ニ上程ヲ得政友會ノ牧野良三氏ヨリ提案理由ノ説明アリテ二十七名ノ特別委員ニ附託トナリタルガ提案ノ日ヨリ約四十日ヲ經過シテ始メテ日程ニ上ルニ至リシコトハ眞ニ遺憾トスルモ他ノ重要法案甚ダ多ク殊ニ當時議會ノ情勢ハ提案側ノ政友會及其他ノ二派等何レモ在野黨又ハ與黨關係ニアラザリシノ故ヲ以テ之ガ上程促進上内部ニ幾多ノ支障モアリタル關係ニ置カレ愈ヨ上程ノ日至ルモ既ニ開期剩ストコロ幾干モナクシテ委員會ヲ開クコト數次ニ及

五

ビタルモ逐ニ會期到來シテ審議未了ノ儘閉會ノ餘儀ナキニ至リタリ

六

會期豐ナル當時ニ於テ上程セラレタリトスルモ當時ノ政友會ハ其數ニ於テ與黨憲政會ノ反對ニ會シ或ハ敗レタルヤモ知ルベカラザル政情ニアリタルハ遺憾トスルトコロニシテ當時ノ期待必ズシモ有利トナス能ハザリシモ此上程ニ依リテ本會行動ノ第一歩ヲ進メ實現可能ノ將來ヲ見出シタルコトハ本會行動ノ第一印象トシテ特記ニ値スベシト信ズルナリ

次テ第五十二議會ニ於テ當時ノ革新俱樂部林田龜太郎清瀨一郎氏等同俱樂部員一同ヨリ本會要望ノ條項削除及其他ノ資格制限撤廢ノ改正法律案提出セラレ昭和二年二月十七日上程清瀨一郎氏ヨリ提案理由ノ説明演說アリテ直ニ特別委員十八名ノ指名アリ引續キテ委員會ヲ開クコト數次政友會亦之ニ賛同シテ前第五十一議會ニ於ケル審議未了ノ後ヲ承ケテ極力本提案ヲ通過セシムヘク所屬各委員專ラ議事ノ進行ニ盡シ越テ同月十九日政友會ハ院內ニ政務調査會並ニ代議士會ヲ開キテ本法案通過ニ就キ行動ヲ進ムヘク決議セリ

本委員會進行ノ途上當時ノ政友本黨ニ對シ本法案ニ賛成ヲ與ヘラル、様本會幹事及委員ハ院ノ内外ニ於テ猛烈ナル運動ヲ試メ同黨ノ幹部及本委員會委員ト幾度カ會見シ親シク懇望説明ヲ重キ

タル結果今直ニ無條件資格附與ヲ要目トセル本改正法案ニハ賛意ヲ表シ難シトノ同黨公式意思表示アリタル爲メ然ラバ如何ナル程度ノ改正ヲ以テ可トスナルカニ就キ協議ノ結果提案者タル林田清瀨ノ兩氏並ニ政友會モ此程度ナレハ過程的改正ノ已ムナキニ忍ブヘシトノ協同的意向ヲ示サレタルニ依リ本會幹事ハ其意向ヲ承ケ急遽本會委員總會並ニ幹事會ヲ開キテ即時意向決定ノ上林田清瀨兩氏及政友會ニ回答スベク取運ビ結局政友本黨ノ修正意見ヲ參照シテ本會ノ決議ニ基キ修正案即チ讓步案トシテ左記ノ如キ立案ヲ得議院ニ赴キ先ツ政友會ノ同意ヲ求ムベク提示セリ

修 正 案

第六條第一項第五號ヲ左ノ如ク修正ス

六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クコトナキニ至リタル後五年ヲ經過セザル者

(註) 現行法ノ規定ハ六年以上ノ刑餘者ハ終身缺格者ナリシヲ改正提案ニ於テハ全然之ヲ削除シテ五年間ノ有期缺格トスルニアリ

七

第六條第一項第六號ヲ左ノ如ク修正ス
刑法第二編第一章(皇室ニ對スル罪)第二章(内亂ニ關スル罪)第三章(外患ニ關スル罪)ニ掲グル
罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後
五年ヲ經過セザル者

(註) 現行法ノ規定ハ前記註ニ示シタル外刑法第二編第九章第十六章乃至第二十一章第二十五章又ハ第三
十六章乃至第三十九章ニ掲グル罪ヲ犯シ云々トアリテ其資格範圍ノ罪實多クテ刑罰シアリ又刑期ノ二倍
ニ相當スル期間ノ經過ヲ條件トシ其期間五年ヨリ短キトキハ五年トストアルテ刑期ノ如何ニ拘ラズ修正
案ノ亦ス如キ罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ五年間ノ定期執行トスルニアリ

第六條第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ
前項第五號第六號ニ掲ゲタル刑ニ處セラレタル者ハ其執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ
至リタル後五年ヲ經過シタル時ト雖モ被選舉權ヲ有セズ

(註) 本項ノ修正意見ハ大ナル讓歩ニシテ改正法案ニ於テハ全然白紙ノ狀態ニ引戻シ選舉被選舉權トモ
附與スルニアルニ對シ被選舉權ヲ與ヘズト云フニアリ

要スルニ本會ガ政友本黨トノ交渉ノ末斯クノ如キ程度ノ改正ナレバ一時之ヲ忍ビテ刑餘者ノ苦
痛緩和ヲ計リ次デ來タルベキ第二次ノ選舉法改正ノ機會ニ乘ジテ更ニ本會主張ノ如ク即チ前第五
十一議會及今五十二議會ニ提案セラレタル如ク無條件撤廢ノ目的達成ニ向テ行動ヲ起スモ亦已ム
ヲ得ズトノ意向ヲ示シタルモノニテ大正十四年十月ニ於ケル協議會ノ決議ニ副ハザルモノアリテ
之ガ修正同意ニ對シテハ更ニ全國協議會又ハ全國參加團體ノ意向ヲ徵スベキヲ至當トシタルモ事
火急ノ場合之ヲ謀ルニ迫ラレ在京團體幹部ノ意向ノミニ依リテ取計ヒタルコトハ他日ニ至リ事後
承認ヲ求ムベキコトヲ保留シタル次第ナリ

然ルニ政友本黨ニアリテハ本協案ニ對シテモ尙ホ未ダ全黨ノ意向ヲ纏メ難ク荏苒決スルトコ
ロナカリシ爲メ政友會モ遂ニ與スベカラズトナシ即時院內代議會ニ謀リテ本議會ニ於テハ審議未
了トナシ更ニ次ノ議會ニ於テ政友會及其提案者タリシ第一控室ノ諸團體ト共ニ獨自ノ提案トシテ
本會要望ノ通り上程通過ヲ圖ルニ如カズトノ決議ヲ爲シ以テ本第五十二議會ノ終末ヲ告グルニ至
リタリ

此議會ニ於テモ會期既ニ日曉ノ間ニ迫リ委員會ノ決議ヲ得テ本會議ニ附セラレ幸ニシテ委員會

決議ノ如ク可決確定セラレタリトスルモ之ヲ貴族院ニ廻付シテ上議スルノ餘日之ナカリシコトハ明白ノ事實ナリ左レドモ衆議院ノ可決確定更ニ下ツテ委員會ノ決議ダケニテモ之ヲ得レバ本問題ニ對スル第一階梯ヲ進メタルモノトシテ將來有利ニ展開シ得ベキ時期シ本會幹部者ハ院ノ内外ヲ通ジ殊ニ當委員會中政友本黨及憲政會委員ニ對シテハ本會幹部者終始院内ニ出入シテ贊成ヲ求ムベク十二分ノ努力ヲ捧ゲタルコトハ特筆スベキ事實ナリト信ズ

第三 其後ノ經過要領

前項議事日程ニ上リタル其前後ニ於テ全國各團體ニ應援ヲ求メタル如ク全國津々浦々ニ互リテ數萬ノ請願調印ヲ得之ヲ取リマツテ「トラツク」ニ滿載シ貴衆兩院議長ニ請願文書トシテ提出シタルコトハ既ニ全國本團體ノ熟知スルトコロナリ更ニ其後又請願書ヲ提出シタルコト數次ニ及ベリ

爾來當時ノ加藤首相歿後ヲ繼承シタシ若槻内閣ニ至リ第五十一・第五十二兩議會ヲ經タルモ昭和二年五月若槻内閣ノ總辭職ニ因リテ田中内閣即チ政友會内閣ノ出現ヲ見ルニ至リタルガ元來政友

會ニアリテハ前述ノ如ク既ニ其黨議ニ於テ本會ノ要望ヲ容レ第五六兩院共全部削除ノ改正法案トナスベキ意同確定シアルニ依リ本會ハ大ニ之ニ期待スルトコロアリタルモ第五十三通常議會ハ解散セラレ第五十四議會ハ解散後ノ特別議會ニ當リ又第五十五議會ダケハ通常議會トシテ開カレタルモ諸般ノ政務多岐ニ互リ又政情必ズシモ安定ト見ル能ハザリシ爲メ遂ニ本法案ノ提案ヲ見ルニ至ラズシテ終リ次テ第五十六議會ハ昭和四年七月ニ於ケル田中内閣總辭職ノ後ヲ承ケ濱口内閣之ニ代リタル爲メ遂ニ復解散セラレ第五十七議會ハ解散後ノ特別議會ナリシタメ提案ノ餘地ナク第五十八第五十九兩議會ハ濱口首相兇變ニ斃レテ若槻民政黨内閣ノ持續ニアリテ通常議會ノ無事開會ヲ見タルモ遂ニ提案ニ至ラズ第六十議會ハ昭和六年十二月ニ於ケル第二次若槻内閣ノ總辭職ニ會シ政友會内閣即チ犬養氏首相トシテ組閣ノ結果遂ニ此議會ハ解散セララルル等爾來八年ニ互ル長年月ヲ本會行動ノ爲メ盡力怠ラザリシモ政界ノ安定ヲ見ルコト能ハザリシ政情取摺ギ遂ニ議會ノ問題タラシメ得ズシテ今日ニ至レリ

第四 政府及樞密院ニ對スル陳情

此間ニ在リテモ不斷ノ陳情運動ヲ緩ムルコトナクシテ努力ヲ續行シ政府及樞密院ニ向テ陳情
シ昭和四年十二月時ノ濱口内閣ニ於テ選舉改正ノ意圖ヲ有シ選舉法改正ノ目的遂行ノ爲メ委員會
ヲ組織シタルニ依リ本會ハ之ニ對シテ陳情スルト共ニ政府ヨリ該改正法案ノ樞府御諮詢ヲ奏請シ
タル機會ニ當リ文書ヲ以テ或ハ出頭會見ヲ求メテ陳情ヲ試ミタルモ政府ハ該法案撤回ノ事情ニ至
リシ爲メ之亦水泡ニ歸シタリ政府及樞密顧問官各個人提出シタル陳情文左ノ如シ
又大正十四年以來屢々其機會アル毎ニ夫々陳情文ヲ提出シ且ツ直接面謁ヲ求メテ具情シタルコ
ト幾十四ニ及ベルモ其陳情要旨ニ至リテハ終始一貫異ルトコロ之ナク寧ろ事復難ニ互ルヲ以テ他
ハ悉ク省略スルコトトセリ

選舉法改正ニ關スル陳情

我利餘者復格促成會ハ衆議院議員選舉法第六條第一項第五號及第六號ノ利餘者ニ對スル缺格條項ヲ改正
セラルルヤリ要請スルタメ大正十四年十月全國釋放者保護團體七百有餘ヲ以テ組織セラレタルモノニ有之
當初普通選舉法改正期成同盟會ト稱シ翌十五年十月現今ノ名稱ニ變更シタルモノニ有之候本會ハ前記ノ如
ク利餘者保護ノ任ニ當リツツアリテ有選舉法ノ缺格條項ニ四リ利餘者ノ窮地ニ陥ル狀況ニ賦視シ能ハザ
ルモノ有之大正十四年十一月三十日內務司法兩大臣ニ選舉法ノ改正ヲ陳情シ且ツ第五十一、第五十二、第
五十五及第五十六各議案ニ本會ノ要請ヲ貴衆兩議院ニ請願シ衆議院ニテハ毎ニ之ヲ採擇セラレ貴衆院ニテ
ハ審議未了トナレリ又衆議院議員各位モ本問題ニ熱烈ナル賛意ヲ表セラレ第五十一議會及第五十二議會ニ
ハ議員ヨリ本選舉法ノ改正案ヲ提出相成兩院トモ特別委員ニ附託セラレ審議未了ト相成居候後地方議會
議員選舉法モ衆議院議員選舉法ヲ準用セラレ且數回各種議員ノ選舉ヲ行ハレタル結果利餘者ノ社會的信用
ヲ傷ツケ養生ノ方途ヲ失ハレシムル等其ノ窮狀愈々深刻ニ相繼キ候ニ就テハ今同選舉改正調査會設置相成條
承候間此際同選舉法ニ於ケル利餘者缺格條項ヲ適當ニ改正相成ルヤリ御取計被下度此段陳情仕候也
昭和四年十二月十七日
利餘者復格促成會代表(十七團體代表者記名調印)

第五 清瀨一郎氏ノ提案

元革新俱樂部ニ在リテ常ニ本會ノ行動ヲ援助セラレ滿腔ノ同情ヲ以テ本目的ノ達成ニ力ヲ致シ
呉レタル衆議院議員清瀨一郎博士ハ最近齋藤現内閣ノ臨時議會(昭和七年七月第六十三議會)ニ於
テ選舉改正ヲ骨子トセル衆議院議員選舉法改正法案ノ提案ニ當リ豫テ本會ノ要請達成ノ爲メ盡サ

レタルガ如ク缺格條項ノ全部削除ヲ該改正法案中ニ明記シ之ガ上程ヲ見特別委員會ノ審議ヲ經タルモ臨時議會ナリシ爲メ會期甚ダ短ク遂ニ審議未了ニ終リタリ以上ノ如ク爾來八年ニ互ル長年月間前後三回議會ノ提案ヲ見ルニ至リシコトハ之畢竟本會行動ノ實現化ヲ事實ノ上ニ表明シタルモノトシテ其術ニ當リタル本會受囑委員ノ聊カ意ヲ強フスルニ足ルトコロナリ

第六 民政黨内閣及民政黨ノ意向

本會行動ノ第一次的發現トシテ本會ノ主張ヲ容レタル政友會ハ議員安藤正純氏ヨリ時ノ第五十一議會ノ初期ニ於テ刑餘者ヲ缺格扱ヒスルコトノ不合理ヲ理由トシテ政府ハ之ヲ改正スルノ意思アリヤ否ヤヲ若槻首相兼攝内務大臣ニ質問ヲ試ミタルニ對シ首相ハ内務大臣ノ資格ヲ以テ最モ明確ニ之ヲ斥ケ重大犯罪者ニ對シテ選舉權ヲ與フルコトノ不可ヲ説キ改正ノ意思ナキヲ言明シ又此議會ニ於テ貴族院議員子爵板倉勝憲氏ヨリ右同様ノ質問ヲ發シタルニ對シテモ衆議院ニ於ケルト同一ノ意味ヲ以テ改正ノ要ナシト答辯セリ夫レアリテ以來其與黨タル當時ノ憲政會即チ今日ノ民政黨ハ黨議トシテ常ニ反對ノ立場ニ居リシ爲メ本會ノ陳情モ殆ンド之ヲ容ル、ニ由ナカリシナリ

左レド黨議ノ拘束ナク各自議員一個ノ私見ヲ赤裸ニ開述スル場合刑餘者ニ對スル同情ハ政友會議員諸士ト毫モ異ルナク何トカシテ之カ改正ヲ行ヒ以テ刑餘ノ人々ヲ斯ノ痛苦ト不名譽ヨリ救出シ度キモノナリトノ意向ヲ懷ケル諸士寧ロ多數ニ上リ自己ノ屬スル政府又ハ黨幹部ノ意向ニシテ之ヲ自由問題トシ或ハ進ンデ本會主張ヲ容ルルコトアルニ至レル場合ハ之等ノ同黨議員諸士ハ固ヨリ反對スルモノトハ信ゼラレズ只借シムラクハ當年若槻兼攝内相一面與黨ノ總裁トシテノ言明餘リニ強固ナリシニ異セラレテ遂ニ黨議ノ拘束已ムヲ得ザルニ出デタル實狀ニアルコトハ甚ダ遺憾トスルトコロナリ

第七 政友會及其他ノ各派

政友會ハ當初ヨリ之ヲ贊シ黨議ノ決定ヲ持續スベキコトハ前述ノ如クナルガ目下同黨政務調査會中特ニ選舉法改正委員會ヲ設ケ議員山崎達之輔氏政務調査會長ノ下ニ議員岡田忠彦氏ヲ主査委員長トセル機關ニ依リテ審議ヲ進メツツアルガ本會ノ主張ニ對シテハ勿論從來ト毫モ異ルコトナキハ昭和七年八月本會委員四名帶同ノ上政友會本部政務調査會室ニ於テ山崎政務調査會長岡田主

査委員長政務調査會副會長田子一民等ノ三氏列席シテ本會委員ノ陳情ヲ聴取セラレ政友會トシテハ他マデ黨議ヲ尊重シ以テ其要點ヲ容ルルニ何等變更ヲ來タサズト最モ明確ナル答辯ヲ與ヘラレタルニ看テ明ナリ

又安達謙親氏ニ依リテ近ク政黨組織ノ發表ヲ見ルニ至ルヘキ國民同盟ニ在リテモ革新俱樂部ヲ解消シテ之ニ參加シタル本會主張ノ支持者清瀨一郎氏アリ又貴族院ニ席ヲ置ク關直彦氏等ノ贊成者ノアルアレバ同派トシテモ愈ヨ議院ノ問題トシテ提案ノ場合政友會ト同様ノ歩調下ニ行動スルモノト見テ不可ナカルヘシ

以上各政黨ニ對シテハ機會アル毎ニ代議士トノ個々而接ヲ續行シテ今日ニ至リシ其効果ハ一朝本問題ガ議政壇上ニ現ハレタル場合有利ニ展開シ來タルベキヲ信ジテ之ヲ疑ハザルナリ

第八 貴族院各會派ノ意向

本問題ニ取リテ最モ懸關トスルハ樞密院及貴族院ナリ樞密院ニ於テハ政府案ノ御諮詢奏請ニ對シ審議ヲ進ムルニ當リ本件即チ剩餘者ニ對スル缺格規定削除ノ如キハ最モ至難事トシテ之ヲ排斥

スルニアラズヤトノ懸念ナキ能ハズ前記ノ如ク本會委員ハ書面陳情ノ外面講ヲ求メテ陳情スルトコロアリタルモ顧問官タル地位ニ考慮ヲ置キ斷ジテ可否ノ實質ヲ與ヘズ只一應聽キ置クノ程度ニ止マルハ之亦當然ノコトナルベシト察セラレ

貴族院モ亦大同小異幾度カ陳情シ幾人カノ議員ニ面接ヲ求メテ陳情シタルモ容易ニ可否ノ斷案ヲ下サズ只交友俱樂部所屬ノ議員ノミハ大勢ニ於テ政友會ノ意向ヲ繼承スル内意ヲ示サレタルニ止マリ其他研究會ニアリテモ勅選議員ノ或一部ニ於テハ最モ有力ニ本會ノ主張ヲ容認セラレル向キ多ク之アリトスルモ愈ヨ研究會トシテノ團體的ニ一致行動ニ於テ之ヲ決スル場合果シテ何レニ傾クベキカハ今遽ニ測定ヲ許サザルモノアルコトハ從來ノ折衝ニ徴シテ若干ノ不安ナシトセズ

公正會亦之ト大同小異或ハ寧ロ研究會ヨリモ比較的反對的傾向ノ多量ヲ含ムモノト見ラレザルニアラズ其他ノ會派亦然リ殊ニ同成會ニ至リテハ或ハ絕對反對性ヲ有スルモノト見テ不可ナカルベシ以上ハ本會委員ニ於テ之等各會派議員諸士ト會見ノ上陳情數次ニ及ビタル其結果ニ徴シテノ判斷ニ止マルト雖モ今日迄ノ運動經過ヲ叙スルニ當リ參考トシテ其大要ヲ記述シタルニ過ギズ實際ノ問題ハ今後ノ趨向ニ求ムベキハ固ヨリ論ヲ俟タズ

第九 各政黨ニ提出シタル陳情文

昭和四年十二月時ノ政府濱口内閣ニ改正法案提出ノ意向アリテ調査機關ヲ設ケ各政黨モ亦之ニ伴フテ調査會ヲ設ケタル其當時各政黨ニ對シ提出シタル陳情文左ノ如シ

衆議院議員選舉法中刑罰者資格事項削除ニ關スル陳情

我等全國七百有餘ノ司法保護事業團體ハ衆議院議員選舉法第六條第一項第五號及第六號即チ刑罰者ニ對スル資格事項ノ撤廢ヲ期スル目的ノ下ニ過ル大正十四年十月有全團體ノ大會ヲ開催シ其實行機關トシテ刑罰者資格促進會ヲ組織シ以テ今日ニ至レリ

本會ハ先ヅ其第一着手トシテ同年十一月内務、司法兩大臣ヘ之ヲ陳情シ一面一般社會ニ對シテ本會行動ノ趣旨ヲ知ラシメ以テ其輿論ヲ喚起スベク宣傳ニ力メ時ノ第五十一議會召集ト共ニ各所ニ講演會ヲ開クコト實ニ三十有餘回ニ及ビ其都度知名ノ士ヲ聘シテ相當成績ヲ得タルモ要ハ院內ニ於ケル同意ト其同意ノ現實化トニアルハ勿論ナルヲ以テ下名等實行委員ハ貴衆兩院議員諸士ヲ歴訪シテ具ニ之ヲ懇ヘ衆議院ニアリテハ議員有志ノ諒解贊成ノ下ニ院內行動ヲ進メラレ議院提出法案トシテ上程セラルルニ至リ第五十一、第五十二兩議會ニ於テ特別委員會ニ附議セラレタルモ不幸ニシテ兩院共會期迫リ審議未了ノママニ拂リ去

ラルルノ悲運ニ會シタルコトハ我等ノ甚ダ遺憾トスルトコロナリ

本會ハ不屈不撓飽クマテ本目的ノ達成ヲ期スベク爾來努力ヲ怠ラズ第五十五、第五十六兩議會共ニ貴衆兩院ニ對シテ數萬人ノ名ヲ列ラネ右ニ開シテノ請願文書ヲ提出シタルニ對シ貴族院ニアリテハ其都度審議未了ニ終リ衆議院ニアリテハ何レモ採擇ノ光榮ヲ得タリ以上過去ノ事實沿革ニ付テハ議員諸賢士ノ夙ニ諒知セラレタルモノトシテ茲ニハ單ニ其梗概ノミ記スニ止ム

而カモ我等ノ目的達成ニハ前途遠望果シテ何レノ日ニ於テ其期成ノ域ニ到達スベキカテ想フ時我等ハ略然トシテ悲嘆セシメラレザルヲ得ズ爾來數年我等ハ町村市所屬會衆議院等中央地方ノ各種選舉ノ實際ニ直面シテ得タル當該利益者ノ悲痛ヲ極メシ實例ハ擧ゲテ之ヲ數フルニ遺ナシ爲メニ彼等ハ其居ヲ移シテ自カラ除ヲ略マシ或ハ又自暴自棄ノ結果其行ヒテ荒廢ニ委ネ或ハ更ニ一步ヲ進メテ累犯者トシテノ非行ヲ敢テ爲ス等實ニ涙ナクシテ聞キ涙ナクシテ視ル能ハザル實狀モ亦少シトセズ彼等ノ多數者ハ何レモ所定ノ刑罰ヲ終リテ社會人トシテノ更生生活ニ移リ營々トシテ善善悔悟其業ニ勵ミツツアルニモ拘ラズ各種議員選舉毎ニ其ノ名稱ヨリ除外セラレ公的生涯ノ開外ノ排除者タルノ事實暴露ニ因リテ社會的立場ヲ失フト共ニ必至ノ結果トシテ其業ヲ敗リ其業ヲ失ヒ延イテ生活苦ノ悲鳴ヲ餘韻ナクセラレルニ至ル而カモ彼等ハ自カラ選ンテ之等悲痛ノ事實ヲ訴ヘ或ハ選ンテ選舉權利附與ノ聲ヲ擧ゲ得ザル立場ト境遇トニ置カレ或ハ又家庭

ニアリテハ爲ニ夫婦親子間ノ不和ヲ惹起スル等ノ惡劇ニ泣ク之等ノ人々ニ代リテ其苦衷ヲ訴ヘ以テ彼等生
活ノ前途ヲ遮ルガ如キ選舉法中當該條項ノ改正ヲ要求陳情ノ爲メ努力ヲ惜マザル我等ノ願ヘニ聽カレ近ク
行ハレント聞ク選舉法改正調査會ニ之ヲ附議セラレ或ハ又貴會政務調査會ニ之ヲ審議セラレ當該條項ノ
遂行ニ御同情ト御考慮トヲ賜ハラント切望スルガ故ニ本陳情ニ及ベリ

若シ夫レ情實の見地ヲ離レテ純理上同法當該規定ノ存否研究ニ至リテハ我等又不敏ト雖トモ相當論議ノ
根據ヲ有リ正々堂々其主張ヲ陳ブベキモノ之レナキニアラザルモ斯クノ如キハ賢明ナル議員諸賢士並ニ貴
會トシテノ御見地上寧ロ我等以上適切ナル御研究アルベキヲ信ズルガ故ニ敢テ茲ニ之レヲ贊セズ

因ニ本會ハ元普通選舉法改正期成同盟會ト稱ソタルモ大正十五年十月ニ至リ全國大會ノ折現會名ニ改稱
シタリ

昭和四年十二月十五日

別紙若林健成會代表(實行委員各十七團體代表者記名調印)

第十 法制審議會ニ對スル運動

齋藤現内閣ハ組閣ニ當リ其重要政策ノ一要項トシテ從來兎角ノ非難多カリシ選舉界ヲ革正スベ

ク其實行順序トシテ臨時法制審議會中特ニ選舉法改正ニ對シ答申ヲ求ムル爲メ内務司法兩大臣貴
衆兩院議員若干名及行政裁判所評定官、樞密顧問官法制局長官内務司法兩各次官並ニ民間有識者
中ヨリ七十餘名ノ委員ヲ舉ゲテ委員會ヲ設ケ之ニ對シテ諮問ニ附ス本審議會ハ昭和七年七月ヨリ
其調査ヲ開始セラレタルニ依リ促成會委員ハ全員ヲ舉ゲテ猛運動ヲ開始シ陳情文ヲ各委員並ニ同
會各幹事十數氏ニ提出スルト共ニ促成會全委員ヲ三班ニ分チ戸別ニ各委員ヲ訪問面謁ヲ求メテ親
シク陳情スルトコロアリタリ此運動ハ時恰モ猛夏炎天下ニアリテ其勞苦ヲ感ズルコト夥シカリシ
ト雖モ遂ニ之ガ斷行ヲ了シ相當効果ヲ納メ得タルコトハ本會委員各自ノ聊カ慰ムルトコロアリタ
ルヲ覺ユ

本審議會ハ審議進行ノ便宜上委員清瀬一郎氏外數氏ノ發議及同意ニ依リ主任委員二十七名ヲ舉
グテ審議ヲ進ムルニ至リタレバ本會委員ハ更ニ其ノ主任委員中特ニ陳情ヲ要スベキ主任委員長水野
鍊太郎氏ヲ始メ其他數氏ヲ歴訪シテ陳情ヲ重ネ水野委員長ニ對シテハ數次ノ會見ヲ求メテ極力缺
格條項ノ削除ヲ懇請シタリ

本審議會ハ齋藤首相ノ選舉界革正ヲ第一要目トシタル上ニ於テ其諮問範圍モ亦選舉ヲ最モ公正

111
嚴格ニ行フコトニアリタレバ選舉干渉ノ防止、買收行爲ノ取締、選舉運動ノ取締、選舉費ノ最少限度制限、選舉ノ一般的方法等ノ改善ニ限ラレタルニ依リ從テ年齡ノ低下並ニ區制ノ問題ヲ始メトシテ比列代表制度ニ關スル件等ヲスラ問題以外ト見做サレタル爲メ選舉、被選舉資格ニハ及ボサザルヲ原則トセラレドモ同ジク選舉法ノ改正タル以上改正ヲ要スベキ點ニツキテハ各委員ヨリ夫々ノ意見出テ此場合本會ノ陳情シタル缺格問題ニ及ビテ論議セラレ多數委員中ニハ缺格條項即チ刑餘者ニ關スル當該條項ノ削除ヲ熱心ニ力説セラレタルガ如ク承知スルモ政府側トシテハ容易ニ之ニ應ズルコトヲナサズ又同ジク資格問題中破産者缺格ノ削除、貧困ニ因リ公私ノ救助ヲ助クル者トアルヲ削リ、其他居住制限ヲ短縮スルコト、不在投票ヲ緩和スルコト等モ亦刑餘者缺格ト同様此際緩和若シクハ撤廢スルコトノ主張ニ對シ幾多議論ノ末之ヲ認ムルニ至リタルガ如ク報セラレ而シテ刑餘者ノ缺格條項ニツキテハ六年未滿ノ者ニ對シ之ヲ三年間ノ資格停止ニ短縮スルコトノ意向ニ傾キタルガ如クナルモ右ハ主査委員會ニ於ケル決定ニ止マリ更ニ之ヲ委員總會ニ謀リテ愈ヨリ確定答申案トサルベキモノナリト信ズルモ本經過報告起草ノ日(七年十一月二十一日)迄ニハ該委員總會ノ決定ヲ見ルニ至ラザリシ爲メ今此處ニ明記シ得ザルヲ遺憾トス

104
想フニ此三年間ノ資格停止說ハ總會モ之ヲ認メテ答申案ト爲スベキヲ疑ハズト雖モ之甚ダ不徹底極マル改正ニシテ五十歩百歩之ナキニ若干優ルト云ヘル程度ニ過ギズシテ本會ノ要望ハ達セラレザルヲ之惜シム殊ニ其三年間ノ短縮緩和ナルモノガ現行法ノ示ス如ク刑期ノ二倍トシテ其之ニ滿タザル者ハ三年間トスト云フニアレバ又甚ダ不合理千萬ノ沙汰ナリ同ジク三年ニマデ低下シタリトモバ其刑期ノ如何ニ拘ラズ三年ノ經過ニ依リテ復權資格者トナスト云フニアラザル以上三年ノ短縮モ何等有難味ノナキ結果トナルベシ

何レニモセヨ法制審議會モ多數ノ制スルトコロトナリテ本促成會多年ノ要望ヲ容ルルコトナクシテ終リテ告グ之ヲ政府ヘノ答申確定案タラシムルニ於テハ今後ハ本改正法案ノ議會提出ヲ待ツマデモナク直チニ行動ヲ續ケテ貴衆兩院議員ニ對シ猛運動ヲ試ミ議會ニ於テ政府提案ニ修正ヲ加フルコトトナサザルベカラズ之本會委員ハ勿論全國保護團體ノ一致協力ノ下ニ之ガ目的貫徹ニ邁進スベキコトヲ緊急事トスルノ要アル所以ナリ

法制審議會ノ經過大要以上ノ如クナルガ政府ハ果シテ本答申ヲ尊重シ其儘之ヲ政府案トシテ採用シ樞府ニ御諮問アルベク奏請シタル場合樞府亦果シテ政府奏請案ノ全部ヲ無修正ノ下ニ決議シ

之ヲ奉答スベキカ否カモ容易ニ斷ズベカラズ此場合折角三年ニマデ緩和セラレタル刑餘者ノ缺格
條項ノ生命モ亦タ危イ哉ノ危懼ナキニシモアラズ何レニシテモ今後終局ノ問題ハ議會ニアルコト
前述ノ如クナレバ過タル大正十四年十月ニ於ケル第十一回全國協議會ノ決議當時ノ意氣ヲ以テ其
決議ノ實行ニ努力ヲ要スベキコト重ネテ説クノ要ナカルベシ

因ニ時恰モ法制審議會審議續行中七年九月十三日ノ保護デーニ際會シタルヲ以テ全國各團體ニ
於テ其ノ府縣選出代議士ニ對シ本會要望ノ目的達成ニ努力セラレンコトヲ交渉シタルガ如ク東京
ニアリテモ各委員總出ヲ以テ同様其選出代議士ヲ三名乃至四五名一隊トナリ各戸ヲ歴訪シタルコ
ト並ニ此日東京ニ在リテハ朝日新聞副社長下村宏博士大阪ニアリテハ光行控訴院檢察長ニ頼リテ
ラヂオ放送中刑餘者ヲ選舉缺格者トシテ差別待遇ヲ爲スノ不合理ヲ説キ選舉法ノ改正ニ依ル資格
回復ノ點ヲ織込マレ全國ヘノ中繼放送ニテ廣ク宣傳セラレルコトヲ之ヲ附記ス

第十一 法制審議會委員へ提出シタル 陳情文並ニ理由書

前項ノ如ク法制審議會委員全部ニ對シテ連日本會各委員ノ總動員ニ依リ各個歴訪シタル際之ヲ
提出シ或ハ不在其他ノ事由アリテ面謁シ得ザリシ委員ニ對シテハ之ヲ郵送又ハ携行スル等ノ手順
ヲ遵ビタル共陳情文並ニ附帶理由書別記ノ如シ

本陳情書及理由書ハ同ジク此運動ニ際シテ内務、司法兩大臣ヲ訪問シタル際之ヲ呈シ又法制
審議會幹事ノ全員ニ對シ之ヲ提出シタル外參考トシテ各政黨政務調査會ヘモ會見ノ上提出ヲ了セ

衆議院議員選舉法中刑餘者缺格條項削除ニ關スル陳情書

衆議院議員選舉法中刑餘者缺格條項削除ノ件ニ付大正十四年十月全國司法保護事業團體ノ決議ニ依リ實
行委員トシテ下名等其ノ任ニ當リ爾來今日迄其實現要望ノ運動相繼續致シ來リ候處今同右議員選舉法改正
ヲ法制審議會ニ於テ御審議相成候事ヲ承知致候ニ付テハ下名等ノ願意ヲ容レラレ刑餘者缺格條項削除相成
候様御詮議ヲ得度別紙理由書並ニ參考書相添ヘ此段及陳情候也

道テ刑餘者資格促進會ハ本目的遂行ノ爲メ全國司法保護事業關係者ヨリ便宜上東京、神奈川、埼玉一府
二縣所在ノ保護會當事者ニ之レガ具情要請ノ件ヲ一任セラレ候ニ付下記團體等ヲ本運動ヲ進メ來リ候
ヘドモ今同ノ陳情ニ際シテハ本ノ案項ヲ避ケルガ爲メ末尾署名ノ少數代表者ニ委託候同御諒承被下度候

昭和七年七月二十五日

刑餘者復格促進會代表團體(代表委員肥名調印)

理由書

大正十四年第五十議會ニ於テ衆議院議員選舉改正法律案上程ノ際司法保護事業ノ任ニアル本會々員ノ立場トシテ六年以上ノ處刑者ニ對シテ六年未滿ノ處刑者ト何様選舉權ヲ附與セラルベキヲ待望シタルニ審議ノ結果ハ之レト全ク相反シ六年未滿ノ刑餘者ニ與ヘテ其ノ資格ヲ認メザルニ至リシコトハ甚ダ遺憾ニ堪ヘズ吾等ハ本改正選舉法ノ未ダ實施セラレザルニ先テ之レガ改正時期スベク大正十四年五月東京ニ開カレタル第七回全國社會事業大會ニ於テ千八百餘名ノ社會事業家等テ本法當該條項改正ノ必要ヲ認ムルニ一致シ其ノ實現方法ノ研究ヲ中央社會事業協會ニ一任セリ越ヘテ同年十月全國司法保護事業團體七百有餘ノ代表者相會シ本選舉法ノ實施ニ依リテ刑餘者ノ蒙ムル痛苦ト延イテ及ボス公安上ノ脅威トナシ其ノ目的達成ノ爲メ普通法改正期成同盟會(大正十五年十月本名ノ如ク刑餘者復格促進會ト改稱ス)ヲ組織シ之レニ據リテ實行運動ヲ開始シ本部ヲ東京市ニ置キテ同年十一月三十日內務、司法兩大臣ニ之レヲ陳情シ更ニ一方當時ノ第五十一議會ニ於テ有改正法律案ノ提出ヲ促スベク賤院ノ内外ニ互リテ運動ヲ進メ一路本目的ノ達成ニ努力ヲ續ケ來レリ本會ノ主張ハ幸ニシテ一般社會ノ容認スル處トナリ第五十一、第五十二ノ兩議

會ニ於テ議院提出案トシテ上程セラレタルモ遺憾ナガラ會期利ストコロ多カラザリシ爲メ兩議會共委員會ニ於テ審議未了ニ終レリ又一面全國ヲ通ジ本會ト志ヲ同フシ刑餘者ニ對シテ多大ノ同情ヲ有スル人々等數千乃至數萬ノ名ヲ連ネ各議會ニ於テ貴衆兩院ニ請願スル等只其ノ必成時期ヲ今日ニ到リタルモ尙ホ未ダ願望ヲ實キ得ザルハ吾等ノ深ク遺憾トスルトコロナリ

政府ハ幸ニシテ次ノ通常議會ニ於テ衆議院議員選舉法改正ヲ企圖シ該法案ニ就キテ法制審議會ニ諮問セラル此ノ機會ニ於テ本會ガ多年要請シ來レル衆議院選舉法中第六條第一項第五號ト第六號トノ刑餘者資格ニ關スル條項全部削除ノ窮望ヲ達シムベク審議答申セラレンコトヲ懇願ス

抑モ一旦罪過ヲ犯シタル者ト雖其大多數ハ國家行刑ノ教化ニ浴シ其ノ罪ヲ悔ヒ改悟遷善正業ニ從事シ漸クニシテ更新復活ノ第一步ニ立チ或ハ爾後數年乃至十數年ニ亙ル努力ニ憑マレ立派ナル社會人トシテ相當地位ヲ有スル者モ尠カラズ然ルニ彼等ハ選舉法ノ規定ニ依リ其氏名ノ選舉人名簿上ニ登錄ナキガ爲メ前科ノ事實ヲ社會ニ暴露スルト同様ノ結果ニ立チ至リ爲メニ悲慘ノ境遇ニ轉落スル者全國ヲ通ジテ少クトモ十幾萬人ノ多キニ上ルベシ此レ等ノ人々ハ遂ニ一家ノ崩壞ヲ破リ燒燬四隣ノ交リヲ斷チ社會共同ノ存立ヲ塞グナルノ餘儀ナキニ至リ遂ニ自暴自棄ノ末自カラ一身ヲ亡ボスニ至レル事實亦少カラズ夫レ斯ノ如ク營々府々トシテ榮キアゲル生活ノ基礎ト社會的地位トヲ根柢ヨリ覆没シ延イテハ一家ヲ離散破滅ニ導クニ至ル

然ルニ此レ等生キタル事實ノ世間ニ公表ヲ見ルコト少キ所以ノモノハ當該地位ニ假カレル其人ハ自ら苦境ヲ訴フルハ即チ利餘者タルコトヲ告白スルニ外ナラズ之レヲ深ク耻ヂ且ツ恐レテ只管縮服スルコトニノミ心ヲ砕キ暗ヨリ暗ニ自己一身ヲ埋没シ去ルノ方途ヲ擇ブガ爲メナリ斯クノ如キハ實ニ同情ニ値スルハ勿論國民協和ノ上ニ看過シ難キ重大事ナリ本會ハ今茲ニ最モ力強ク此點ヲ委員各位ニ訴ヘ御同情ト御諒解トヲ請フテ已マザルモノナリ

舊選舉法施行當時ニアリテハ六年未滿ノ利ニ處セラレシモノハ罪實ノ如何ヲ問ハズ其利終了ト共ニ選舉被選舉資格ヲ附與セラレ但シ六年以上ノ利ヲ受ケタル者ハ復權ニ依ルノ外終身選舉被選舉資格ヲ喪失セルナリ然ルニ所謂普通選舉ノ標榜ノ下ニ選舉資格ノ擴大セラレシ現行法ニ於テハ六年以上ノ利ニ處セラレシ者ハ再選トシ六年未滿ノ利ニ處セラレタル者ハ其ノ大部分ガ利餘五年間乃至其利期ノ二倍ノ期間選舉資格ヲ停止セラレ六年未滿ノ利ヲ終リシ者ガ選舉資格ヲ與ヘラレタル過去ニ於テハ寧ロ今日ノ如ク選舉外ノ汚濁ヲ叫バレシコトナク利餘者ニ依リテ投票セラレシ選良モ敢テ恥テ感セシコトナシ然ルニ現行選舉法實施モラレ利餘者ニ選舉資格ヲ與ヘナバ選舉ノ神聖ヲ汚損スルモノノ如ク認メラルル現時ニ於テ選舉ニ關スル不正行爲ハ隨所ニ行ハレ選舉事犯ノ益々顯出スル結果遂ニ之レガ肅正ノ必要ヲ唱ヘラルルハ以テ利餘者ノ參加不參加ガ選舉界ノ清濁ニ全然無關係ナルコトヲ立證シテ餘リアルナリ凡ソ社會的進歩ノ進念ヨリテ

犯罪ノ行爲者ヲ兼テ排除スルコトハ一應之レヲ承認スベキモ既ニ法ノ制裁ニ服シ罪過ノ賠償ヲ了シ更ニ改心自悔ノ念ヲ有スル者モ尙ホ兼テ排除セントスルハ同ジク社會的進歩ニ背反スルモノト言ハザル可ラズ或ハ恐ルル社會的進歩心ノ低下若クハ微弱ハ選舉界ノ汚濁ヲ招來スル因由タラザルナキカチ更ニ又御考察ヲ請フベキコトハ現行選舉法ノ利餘者資格條項中利法第二編第四章ノ罪ヲ犯シ云々ト明ニ限定シアル此ノ一事ナリ本法ニ言フ利法トハ明治四十年法律第四十五號ヲ指定シタルモノト見ルハ當然ナリ果シテ然ラバ其ノ他ノ刑事諸罰則法規——即チ利法ニアラザル幾多罰則法規ニシテ選舉法ニ定メタルヨリ以上ノ重賈ニシテ法定ノ刑期ニ於テモ重大ナリト認ムル犯罪アルコトハ此ノママ附却セラレザル者ナリ正シキ法ノ解釋ハ右利法以外ノ法令ニ據ル處罰者ニ對シテハ選舉法ニ示シタル利法ノ罪ニアラザルノ故ヲ以テ當然缺格者ニアラズトノ結論ヲ見ルベキヲ至當トナス現行選舉法立案ノ當時内務省當局ノ示サレタル特別法除外即チ利法ノミニ止メタル理由書ナルモノヲ見ルニ

利法第二編ノ罪以外ニ於テ特別法ノ定ムル罪ニシテ選舉法第六條第六號ニ掲ゲル罪ニ其ノ性質類似スルモノ少カラズト雖モ特ニ之レ等ノ罪ヲ犯シタル者ヲ掲ゲル所以ノモノハ選舉法ハ各種ノ犯罪中特ニ重賈ナリト認ムベキ重ナル犯罪ニ就キ特別ナル規定ヲ設ケタルモノナルガ假令其ノ性質ニ於テ類似スルモノト雖モ利法第二編ニ掲ゲル以外ノモノハ一切之レヲ除外シ一統六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ利ニ處セラレ

タル者ト區別スルヲ適當ト認ム但シ特別法ノ定ムル犯罪中第六條第六號ニ掲グルモノト同貫ノモノヲ細
 羅セントスレバ其ノ種類多數ニシテ複雑ニ失シ一面ニ於テハ選舉資格者ナリヤ否カノ認定ハ市町村長ニ
 於テ之レヲ爲スモノナルガ故ニ資格者ノ要件ハ成ルベク簡單明瞭ナルコトヲ必要トシ複雑多岐ニシテ其
 ノ判斷ニ付キ特別ノ知識ヲ必要トスルガ如キモノヲ掲グルハ適當ト稱シ難キガ故ナリ
 トアルモ斯クノ如キハ絕對ニ首肯スル能ハズ彼ノ軍機保護法ノ如キ陸海軍刑法ノ如キ乃至朝鮮、臺灣ニ行
 ハルル訓令又ハ律令ニ依ル刑事令(公布ノ形式ニ於テ刑法ト同一ナラズ)和議法、破産法ノ如キ重大犯罪
 モアリ又更ニ下リテハ森林法ノ規定ニ依ル物盜犯ノ如キ之レヲ閉却シテ只單ニ市町村長ノ知識ヲ以テ判斷
 ニ著シムガ如キ云々ノ一事由ノ下ニ手續ヲ付ケ去ラント試ミシ事ハ何トシテモ重大過誤ナリト斷ズル
 ニ俾ラズ夫レ斯クノ如クシテ憲法附屬ノ大法典タル選舉法ノ上ニ此ノ委其ノママヲ殘存シ置クコトハ立憲
 政治國ノ重大汚點ナリト見ラレルモ辯明ノ辭ナク之レガ是正ニ歸スル理由尙モアルコトナリ此ノ點ヨリ
 見ルモ當該條項ノ削除又ハ改正ヲ緊要トスル理由最モ明白ニアラズキ此ノ一事特ニ委員各位ノ御深慮ヲ煩
 ハス爲メ本會ノ調査ヲ得タル本問題關係ノ冊子ヲ添付ス御參考ニ値セバ幸ナリ
 選舉法ノ如キ大法典ノ改正ハ之レヲ屢々スベカラザルハ不敏ナル吾等ニ於テモ之ヲ知ル然ルニ動機ハ別
 ニ存スルモ今次其ノ改正ヲ企畫セラルル所カハ絶好ノ機會ニ於テ本件改正ノ要望ヲ容レラレ以テ此ノ大法典

ノ完整ヲ成就セラレンコトヲ切望シテ已マズ願レバ曩ニ本會ノ要請シタル缺格條項削除ノ件が當時ノ衆議
 院ニ上程ノ際時ノ政府要路者並ニ議員中本法が實施後日尙ホ淺キ今日此ノ事項ノミニ改正ヲ加フルコトハ
 朝令暮改ノ譏リナシトセズ他日其ノ他ノ條項ニ互リ改正ヲ必要トスル機會ノ到來ヲ待テ之レト併セテ改正
 スルモ敢テ選リトセザルベシトノ言實ヲ與ヘラレタルコト今尙ホ吾等ノ記憶ニ存ス今同ハ實ニ得難キ無二
 ノ機會ニシテ若シ之レヲ逸シ去ランカ又幾年ノ後ニ斯カル機會ノ到來スベキカヲ測リ得ザルナリ委員各位
 ニ於カレ今次期シテ本會多年ノ宿願採用ノ上利餘者缺格條項削除ヲ加ヘテ改正案ヲラシメラレンコトヲ
 懇願スル所以ナリ近時新聞紙上傳フル如クシテ今次ノ改正立案ニ當リ内務、司法兩省當局ノ略ホ一致シタ
 ル意見トシテ選舉資格ヲ更ニ擴張シ年齡ノ低下、不在投票ノ範圍擴大等ヲ始メトシ選舉法ハ破産者ノ資格
 ナ容認シ貧困ニ依リ公私ノ扶助ヲ受ケタル者ニマナ之レヲ及ボス等アラユル程度ニ資格ヲ擴メントスルニ拘
 ラズ只獨リ六年未滿ノ利ヲ受ケタル利餘者ニ對シテ僅ニ五年ノ停止期間ヲ三年ニ短縮シタル程度ニ止メ依
 然トシテ制限ヲ加ヘ六年以上ノ利ヲ受ケタル者ニハ否認ノ範圍ヨリ一步モ踏出シ得ザラシムルノ一案アリ
 ト云フ是レ實ニ吾等ノ甚大ナル遺憾ヲ覺ユル所ニシテ他ノ缺格者ニ寬ナルハ吾等モ異議ナキ所ナルガ獨リ
 利餘者ニ對シテノミ僅々殆ド實フニ足ラザル程度ノ緩和ニ止マリ彼等ヲ施若ノ境遇ニ置クコト依然舊ルハ
 何ノ必要アルヤチ知ルニ若シム斯ノ如ク資格制限若シクハ差別觀念ヲ以テ利餘者ニ臨ムモノトモバ之レ即

ナ現行刑法ニ豫見セザル追加刑罰ヲ科スルニ外ナラズ議員選舉法ニ於テ國民ニ新刑罰ヲ施スコトハ果シテ當テ得タリト首フベキ乎若シ夫レ選舉神聖主義ヲ尊重スル點ヨリ見レバ實質的直接犯行即チ選舉事犯者ヲ防止スル爲メ之レヲ犯ス者ニ對シテハ懲罰ヲ加味シタル相當長期間ノ資格停止ヲ規定スルヲ至當トスベキモ一般他ノ刑ニ處セラレタル者ヲ刑後ニ制裁セントスルハ全然意義ヲナサザルナリ要ハ前述ノ如ク有ラユル程度ニマテ資格擴張斷行セラルル此機會ニ際シ獨リ刑餘者ノモチ取り殘サレ、コトナク共ニ俱ニ其ノ絕對機會ノ恩典ニ均當セシメラレシコトヲ冀フニ外ナラズ

上來條達セシ本會陳情ノ趣旨ニ照察テ垂ラレテ幸ニ吾等ノ願意ノ容レラレルヲ得バ是レニ依リテ全國幾十萬ノ當該刑餘者ハ救ハレ是レニ依リテ彼等ヲ將來更生復活ノ希望ニ多大ノ勇氣ヲ附與スルコトトナルヘク他面マテ國民思想ノ甚シク尖鋭化シ來リテ動モスレバ反社會的行動ニ出テントスル傾向ノ最モ顯著ナル此際立法者ガ窮苦ニ泣ク刑餘者ノ爲メニ法律改善ノ温キ手ノ加ヘラレ、コトニ依リ一般國民思想ノ善導ヲ期シ得ベク延イテハ選舉界真正ノ實モ亦擧ゲ得ラレベキヲ信ズ

理由書中ニ在ル冊子ハ此處ニ載録セズ

以上

第十二 本會行動ノ實行委員團體名及代表氏名

刑餘者復格促進會ノ委囑ヲ受ケテ爾來今日ニ至ルマテ實行ノ術ニ當リ又今後本目的達成ニ至ルマデ其任ニ當ルベキ保護團體名及其代表氏名左ノ如シ

東京府

- | | |
|-------------|------|
| 眞哉會常務理事 | 富井隆信 |
| 自立會常務理事 | 武田憲宏 |
| 曹洞宗報効會常務理事 | 平塚良明 |
| 東京佛教慈善會常務理事 | 秋庭正道 |
| 東京興仁會常務理事 | 梅本龍海 |
| 安立國常務理事 | 土倉是空 |
| 齊修會常務理事 | 加藤專精 |
| 同朋館保護部主事 | 伊藤眞諦 |

日蓮宗慈濟會常務理事
兩全會常務理事
同 理事
神奈川縣
橫濱修道會理事
神奈川縣佛教慈善會會長
小田原少年團常務理事

本良英龍
藤井惠照
岩崎潔治
大村慶心
田中海勇
竹ヶ鼻尙友

三〇

因ニ本會ノ行動繼續八年ニ及ベル爲メ此間ニ於テ以上各團體各幹部中移動アリタル場合其後任者之ニ當リタルガ以上ハ昭和七年十一月現在ヲ以テ記述セリ尙ホ議會及本年七月以來續行セル法制審議會ニ對シテ行動ヲ起シタル際乃至從來各方面ニ亘リ多數ヲ要スル場合ニ當リテハ主トシテ

- 大島寬爾
- 吉田綱紀
- 埼玉自強會會長
- 川越就實園常務理事
- 埼玉縣
- 大村慶心
- 田中海勇
- 竹ヶ鼻尙友

東京各團體名ノ職員全部ノ出動ヲ求メテ總動員ノ熱烈運動ヲ試ミタルコト數次而シテ以上團體ノ指名ニ依リ平素ニ於テ會務ノ處理並ニ行動計畫ノ必要上右ノ内本會幹事トシテ武田慧宏、藤井惠照、秋庭正道、本良英龍、梅本龍海、岩崎潔治ノ六氏之ニ當リ又本行動ニシテ政治的國內ニ入ル場合右委員中公職ヲ帶ベル關係上差控ヘテ要スルモノトシテ公職者以外ノ理事者專ラ其行動ニ從事セリ

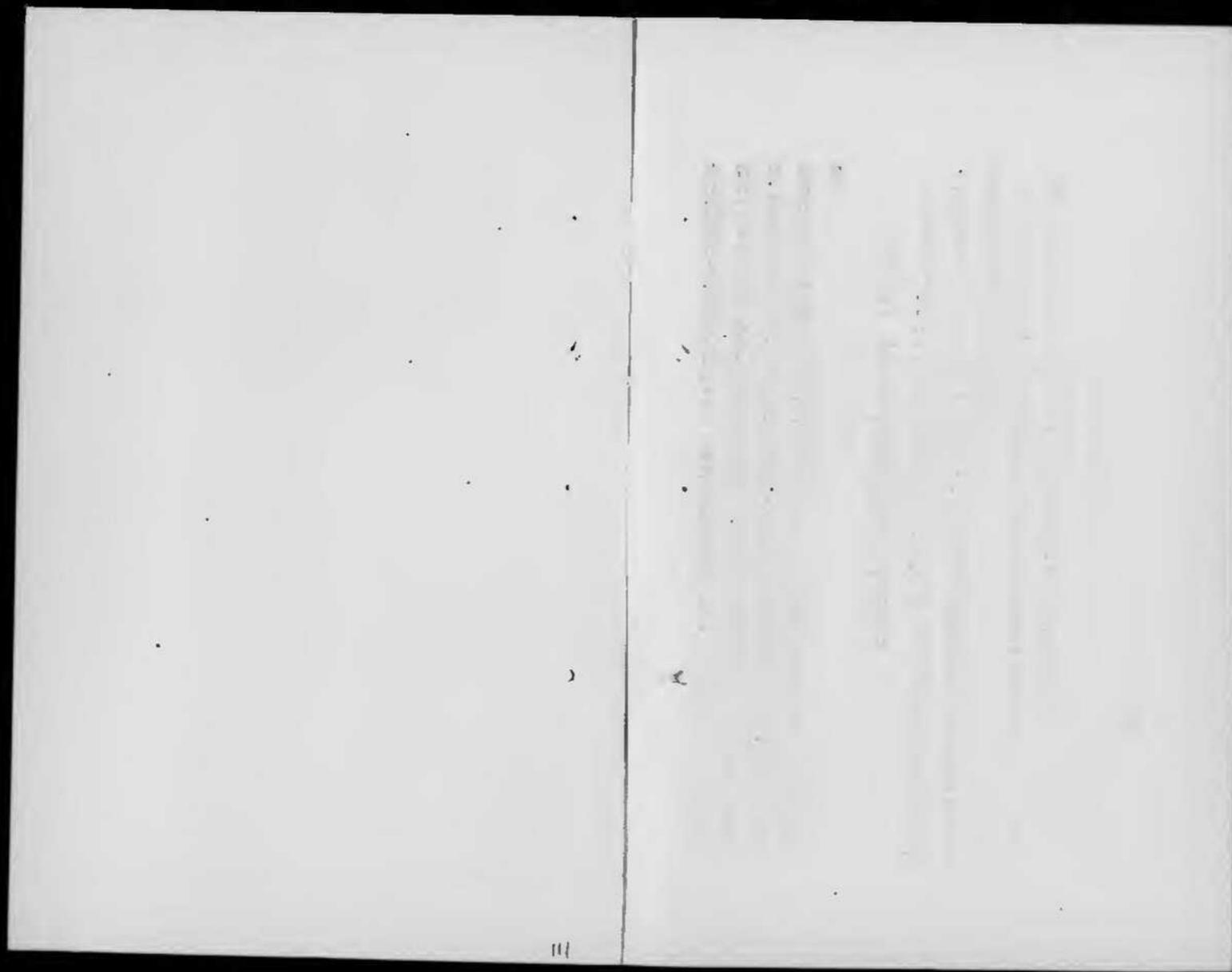
第十三 本會ノ會務處理並ニ本會所在

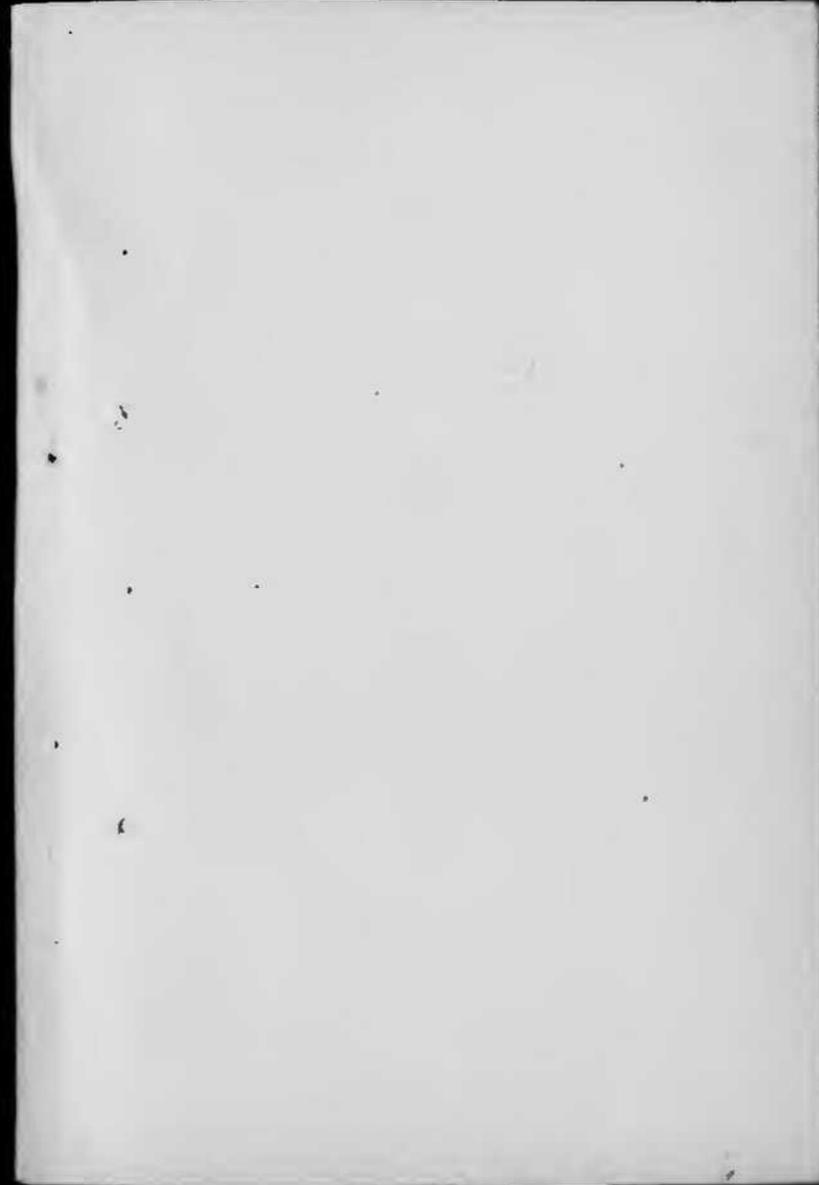
本會事務所ハ東京市小石川區大塚坂下町七十四番地自立會内ニ置キ行動計畫ニ對スル協議及平素ノ會務報告並ニ行合セ等ハ毎月一回開カル、一府二縣保護事業研究會開催ノ都度之ヲ行フ等努メテ經費ノ節約及集會ノ簡便化ヲ考慮ニ置キタリ

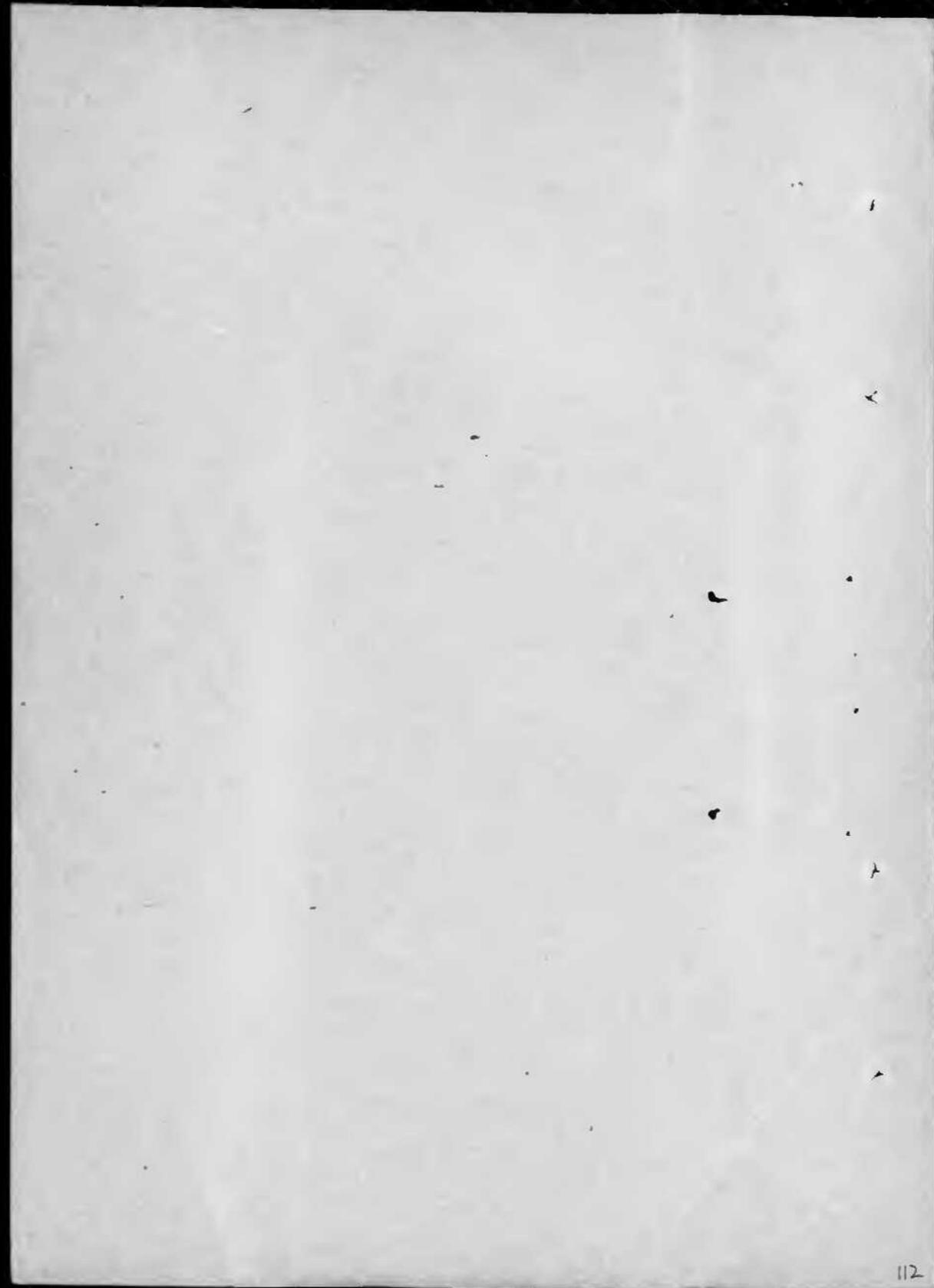
終リニ臨ミ本行動ニ對シ常ニ輔成會職員各位ノ指導ヲ得又當時幾多ノ便宜ヲ與ヘラレタル爲メ會務ノ進行上蒙ムルトコロ多カリシコトヲ本報告ヲ認ムルニ際シ之ヲ特記ス

以上









裏面白紙

昭七京地五号

昭七二二三

裏面あり

113

省及受付月日 台議局號及受

第	第	第	第	第	第
送受	送受	送受	送受	送受	送受
月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日



大臣

次官

地方局長

主査

内務事務長

案起 昭和六年十一月十三日 付局受 月第 日號 局送 月 日

多
月
日

京
部
林
野
部
一
書

象議院議決送参区々周々件回答

地方局長

原案
伏

理直

(12)

(12)

(12)

昭七ノ二ノ三

施行 一月 八日 某村

主査 月 第 日 號 局 送 月 日

内務事務局

1-1

地方官長

閣下之件回答

原案ニ反計

書記官

伏見区及右京区ニ於テ、京都市第一区ニ屬スルモノヲ

理也 (一) 原案ハ此等四區全ニ第一区及今第一区ノ性質ヲ誤解セルモノトス

(二) 京都市ノ区域ヲ以テ、京都市第一区、区域ナリトスルハ、區界

伏見区ノ性質ニ對シテ、立行精申ニ照ラシテ明白ナル事實ニシテ

一、京都市ノ区域ガ兩區界區(井田區)ノ区域ト認ムルハ、地界

動在ナク、予想マシクナリ

(三) 又五區ノ如ク併スルハ、結果、前テ其外區界ヲ欠ク、例

一、京都市内ノ區ノ構成方々又、軍ニ對シテ、時期ニ手加減ヲ

加ふるニ依リ、區界トシテ、區界トシテ、行ハニ至ルベシ、且レ行政

機ノ濫用ヲ醸成スルモノナリ

(四) 京都市ノ隣接町村合係、場合ト例ハ、名古池市ノ隣接町村合係ノ

場合トシテ、因リ、區界區ノ區域ノ界勢ニ依リ、結合ヲ異ニスルモノ

ト所スベシ、實情ニノ理由ナリ

日	月	第	第	第
送	送	送	送	送
受	受	受	受	受
月	月	月	月	月
日	日	日	日	日

十月一日 官立第一八二師 西野分標記ノ件
 以見込ノ物下存ス

(一) 坂書
 一三三
 運出
 限リ
 包
 構
 成
 (二) 伏見
 第一
 倉
 (三) 外
 又
 倉
 十

符箋ニ對スル意見

地方官

- (一) 故書記官符箋ニテハ伏見区及右京区ハ當然京都府管下ニシテ一區ニ係ルモノトシテモ選舉法ハ選舉ニ關スル區域ヲ初メ選舉ニ關スル一切ノ規定ニ於テ東京京都及大阪ノ三市ニ限リ其ノ一ノミヲ認メ別ニ市ヲ認メズ從テ本件京都市ノ包括スル區域ニ於テハ選舉ニ關スル區域ニ付テハ獨リ其ノ一ノ構成如何ニ依リテ問題ヲ解決スルノ外ナキト明瞭ナリ
- (二) 伏見右京ノ西區ハ其ノ新ニ置カレタル區トシテ以テ施行令第一條ニ依リ其ノ設置前原ニシテ一都ニ係スル選舉區ニ包含スルモノト認當スト解スルハ當然ナリト信ス
- (三) 又符箋ハ京都市ノ區域カ西區選舉區ニ跨ルカ如キハ豫志外ナリト云フモ右ノ如ク行選舉法カ東京京都大阪ノ三市

裏面あり

理由

伏見市外二十ヶ町村ヲ其ノ區域ヲ京都府ニ編入シ
 タルハ象徴院議院ヲ遊學法ヲ百甲ノ面條ノ二カニ項ニ所謂
 「其ノ區域ノ境界ニ歩リテ市町ノ境界ノ變更アリタルトキ」
 之ヲ力クシテ案件多ク引リ延滞多ク爲ルニ爲ルニシテ
 ル區域中一葛野郡(十ヶ町ヲ編入) 愛宕郡(五ヶ町ヲ編入)
 宇治郡(二ヶ町ヲ編入)ハ各京都府ニ編入ノ限リ其ノ其ノ
 区域少クシテタルモノト看做サレバ伊豫ハ消滅スルニ由リ
 タルモノト人而シテ新ニ提出セラレタル京都府ノ區域ニ付
 テハ^{京都府}遊學法ハ市町界亦條ノ市ニ限リ然ラズ其ノ^{京都府}區^{京都府}域^{京都府}以^{京都府}テ遊
 學法上ノ地域的單位ト爲セリ以テ京都府市ヲ於テハ
 市内ノ区カ如何ニ構成セラルヤニ依リ遊學法上ニ構成向
 物ヲ決スルカ見(カ)テ人而シテ上ノ多ク在テ左京區 東山區 又

ト市界ノ有クハ其ノ境界変更アリタルノミナリテ別段
疑義ヲ存スル又市界及伏見ノ市界ハ何レモ全面新
設置セラルル所ニシテ別段議院議決ニ依リテ今更
一修メ所謂「市界」掲示以外ノ市界ニ諸市及之ヲ修
以上市界ハ其ノ設置法ニ依リテ別段ノ議決ニ依リテ
今更ニ修メタルニ依リテ包含スル所ト認ム

第5号

6.11-6
/56

京 5 11

六庶第一八八二號

昭和六年十一月六日

京 都 府 知

内務省 地 方 局 長 殿

衆議院議員選舉區ニ關スル件

本府ニ於テハ本年四月一日伏見市外二十六箇町村ヲ廢シテ其ノ區
 域ヲ京都市ニ編入シ之ニ伴フ市ノ區ノ設置及境界變更ノ件別紙ノ
 通施行致候處右市ニ編入ノ地域カ衆議院議員選舉法別表ニ定ムル
 選舉區ノ何レニ包含スルヤニ付テハ上京區、左京區、東山區及下
 京區ノ如キ既設ノ區ニ分屬セシメタル地域ニ在リテハ衆議院議員
 選舉法第四百四十四條ノ二第二項ノ規定ニ依リ第一區選舉區ニ屬ス
 ルコト明ナルモ新ニ置キタル右京區及伏見區ノ地域ハ衆議院議員

京 都 府

裏面白紙

裏面白紙

京
都
府

選舉法施行令第一條ノ規定ニヨリ其ノ設置前屬タル郡市ノ屬ス
ル選舉區即チ第二區選舉區ニ包含スルモノト解シ可然故至急何分
ノ御回示相煩度
右相伺候也

(別記)

東京都直接市町村編入ニ伴フ區ノ設置及境界変更
上京區

上京區ノ境界ヲ変更シ愛宕郡上買茂村、大宮村、
鷹峰村ノ地域ヲ編入ス

左京區

左京區ノ境界ヲ変更シ愛宕郡修学院村、松ヶ崎村
ノ地域ヲ編入ス

東山區

東山區ノ境界ヲ変更シ宇治郡山科所ノ地域ヲ編
入ス

下京區

京 都 府

下京區ノ境界ヲ変更シ紀伊郡吉祥院村、上鳥羽
村ノ地域ヲ編入ス

右京區

葛野郡花園村、西院村、右秦村、梅ヶ畑村、
嵯峨所、梅津村、京極村、松尾村、栂村、

川岡村ノ地域ヲ以テ新ニ右京區ヲ置テ
伏見区

伏見市、紀伊郡井田村、深草所、堀内村

下鳥羽村、横大路村、洞所村、白鳥村、宇治

郡醍醐村ノ地域ヲ以テ新ニ伏見区ヲ置テ

裏面あり

選舉法

第四百十四條ノニ 本法中郡又ハ島廳管内ト
アルハ従前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域
ヲ謂フ

従前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域内ニ於
テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境
界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルト
キハ其ノ區域モ亦自ラ變更シタルモノト看
做ス

従前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界
ニ涉リテ町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ
本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬スルヤ區域ハ
内務大臣之ヲ定ム

内務省

第百四十五條第二項

市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ関スル規定ハ區ニ市長ニ関スル規定ハ區長ニ市役所ニ関スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

別表

京都府

第一區		第二區	
上京區	下京區	宇治郡	久世郡
	五人		三人
愛宕郡	葛野郡	綴喜郡	相樂郡
乙訓郡	紀伊郡	南桑田郡	北桑田郡

めくれず

裏面白紙

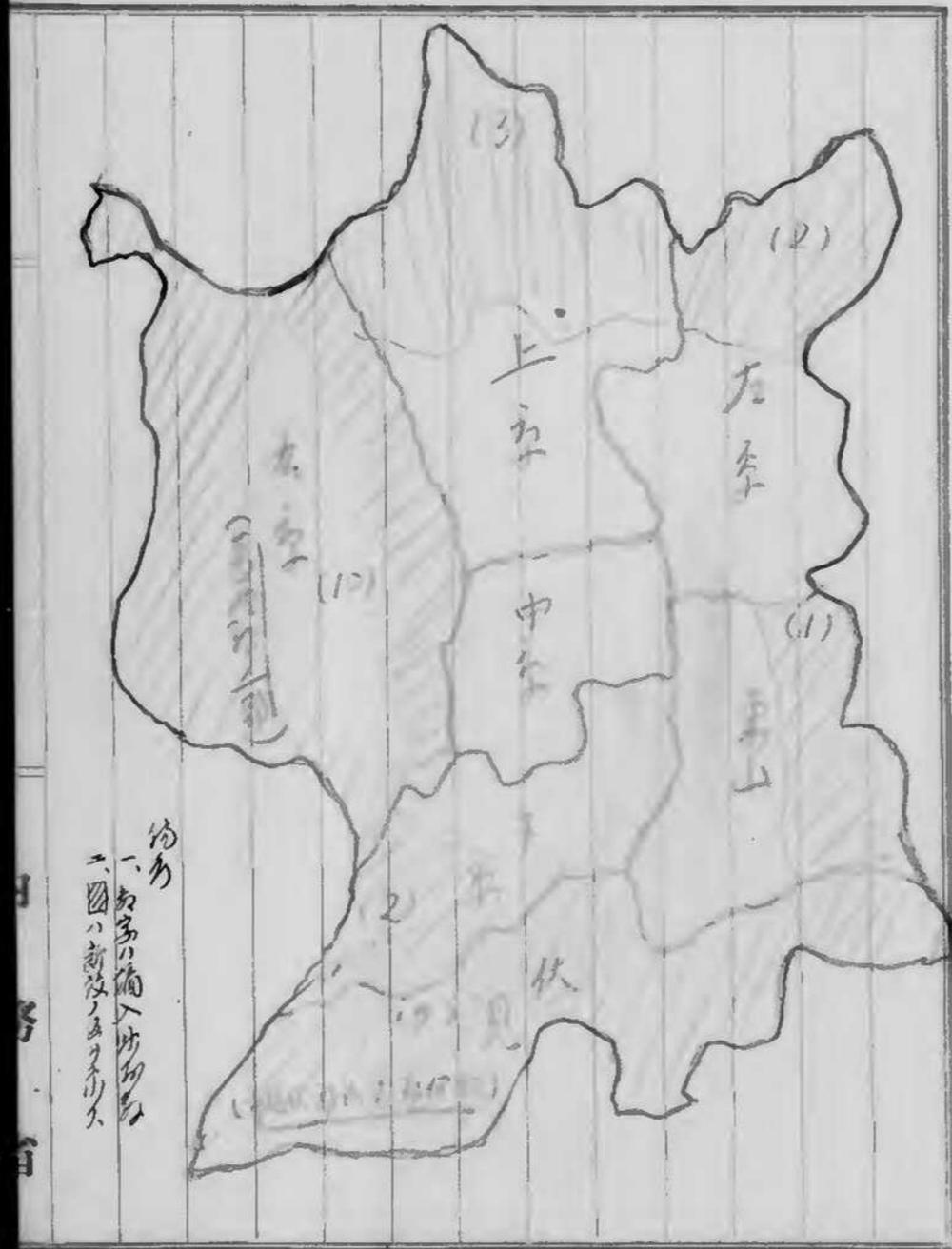
第三區						
船井郡	天田郡	何康郡	加佐郡	興謝郡	中郡	竹野郡
				三人		

衆議院議員選舉法施行令

第一條

衆議院議員選舉法ノ別表ニ掲グルル以
外ノ市ハ其ノ設置前屬シタル郡市ノ屬スル
選舉區ニ包含スルモノトス

{ 京 都 市 昭 示 圖 }



約力
 一、町界の補入は勿論
 二、圖の新設はより不
 詳

裏面白紙

京都市地図

121

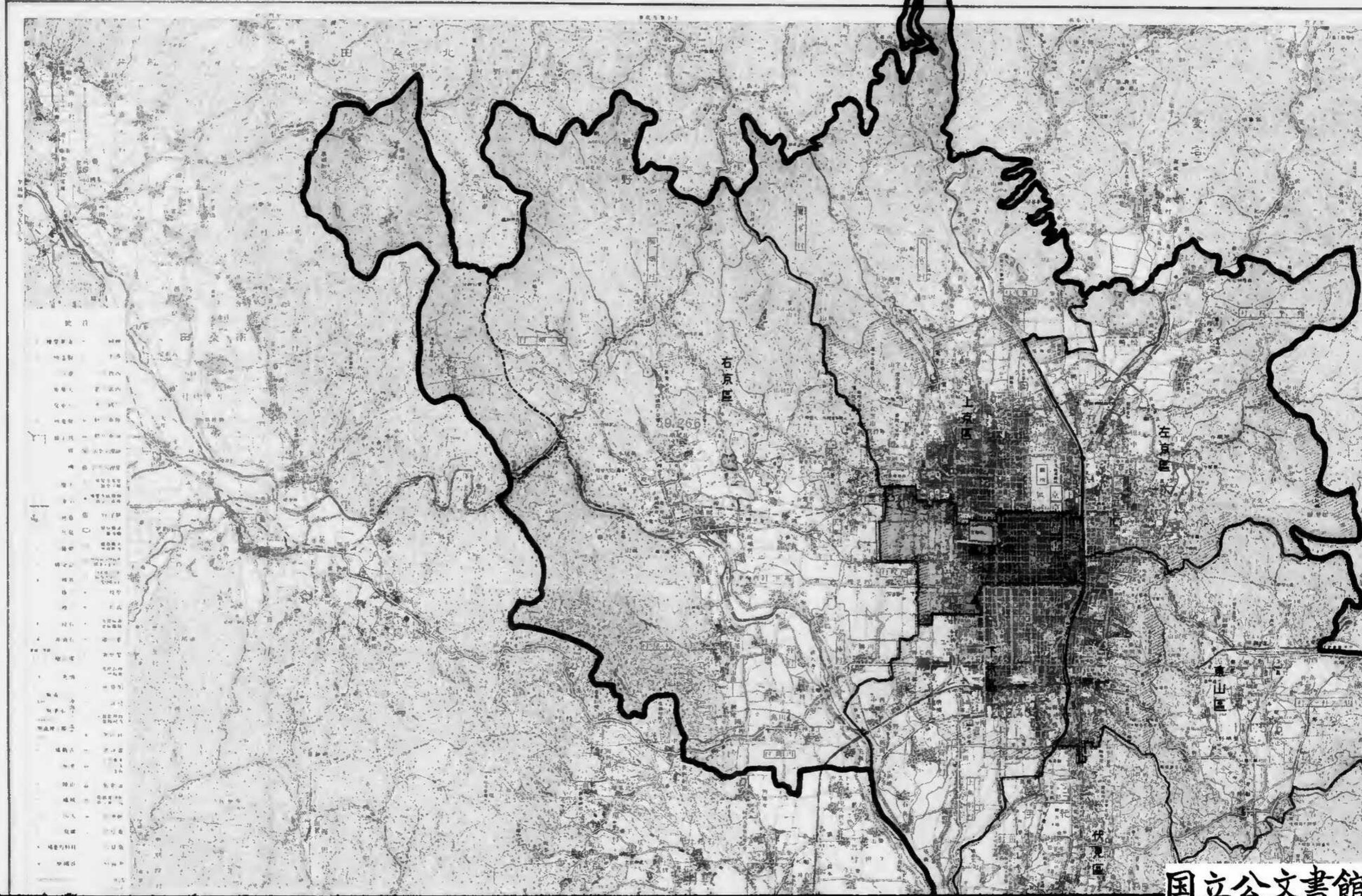
東京市麴町區大手町一丁目二番地

省 務 内

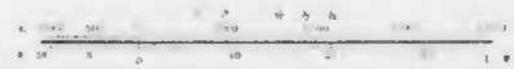
電話番號 (代表丸ノ内) 四二二三番 (10)
(二二二番)
通文局 (係) (代表丸ノ内) 四二二三番 (9)

夜間直通 巡視詰所丸ノ内四二二三番
電信取扱所丸ノ内四二二三番
文書課宿直丸ノ内四二二三番
警候局圖書課宿直丸ノ内四二二〇番

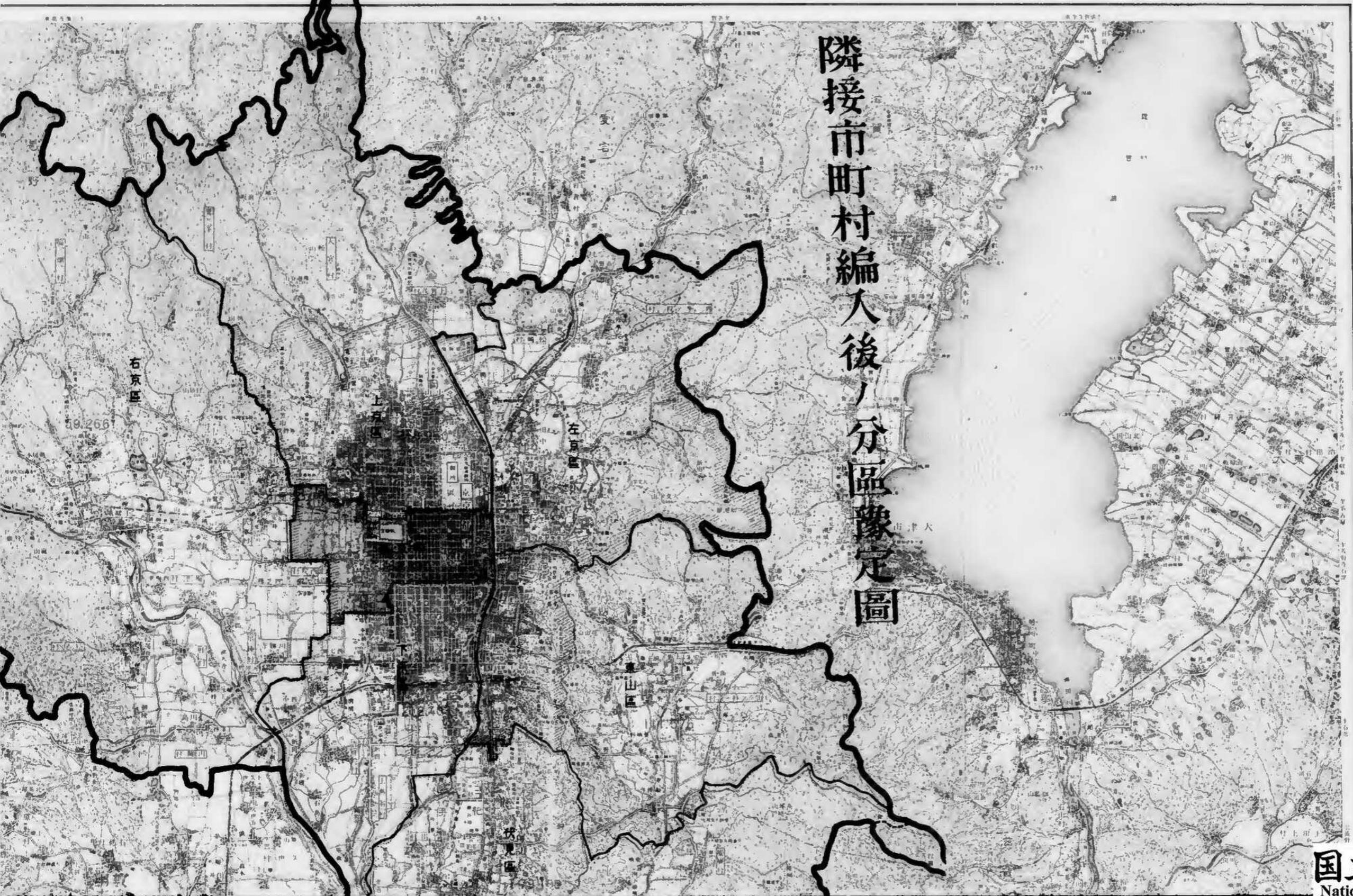
京 都 近 郊

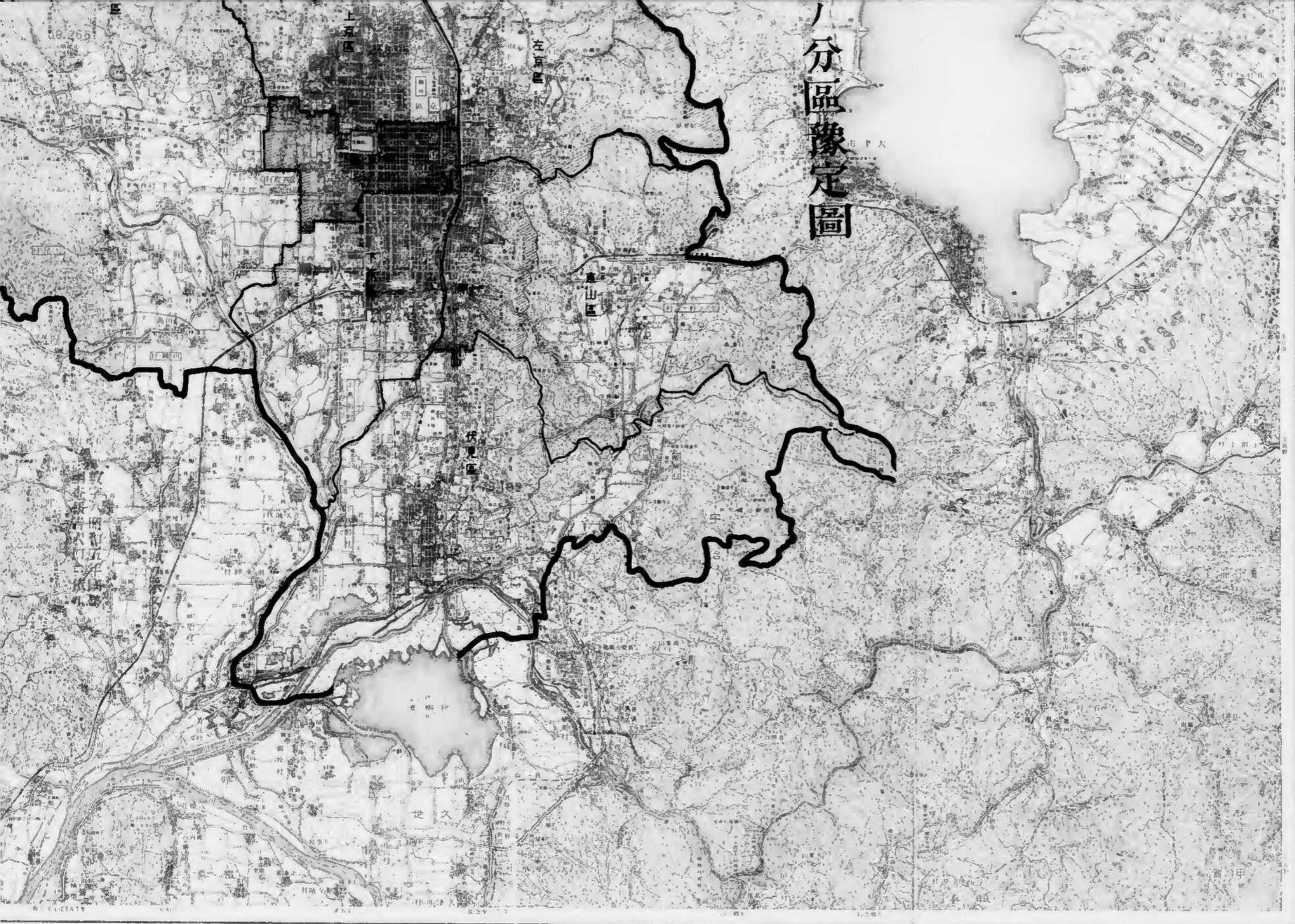


京 都 近 郊



隣接市町村編入後ノ分區豫定圖





八分區豫定圖

裏面白紙



裏面白紙

1 : 25

電 譯

十一月廿六日 庶務課 八二號 同 家 議 院 議 決 送 参 事
件 同 一 高 見 一 度 更 十 二

(十一月二十七日)

京 都 府 庁 庶 務 課

紙 達 送 報 電 用 省 務 内

事 記	信着	付受	號番	局 信 發	數字	類種
	午後	午後	5	4	1	官報
	時	二時五	分	ト	字	
			分	局		

定指	人 信 受
7 2カ 2イ 入 一	4
ト 1カ 7 入 一	キ
7 7 2ウ 二 7	ヨ
4 2イ キ 7	シ
4 2イ ヨ 7	シ
ウ ト 7 7	シ
ト 出 1 7	シ
7 1 7 7	シ
4 4 7 7	シ
4 4 7 7	シ

番着	號
7 2カ 2イ 入 一	4
ト 1カ 7 入 一	キ
7 7 2ウ 二 7	ヨ
4 2イ キ 7	シ
4 2イ ヨ 7	シ
ウ ト 7 7	シ
ト 出 1 7	シ
7 1 7 7	シ
4 4 7 7	シ
4 4 7 7	シ



裏面白紙

日	第	第
日	號	號
送	受	送
受	送	受
月	月	月
月	月	月
日	日	日
日	日	日

[Large empty rectangular area with vertical lines, likely a placeholder for a drawing or a large block of text.]

ナキ
 引
 折
 込
 申
 付
 アリ
 タレ



裏面白紙

合議局號及							省及受付年月日	
第	第	第	第	第	第	第		
號	號	號	號	號	號	號		
送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受		
月	月	月	月	月	月	月		
日	日	日	日	日	日	日		
							案起 昭和七年六月十七日 付局受 月第 日號 局送 月 日	
							大臣 次官 地方局長 主査 行政課長 内務課長官	
							案 年月日 京都府知事宛 地方局長	
							貴族院多額納税者議員選舉ニ関スル件	

京 37
6

昭七
京地第...
昭七...

乙

決付

六月十三日

文書課長

施行

六月十三日

裏面あり

6-24

日		月	
第	第	第	第
號	號	號	號
送受	送受	送受	送受
月	月	月	月
日	日	日	日

標記ノ件ニ関シ本月十五日七度第九六五號ヲ以テ
 御照會有之候處第一項即見込ノ通第二項ニ
 就テハ互選規則第一條第二項ノ「其ノ財産ニ付被
 相續人ノ爲シタル納税」ニハ相續シタル土地ニ對スル
 地租ノミナラス該土地ヨリ生スル所得ニ付^{納税}所得税代
 家ノ所得ニ對スル所得税ヲモ包含スルモノト存ス

理由

裏面あり

第一項 信託土地ノ利益ニ付受益者ノ納ムル第三種所得税ハ右受益者カ個人ナル場合所得税法第三條ノニニヨリ土地ニ付納ムル所得税トシテ納税資格ニ算入スヘキモノト信ス蓋シ同條ハ右所得ニ付受益者カ信託財産(土地)ヲ有スルモノト看做シテ所得税ヲ賦課シタレハナリ 貸家(營利ヲ目的トシ繼續的ニ貸貸スルモノ)ノ信託利益ニ付受益者タル個人ノ納ムル第三種所得税ハ受益者タル個人カ自ら營利行為ヲナスモノニ非ナレテ以テ商業ニ付納ムル所得税トシテ納税資格ニ算入スヘキモノニ非スト解ス

第二項 互選規則第一條第二項ノ其ノ財産ニ付被相続人ノ爲シタル納税ニ付テハ相續シタル土地ニ

對スル地租ト該土地ヨリ生スル所得ニ付納ムル所得税
相續ニタル貸家（營利ヲ目的トシ繼續的ニ貸貸スルモノ）
ノ所得ニ對スル所得税トノ間ニ區別ヲ認ムヘキ理由
無キモノト信ス

伺

右決定ノ上ハ各地方長官宛左記通牒相成可然哉

案

年月日

地方局長

各地方長官宛（除京都府知事）

貴族院多額納税者議員選舉ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ甲號京都府知事照會ニ對シ乙號ノ
地方局長ヨリ回答候條爲御參考

記

甲號(京都府知事照會)

乙號(地方局長回答)

寫 添付ノコト

裏面白紙

参考

○所得税法第三條ノ二第一項

信託財産ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者ノ信託財産ヲ有スルモノト看做シテ所得税ヲ賦課ス但シ本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ爲ス貸付信託ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

○貴族院多額納税者議員互選規則第一條第二項

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納税ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納税ト看做ス

(右件甘久、象漢、渡邊、各遺囑承継法(旧法)大正十一年三月三十一日法律第二十號)

以テ十月迄ノ引当金ノ金割)

大正十五年五月三日 茨城縣 兼事照會ニ付シ同年五月八日地方局長田原、ノ答何アリ)

京地附
 7.6.17
 第92號

京 37
 12 6 23

七庶第九上五號

昭和七年六月十五日

京 都 府 知 事

内務省 地 方 局 長 殿

貴族院多額納稅者議員選舉ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記事項差懸リ疑義有之候ニ付至急何分ノ御回示相煩度

記

一 信託土地ニ對スル地租ハ受託者ノ納稅トシ之ガ利益ニ付受託者ノ納ムル第三種所得稅ハ右受益者ガ個人ナル場合土地ニ付納ムル所得稅トシテ納稅資格ニ算入スベキ義ト存ズルモ貸家(營利ヲ目的トシ繼續的ニ賃貸スルモノ)ノ信託利益ニ付受益者タル個人ノ納ムル第三種所得稅ハ商業ニ付納ムル所得稅トシテ納稅資格ニ算入スベキモノニ非ズト解シ可然哉

京 都 府



裏面白紙

裏面白紙

京 都 府

二 互選規則第一條第二項ノ「其ノ財産ニ付被相続人ノ爲シタル
納税」トハ相續シタル土地ニ對スル地租ノミ之ニ該當シ該土
地ヨリ生スル所得ニ付納ムル所得税、相續シタル貸家（營利
ヲ目的トシ繼續的ニ賃貸スルモノ）ノ所得ニ對スル所得税等
ハ包含セズト解シ可然哉

受 及 號 局 議 合						日 月 付 受 及 號 省	
第 一 號	第 二 號	第 三 號	第 四 號	第 五 號	第 六 號	第 七 號	第 八 號
送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日

59
9/21

昭七京地
第五九号

昭和七年八月二十二日 付局受 月第 日號 局送 月 日

大臣

地方局長

次官

審査委員

案

年月日

京都市知事宛

地方局長

貴族院多額納税者議員選舉ニ関スル件回答

昭七、九三

裏面あり

第	第	第
送	送	送
月	月	月
日	日	日

標記、件ニ関シ、勅月十七日七度第一、二七五號
 ヲ以テ、即照會相成候處、左記ニ依リ、御了知
 相成度

記

第一項 名簿調製期日後ニ於ケル失格ノ事由タル
 納税額ノ減少ハ、税法ニ依リ賦課徴収ノ實
 際ニヨルヘキモノトス

第二項 名簿調製期日後ニ於ケル税額ノ減少ニ依リ
 失格ニ投票ヲ爲スコトヲ得サルハ、其ハ減少後ノ納
 税額ノ互選人中納税額ノ最優者ノ名簿調製期日後
 選舉ノ當日迄ニ追加申告、異議申立、減額
 更正等納税資格ヲ追加スル處分、決定アリ

タル協会の更正額ニ基キ新ニ立選ル資格者二百人
ヲ定メ其ノ二百人自ラ者ノ選舉當日ニ於テ
補稅額ヨリ減サセラルトス

内務省

裏面白紙

裏面あり

理由

本案及對說ハ

貴族院令第六條ニ北海道各府縣ニ於テ土地
 或ハ工業、商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者
 トハ「多額ノ資産ヲ有スル者」ノ謂ニシテ、其ノ者ノ中ヨリ
 一定ノ數ヲ限リ互選ニ參與セシムル趣旨ナリト解セル
 而シテ納稅額ヲ基準トシタルハ之ヲ資産ノ多寡ヨリ
 檢覈シ其ノ多額ニ有スルモノヲ決定スルニカカリ調
 査テ方法トシテ稅額ヲ採用シタル外ナラザルモノト思考
 セラル。故ニ本件ノ如ク土地又ハ家屋ヲ賣却シ或ハ
 營業ヲ廢止、讓渡若ハ法人組織ニ変更シタル場
 合ハ之ニ伴フ所得又ハ收益ハ必然的ニ減少シ、同時
 ニ其ノ減少所得及收益ニ對スル納稅義務モ亦喪ズ

至ルハ以論ヲ俟タス、然ルニ現行所得税法及共營業收益
税法ハ納稅義務ノ得喪時期ヲ考慮スルコトナクシテ
單ニ其ノ年内ニ於ケル所得若ハ收益ヲ査定シ課稅
セラルルカ故ニ税金モ亦期間的區分ナク當該年分ノ税金
トシテ徵收セラルヲ以テ恰モ繼續セル一ト年分(一月百ヨリ計
未日迄間計)
ナラシムルノ税金ナルカ如シト雖課稅ヲ受クルハ固ヨリ土
地又ハ家屋ノ所有或ハ共營業行為ヲ為スコトニ因リテノミ
存シ單ニ徵稅ノ便宜上又ハ課稅ノ衡平上採用セラレタル
年稅制度ノ故ヲ以テ賣却又ハ廢止等課稅原因
ナキニ至リタル以後ニ於テモ尚且互送規則第一條ニ定
ムル仍引續キ納稅スル者ナリト謂フヲ得ス、故ニ貴
族院令第六條本旨ニ鑑ミルト共ニ納稅義務中斷
又ハ消滅ノ事實ニ徵シテ資産ノ實體カ減少シタルモノニ

裏面あり

付テハ之ニ對スル 税類モ亦減額ニ計算スルハ當トス。
ト謂フニ在レトモ

互選資格ニ多類ノ直接團税ヲ納ムル者トシテ税類ヲ
採用シタル上ハ、其ノ者ノ資産ノ實體ニ如何ナルニ變更
アリトスルモ之ヲ問フノ必要ナク税法ニ定ムル納税額ニ
據ル外ナキモトス。而シテ所得税法及營業收益税
法、地租ノ場合ト異リ當該年内ニ於テ一定額ノ所得
又ハ收益アリト査定シタルトキハ、其ノ所得又ハ收益ヲ對
照トシテ賦課徴收シ、特ニ分ノ以上ノ減損アリテ之カ
更正ノ申請アリタル場合更正スルコト外ハ、所得原
因又ハ營業行為カ一ケ年間間断ナク繼續セリヤ否ヤ
問ハサルニ付、本件ノ場合ニ於テモ亦故ラニ税法ニ據ラザル
計算ノ方法ヲ採ルコトヲ得ス。從テ名簿調製期日後

ニ於ケル失格事由タル納税額ニ亦税法ニ據ル賦課
徴收ノ實際額ニ依ル外ナキモノト存ス。

文書部印

裏面白紙

(参照)

貴族院令

第六條 満三十歳以上ノ男子ニシテ北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者百人ノ中ヨリ一人又ハ二百人中ヨリ二人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ニ七箇年ノ任期ヲ以テ議員之ニシ、其選擧ニ關スル規則ハ別勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

中貴族院多額納稅者議員互選規則

第一條 貴族院令第六條ノ規定ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ互選人名簿調査ノ期日迄引續キ一年間北海道又ハ各府縣ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ引續キ住居シ及納稅スル者之ニシ。

七座第一二七五第

昭和七年八月十七日

京都府知事 奇藤宗直



内務省 地方司長 殿

貴族院多額納税者議員選舉ニ関スル件
標記ノ件ニ関シ左記事項差懸リ疑義有之
候條至急何分ノ御回答相煩度

京都府

118



— 京 都 府 —

一 互選人名簿調製期日後ニ於ケル失格ノ事由タル納税額ノ減少ハ税法ニ依ル賦課徴收ノ實際ト異ナルモ左記ニ依リ失格ノ有無ヲ定ムベキヤ

① 土地又ハ貸家(其ノ所得税ヲ納税資格ニ算入セルモノ)ヲ賣却シタルトキハ該所得ニ對スル所得税モ減額ス(税法ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ控除シタル所得額ヲ減税標準トシ且所得額ニ分ノ一以上減損ノ場合ニ非ザレバ更訂マズ)

② 營業ヲ廢業又ハ會社組織ニ変更シタルトキハ該營業ニ對スル營業收益税及所得税ノ金額ヲ減額ス(税法ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ控除シタル純益ノ課税標準トシ且廢業ニ依リ純益ニ分ノ一以上減損ノ場合ノ更訂スルモ營業繼續ノ場合ハ減損更訂ノ適用ナシ)

京 都 府

二 名簿調製期日後ニ於ケル税額ノ減少ニ依リ失格シ投票ヲ為スコトヲ得ザルハ其ノ減少後ノ納税額(昭和七年分)ガ互選人ヲラザル者(名簿調製期日後選舉ノ當日迄ニ追加申告、異議申立、減損更訂等納税資格が喪及スル處分ノ決定アリタル場合ハ更訂額ニ基キ新ニ互選資格者二百人ノ定メ其ノ二百一人目ノ者)ノ「名簿調製期日迄引續キ一年以上納ムル額」ヨリ減少セル場合ナリヤ

昭七
神地第十一號

昭和七年三月

3
乙
行政課長
昭七 年 二月 四日

地方局長
行政課長
内務事務官

大臣
次官
文書課長

案

年 月 日
地方局長

神谷川縣知事宛

投票ノ效力法定ニ同件四卷

一月三十日一地秘收第10號ノ以テ印紙合有
一 標記ノ件ハ投票ノ效力法定ニ付用票合



裏面あり

日	月
第	第
第	第
第	第
第	第
第	第

人ニ好ク見ルヲ表セオレトシテ
 明言シタルトキハ用票
 管班者限リ決定シ其ノ者用票録ニ記載シ置テ
 外ナリ否ノ中ニ恊念ニ好クハ事變發生ノ都度其
 一具作的事變ニ付判定ス外無之我ト存スル

裏面白紙

理由

現行選舉法ハ投票ノ效力ハ所定者所謂當選者ニ在リ
 其ノ用票之會人ノ意見ヲ聽キ用票者既若ク之ヲ法定
 之ノ制ヲ採ルニ用票之會人ニ於テ何等意見ヲ表示セザル
 事ハ之ニ處スヘキ途キヲ用票之會人ニ於テ未ダ見
 表セザル事ヲ明セシムルハ當選者限リニテ法定外
 カルニキ之在ラザル事也然レ用票者既若ク之ヲ法定外
 外ニ於テ亦其ノ事實發生ノ都度其ノ具體的事實發生
 判定之ノ外トキ裁ト得ル

衆議院議員選挙法（抜）
第六十一条 投票ノ順序ハ同票立合人ノ意見ヲ聽キ
投票ノ管理者之ヲ決定ス（ニ）

裏面白紙

七號秘收第四〇號

昭和七年一月三十日

神奈川縣知事

内務省地方局長殿

投票ノ效力決定ニ關スル件

衆議院議員選舉投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ開票管理者之ヲ決定スルノ規定ニ有之候處開票立會人ニ於テ意見ヲ表示セズ若ハ意見ノ決定ニ長時間ヲ費シ故意ニ開票事務ノ進行ヲ妨クルト認メラル、場合ニハ其ノ意見ノ表示ヲ待タス開票管理者ニ於テ之ヲ決定シ開票録ニ其旨記載シ置クコトニ取扱ヒ差支無之故至急何分ノ御回示相成度

神奈川縣廳

71. 22
至急
18 2 10

七地秘收第四〇號

昭和七年二月三日

神奈川縣知



内務省 地方局長 殿

投票ノ效力決定ニ關スル件

一月三十日七秘收第四〇號ヲ以テ及御限會權候標記ノ件右ハ左ノ如キ實
例有之候ニ付至急付付ノ御回示相煩度

記

其開票區ニ於テ假投票（表議院議員選舉法施行令第三十四條第四項ニ依
ルモノ）ノ受理如何ヲ決定スルニ際リ開票立會人ノ意見ヲ聽キタルニ同
立會人八名中五名ハ之ヲ受理スヘシトノ意見ヲ有シ他ノ三名ハ之ヲ受理

神奈川縣

スヘカラストノ意見アリ而シテ開票管理者ハ之ヲ受理スヘカラストモ
ト決定シタリ（事由 特別投票管理者ハ投票用封筒ニ氏名ヲ記シタル印
ヲ押シ捺印セルモ右ハ衆議院議員選舉法施行令第三十二條第一項ノ署名
ナキニ由ル）依テ受理スヘシトノ意見ヲ表示シタル立會人中一名ハ開票
管理者カ此ノ如キ決定ヲ爲スニ於テハ吾々立會人ハ大ニ考慮スルノ要ア
リト爲シ殘餘ノ投票ハ全部自己ノ前ニ罷投シテ何等意見ノ表示ヲ爲サス
只考慮中ト稱シテ徒ニ時間ヲ空費シ開票事務ニ頗ル支障ヲ生シタリ



裏面白紙

昭七神地

地濟

乙丙 神地才二三號

一六号 十月十九日

昭七ノ一〇ノ二ノ

日月付受及警局管主

送受及號局議合

第	第	第	第	第	第	第	第
號	號	號	號	號	號	號	號
送	送	送	送	送	送	送	送
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日

昭和×年十月五日

次官

地方局長

行政課長

審査委員

文書課長

年月日

地方局長

昭七ノ一〇ノ二ノ
 審査委員
 文書課長
 地方局長
 行政課長
 次官

10 - 31

裏面白紙

146

裏面白紙

理由

本刷所百多十条カ云云及町所刷所百多十条カ云云ハ「告示ノ日
ヨリ之ヲ起シテ其ノ下見ノ起ル日ヲ告示ノ日ト明記シ人ニ任テハ其ノ日
ヨリ起シテ其ノ下見ノ起ル日ト明記シ人ニ任テハ其ノ日
ヨリ起シテ其ノ下見ノ起ル日ト明記シ人ニ任テハ其ノ日
ヨリ起シテ其ノ下見ノ起ル日ト明記シ人ニ任テハ其ノ日

裏面あり

市制

第百六十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ為スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ為スヘシ

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケザル者ニ関シテハ前ニ項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

異議ノ申立ニ関スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テ之ヲ宥恕スヘキ事由アリト認めルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

明治三十二年
三月二十日
四月二十日

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ為シ其ノ理由ヲ附シ之
ヲ申立人ニ交付スヘレ
異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行
政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要
ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第百四十條
第百四十條
第百四十條
第百四十條

町村制

第百四十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ為スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ為スヘシ

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ関シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

異議ノ申立ニ関スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テ之宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

裏面あり

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之
ヲ申立人ニ交付スヘシ
異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セズ但シ行
政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要
ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

裏面あり

○縣參事會ノ裁決取消請求ノ訴(昭和六年第二百七十九號
昭和六年十月六日第三部裁決)

○裁決要旨

一 法定ノ出訴期間ヲ經過シタル行政訴訟ハ之ヲ却下ス
ハキエノトス

青森縣上北郡天間林村大字天間館字十枝内三
十一番地

原告

十枝内市太郎

右原告ヨリ青森縣參事會青森縣知事守屋磨瑤夫ヲ被告
トシテ提起シタル昭和六年第二七九號參事會ノ裁決取
消請求ノ訴訟狀ニ就キ審査シ裁決スルコト左ノ如シ

主 文

本訴ハ之ヲ却下ス
事實及理由

本訴ノ要旨ハ昭和六年一月十五日執行ノ青森縣上北郡
天間林村會議員選舉ニ於ケル當選ノ效力ニ関スル中村
勉次郎ノ訴願ニ付被告力同年八月十一日附テ以テ原告
ノ當選ヲ無効トスル旨ノ裁決ヲ為シタルハ不當ナルヲ
以テ同裁決ヲ取消ス旨ノ判決ヲ求ムト謂フニ在ルモ田
村會議員ノ當選ノ效力ニ関スル行政訴訟ハ府縣選舉會
ノ裁決書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ告示ノ日ヨリ
起算シ三十日以内ニ提起スヘキモノナルコトハ町村制
第四百十條第三項ノ定ケル所ナリ而シテ本件裁決書ノ
告示アリタル昭和六年八月十八日ノ翌日ヨリ起算シ前
示三十日ニ原告ノ住居地ヨリ當裁判所所在地ニ至ル距
離百八十里餘ニ對シ行政裁判法第二十二條第二項ニヨ
リ民事訴訟法第五百十八條第二項ヲ適用シ二十三日ノ

裏面白紙

附加期間ヲ附與ストスルニ右五十三日ノ出訴期間ハ同
年十月十日ヲ以テ滿了スヘク從テ同月十三日ノ提起ニ
係ル本訴ハ法定ノ出訴期間ヲ經過シタル不合法ノモノ
ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條第一項ニ依リ之ヲ却
下スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク裁決ス

(昭和六年七月六日第三部 裁判長三宅評定官、島村評定官、村上
評定官、福山評定官、山口評定官、安部書記)

行政裁判例

町村制ヲ用テ四ノ條ヲ三項ニ定メ其ノ旨ハ前同ノ教書ノ交付
ノ案ケル者ニ同シテハ裁教法ノ公布セラレタル日ノ翌日ヨリ
云々起算スルモノトス (大正十年一五ノ號同年十月十日教書)

裏面白紙

神地局

内務省地方局
7.9.28
第213號



行

116
10 28

七法 第三五五號

昭和七年九月三日

神奈川縣知事

水務局地方官



(本件ニ關スル照復ニハ必ス本署發給地目附揚記アリキ)

孫長子會澤清次諸件照復、仰一
標記、仰一、其之九廿二日此与第一八号ヲ以テ、予到第百
六十条第一項、規定ニ依リ、許預地起點了、起業以二付
出、地有之川、不同規定ニ、其之廿八号、其、日、仰一、
承業乃、才、新設新、利、其、一、項、之、解、釈、上、仰、疑
案、初、生、小、系、何、分、一、所、同、系、相、續、法、以、一、所、以、子

裏面白紙

月 送 受 及 號 局 議 合									日 月 付 受 及 號 局 管 主
第	第	第	第	第	第	第	第	第	神 池 局 一 心
號	號	號	號	號	號	號	號	號	
送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	
月 月	月 月	月 月	月 月	月 月	月 月	月 月	月 月	月 月	
<p> 案 起 昭 和 × 年 八 月 三 十 日 施 行 9 月 2 日 主任 地方局長 行政課長 年 月 日 地方局長 縣令會議決諸件報告1件 神奈川縣知事宛 八月十四日×庶第三五五號ノ學印報告有之標記1 件中秋山三郎1部能行心裁決書依し心所付 </p>									

丙

裏面あり

第	第
號	號
送	送
受	受
月	月
日	日

制第百甲年才三路一批准意ハ法定書ノ交付ヲ受ケテ
 此者ノ軒銘擬起相同一起算日ハ告下アリタル日ノ翌日ヨ
 リ起算スル由見解ノ釋易受ケルハ慶元ノ同條同
 政ニ告下ノ日ヨリ之ヲ起算スル明揚ニアルニ付テハ其ノ日ヨリ
 起算スル元符時未由症言相成度

